

科目名	日本美術史（1美デ）		開講学年	1	講義コード	1670101	区分	選択		
英文表記	History of Japanese Art		開講期	集中	開講形態	遠隔	単位数	4		
担当教員	関根浩子（常勤） 中村玲（非常勤）									
研究室	芸術学部 非常勤講師室				オフィス 授業時間前後の非常勤講師室、月 アワー 曜5限					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	日本美術 仏教 浮世絵 キリシタン遺物									
授業概要	<p>(前期分)先史時代から中世の日本の美術と文化を概観し、基本的な流れや様式の変遷を理解する。美術作品の画像や映像を鑑賞し、歴史的、文化的な事情を踏まえたうえで、それらの作品があらわれた背景や造形的な特質について学んでいく。また、当時の美術作品と、私たちが生きる現代社会との関わりなどについても検討していきたい。(後期分)近世に入ると、美術は上層の権力者のためのものから市井の人々を包括するものへと裾野が広がった。それに伴い美術の形式も多様化し、様式も時勢を反映して目まぐるしく展開していくこととなる。とくに「制作者」と「享受者」の関係性がより近くなったという点は、近世以降の日本美術に多大な影響を及ぼしたといえる。本講義では、日本における様式変遷とその背景を各時代の代表的な美術作品を通して概観するとともに、日本美術の特質についてその諸相を検討する。また作家たちがどのような姿勢で作品制作に向かっていたのかに注目することで、東洋、西洋、近現代の美術と文化にも理解を広げ、鑑賞にとどまらない制作のヒントを得るためのアプローチについても考えていきたい。なお、フィードバックとして、次回の講義の冒頭等で適宜補足説明を行う。</p>						関連科目			
							日本東洋美術史、美術概論、西洋美術史、考古学と文化財Ⅰ、考古学と文化財Ⅱなど			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	時代による様式の変遷を理解することができる。								
	②	おのおのの時代の美術の特徴を把握することができる。								
	③	日本美術の代表的な作品・作家についての知識を身につけることができる。								
	④	日本美術についての基礎的な知識を鑑賞の際に役立てることができる								
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	45	45	0	0	0	0	10	0	100	
教科書	授業の中で指示する。 毎回資料を配布する。									
参考書	すぐわかる日本の絵画 東京美術 守屋正彦 日本美術館 小学館 青柳正規、他 カラー版 日本美術史 美術出版社 辻惟雄監修									

予備知識	<p>図書館などで美術全集などの書籍を閲覧し、基礎知識を取得しておくことが望ましい。本講義は、美術史に関する演習や特論を受講する上での基礎科目であり、受講後は関心をもった分野について、より深い理解につなげるための自主的な学びの継続が期待される。</p>
DPとの関連	<p>本講義は、日本美術に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とするものである。そのため美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な力を身につけることができる。加えて、各時代の社会における美術の役割についても総合的に修得できることを目指すため、ひいては現代の課題を発見・解決する能力を涵養することでできるだろう。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>①時代による様式の変遷を理解する ②おのおのの時代の美術の特徴を把握する ③日本美術の代表的な作品・作家についての知識を身につける ④日本美術についての基礎的な知識を鑑賞の際に役立てることができる</p>

毎回パワーポイントによるスライドを使用するため、必要に応じて筆記すること。試験は授業プリントの持ち込み可なので、適宜メモをとり内容の理解に努めること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃（ひょうせつ）は、不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イントロダクション・先史時代の美術	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	日本美術史という学問や、授業の進め方等について説明を行う。縄文時代から弥生時代の美術を概観する。	講義		
2回	テーマ	古墳壁画と副葬品	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	主に九州地方に所在する古墳を中心に、権力者を祀るために描かれた壁画や、さまざまな副葬品について紹介する。	講義		
3回	テーマ	仏教絵画と古代寺院	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	飛鳥時代に朝鮮半島から伝来した仏教絵画と、法隆寺などの古代寺院および伽藍について解説する。	講義		
4回	テーマ	正倉院宝物	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	奈良時代の聖武天皇の遺愛品であり、国際色豊かな正倉院宝物を鑑賞する。	講義		
5回	テーマ	密教美術	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	平安時代前期に、密教の展開とともに誕生した絵画、彫刻などについて説明する。	講義		
6回	テーマ	浄土教美術・垂迹美術	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	平安時代後期の浄土信仰に伴って生まれた美術を概観する。神像彫刻に代表される、垂迹美術について学習する。	講義		
7回	テーマ	王朝文化と物語絵	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	平安時代後期までにあられた、王朝文化を背景とした「源氏物語絵巻」のほか、さまざまな絵巻物について学ぶ。美術作品にさらに親しみを持ってもらうため、絵巻の複製品を用いた取り扱い実習も行う。	講義		
8回	テーマ	慶派の彫刻	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	鎌倉時代を代表する、蓮慶や快慶らの仏教彫刻について講義する。	講義		
9回	テーマ	肖像画	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	鎌倉時代の武家文化の台頭を背景に描かれた肖像画について紹介する。美術作品にさらに親しみを持ってもらうため、掛軸の複製品を用いた取り扱い実習も行う。	講義		
10回	テーマ	禅宗と水墨画	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	鎌倉時代に伝来した、禅宗に関するさまざまな美術、特に水墨画について解説する。	講義		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	土佐派とやまと絵	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	室町時代を中心に菅絃絵所を支配した土佐派によるやまと絵について講じる。	講義		
12回	テーマ	障壁画と城郭建築	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	安土桃山時代の天下人が好み、彼らの住まいを装飾した大画面の障壁画や、城郭建築の構造について紹介する。	講義		
13回	テーマ	狩野派	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	室町時代以降に活躍し、日本絵画史上、最大の流派となり御用絵師の頂点に立った狩野派について学ぶ。	講義		
14回	テーマ	戦国武将たちの装い・南蛮美術	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	安土桃山時代を中心に、戦国武将たちが戦の場で好んだ衣装や具足などの独特な造形を鑑賞する。ヨーロッパ文化の影響を受け、九州地方に大いに関連する南蛮美術について学ぶ。	講義		
15回	テーマ	まとめ・ディスカッション・試験	遠隔	配布するプリントを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	講義や実習のまとめを行う。これまでに学んだ日本美術についての興味や関心、魅力に関するディスカッションをし、試験を実施する。	講義		
16回	テーマ	イントロダクション 安土・桃山時代の美術	遠隔	アップしたテキスト・スライド資料を予習、復習する。	45
	内容	南蛮美術(西洋美術と南蛮美術の関係)	講義		
17回	テーマ	安土・桃山時代の美術	遠隔	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	キリシタン美術(西洋美術とキリシタン美術の関係)	講義		
18回	テーマ	江戸時代初期の美術Ⅰ	遠隔	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	天下人の造形(江戸時代初期の城郭・障壁画)	講義		
19回	テーマ	江戸時代初期の美術Ⅱ	遠隔	アップしたテキスト・スライド資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	天下人の造形(江戸時代初期の工芸)、古典と数寄	講義		
20回	テーマ	江戸時代初期の美術Ⅲ	遠隔	アップしたテキスト・スライド資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	都市の風俗(洛中洛外図、遊里と歌舞伎)	講義		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	江戸時代中期・後期の美術Ⅰ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	狩野派、堂上画派、琳派			
22回	テーマ	江戸時代中期・後期の美術Ⅱ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	文人画、写生画			
23回	テーマ	江戸時代の浮世絵Ⅰ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	浮世絵(前期)			
24回	テーマ	江戸時代の浮世絵Ⅱ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	浮世絵(中期)			
25回	テーマ	江戸時代の浮世絵Ⅲ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	浮世絵(江戸後期～明治初期)			
26回	テーマ	江戸時代中・後期～明治の工芸、生き人形	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	工芸(蒔絵、染色、陶磁器など)、松本喜三郎の生き人形など			
27回	テーマ	近代Ⅰ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	明治～天正期の日本画と日本画壇			
28回	テーマ	近代Ⅱ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して参考書を自主的に参照すること。	60
	内容	明治～天正期の日本の西洋画と西洋画壇			
29回	テーマ	現代Ⅰ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習・復習する。定期試験に備え、16回目以降の復習をする。	120
	内容	昭和初期から戦中、1950年頃まで			
30回	テーマ	現代Ⅱ	遠隔 講義	アップしたテキスト・スライドを予習・復習する。定期試験に備え、16回目以降の復習をする。	180
	内容	戦後の日本美術の多様な展開			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
31回	テーマ	定期試験			
	内容	後期分(16~30回)の試験			

科目名	西洋美術史(1美デ)				開講学年	1	講義コード	1670201	区分	選必	
英文表記	History of Western Art				開講期	通年	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術史 西洋絵画 芸術鑑賞										
授業概要	本講義はルネサンスから20世紀の西洋美術の歴史(動向)について、ルネサンス以降、西洋人にとって「美」となるものがどのように捉えられ、その造形美を生み出してきたか、その変遷を巡り、日本と東洋の動向をも比較しながら理解していく。また、芸術作品の中に潜む理念や概念、表現の傾向、作者の意図作風、さらにはその芸術作品が生み出された社会状況も考慮しながら、西洋美術の視覚イメージの諸相から世界のものの見方、考え方を読み解いていく。また、本講義の視覚的思考法を通じて汎用的な観察力・審美眼を養う。作品カード①②の結果を9の授業で、また夏休みの課題(展評・書評)については21の総括の際にフィードバックする。							関連科目			
								すべての芸術学部開講科目に関連する。教職課程科目(必修)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	各回の内容を通して、芸術に関する基礎的な知識・ものの見方・考え方を理解できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	45	0	15	0	15	10	15	100		
教科書	特に指定しない。										
参考書	アート&デザイン表現史1800s-2000s 左右社 松田行正 イメージを読むー美術史入門ー 筑摩書房 若桑みどり 美術を書く 東京美術 S.バーネット著/竹内順一監訳 補新装カラー版 西洋美術史 美術出版社 高階秀爾監修 反アート入門 幻冬社 樫木野衣										



予備知識	特になし。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席レポート(Webclass)、レポート類(展覧会レビュー(1点)、書評(2点)等で評価する。前期・後期各100点の平均を出してそれを成績とする。

通年の授業であるので、前期・後期を通じて受講しないと単位取得できません(履修登録は前期のみ)。単位取得の条件は①出席(出席レポート)3分の2以上②展評・書評を提出していること。対面授業とするが、新型コロナウイルス感染状況により遠隔授業に切り替える。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	総論	対面	1の配布資料の復習。	180
	内容	美術史とは?(第1、2回)			
2回	テーマ	美術史入門	対面	2の配布資料の復習。	90
	内容	美術史を記述する。(第3回)			
3回	テーマ	ものを見るとは1	対面	3の配布資料の復習。	180
	内容	視覚イメージを読むI(第4、5回)			
4回	テーマ	ものを見るとは2	対面	課題:木を簡略して描く。	180
	内容	視覚イメージを読むII(第6、7回)			
5回	テーマ	初期ルネサンス美術1	対面	5の配布資料の復習。作品カード作成①	180
	内容	建築・彫刻(第8、9回)			
6回	テーマ	初期ルネサンス美術2	対面	作品カード作成①	180
	内容	絵画(第10、11回)			
7回	テーマ	盛期ルネサンス美術	対面	7の配布資料の復習。作品カード作成②	180
	内容	建築・絵画・彫刻(第12、13回)			
8回	テーマ	マニエリスム	対面	8の配布資料の復習。	90
	内容	建築・絵画・彫刻(第14回)			
9回	テーマ	前期総括	対面	定期試験	90
	内容	前期定期試験(第15回)			
10回	テーマ	15世紀の北方美術・北方ルネサンス	対面	10の配布資料の復習。	180
	内容	建築・絵画・彫刻(第16、17回)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	バロック①	対面	11の配布資料の復習。	180
	内容	イタリヤ・オランダ（南ネーデルラント）（第18,19回）			
12回	テーマ	バロック②	対面	12の配布資料の復習。	180
	内容	オランダ・スペイン・フランス（イギリス・ドイツ）（第20,21回）			
13回	テーマ	ロココの美術	対面	13の配布資料の復習。	90
	内容	18世紀の美術（第22回）			
14回	テーマ	近代美術とは？	対面	14の配布資料の復習。	90
	内容	「神が死んだ」の巻（第23回）			
15回	テーマ	近代1	対面	15の配布資料の復習。	90
	内容	新古典主義と革命期の美術（第24回）			
16回	テーマ	近代2	対面	16の配布資料の復習。	90
	内容	ブレ・ロマン主義／ロマン主義（フランス）（第25回）			
17回	テーマ	近代2	対面	テーマ特集の復習。	180
	内容	テーマ特集：絵画と鉄道／ロマン主義（イギリスなど）（第26,27回）			
18回	テーマ	近代3	対面	18の配布資料の復習。	90
	内容	写実主義とその時代（第28回）			
19回	テーマ	近代4	対面	18の配布資料の復習。	90
	内容	写真の時代（第29回）			
20回	テーマ	近代5	対面	20の配布資料の復習。	90
	内容	印象主義・象徴主義・後期印象主義、そして世紀末芸術へ（第30回）			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
21回	テーマ	総括	対面	後期定期試験 目標到達レポート作成	90
	内容	後期定期試験(第31回)			

科目名	西洋彫刻論（1美デ）			開講学年	1	講義コード	1670401	区分	選択		
英文表記	History of Western Sculpture			開講期	後期	開講形態	遠隔	単位数	2		
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313					オフィス アワー 金曜3限					
メールアドレス	seki1963@art.soyo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻 西洋美術史										
授業概要	<p>本学科の人材育成の目標の一つ芸術・文化における多様な基礎的知識と教養を身に付けることがあるが、中でも本科目は教職を目指す学生の必修科目となっている。本科目では古代ギリシア・ローマから近代までの西洋彫刻の流れを代表的な作家や作例を挙げて解説しながら概説する。今年度も、古代ギリシアからバロックまでの彫刻の流れを代表的な作例や作家を挙げながら概説して基礎的知識を養うとともに、彫刻の主な展開場所であった建築についても基礎的な知識の習得や用語の習熟を目指す。さらに学生が美術教諭を目指すことを想定し、将来の鑑賞教育授業や制作活動の示唆になるよう、西洋彫刻と日本や東洋、現代の彫刻や建築、文化との関わりなどにも言及して理解を広げていきたい。さらに中間試験後、結果をフィードバックし、後半の授業や最終定期試験に備えられるようにする。</p>							関連科目			
								西洋美術史、美術領域論Ⅱ ほか			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	彫刻の様式の流れや様式の変遷と時代背景との関係が理解できるようになる。									
	②	時代を画するような彫刻家とその作品や技法が理解できるようになる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	35	40	0	0	0	0	10	15	100		
教科書	授業の中で配布する。										
参考書	世界美術大全集 第3～5、第7～13巻、15、16巻 小学館 大系世界の美術 第5、6、10、12～14、16巻 学習研究社 世界の彫刻 1000の偉業 二玄社 ジョゼフ・マンカ他 杉山昌夫訳 彫刻—その制作過程と原理— 中央公論美術出版社 ルドルフ・ワイトコウアー 池上忠治監訳										

予備知識	特になし
DPとの関連	造形活動や美術教育、芸術文化研究における専門家となり、人間社会の構築や発展に貢献できるように、基礎的知識を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	成績の評価は、小(中間)試験(35点)と定期試験(40点)、その他(15点)、ポートフォリオ(10点)によって行い、合計60点以上を合格とする。

中間試験と定期試験の両方を必ず受ける必要がある。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	古代	遠隔	1回目の配布資料の復習	40
	内容	オリエンテーション導入、古代ギリシアの彫刻	講義		
2回	テーマ	古代	遠隔	2回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/アルカイック	講義		
3回	テーマ	古代	遠隔	3回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/アルカイック～クラシック(厳格様式期)	講義		
4回	テーマ	古代	遠隔	4回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/クラシック(厳格様式期～盛期クラシック様式期)	講義		
5回	テーマ	古代	遠隔	5回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/盛期クラシック(バルテノン神殿)	講義		
6回	テーマ	古代	遠隔	6回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/後期クラシック	講義		
7回	テーマ	古代	遠隔	7回目の配布資料の復習	40
	内容	古代ギリシア/ヘレニズム彫刻	講義		
8回	テーマ	中間試験	遠隔	1～7回目の復習	180
	内容	古代ギリシア/ヘレニズム彫刻/中間試験	試験・講義		
9回	テーマ	中世	遠隔	フィードバックした点について再復習、8回目の配布資料の復習	40
	内容	中間試験のフィードバック/初期キリスト教美術における彫刻	講義		
10回	テーマ	中世	遠隔	9回目の配布資料の復習	40
	内容	ロマネスク彫刻	講義		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	中世	遠隔 講義	10回目の配布資料の復習	40
	内容	ゴシック彫刻			
12回	テーマ	ルネサンス	遠隔 講義	11回目の配布資料の復習	40
	内容	初期ルネサンス(ライオンツェ洗礼堂門扉ゴシック)			
13回	テーマ	ルネサンス	遠隔 講義	12回目の配布資料の復習	40
	内容	初期ルネサンスの彫刻家～ミケランジェロ			
14回	テーマ	盛期ルネサンス～バロック	遠隔 講義	13回の配布資料の復習	40
	内容	盛期ルネサンス～バロック(ミケランジェロとその追随者、バロックのベルニニーまで)			
15回	テーマ	近代フランス	遠隔 講義	14回の配布資料の復習、定期試験準備(9～15回の復習)	180
	内容	ロダンとガミーユ・クローデルの彫刻			

科目名	基礎デッサンⅠ(1美)				開講学年	1	講義コード	1670501	区分	選択	
英文表記	basic drawingⅠ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)										
研究室	L号館A104						オフィス アワー 火・放課後				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	空間、量感、線、面										
授業概要	<p>二次元空間の基本要素である点、線、面、またはその連続により生じる形体の持つ動勢、機能について考え、観察を通してその視覚表現の方法の可能性をデッサン・スケッチを通して探る。静物や人物に見出される緊張感や躍動感、バランスの美しさといった様々な美的要素をデッサンの量と枚数を通して追及することを目的とする。これは現代の幅広い美術活動の根とも言うべき、大切な勉強である。制作途中、随時互いに鑑賞する時間を持ち合い(講評会)、お互いの表現の意図・形体・色彩・材質感の理解を深める。このような一連のプロセスを辿ることで様々な分野で役立つような企画力、計画性、コミュニケーション力を養う。</p>							関連科目			
								基礎デッサンⅡ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	観察力を身に付けることができるようになる									
	②	画面の構図が理解できるようになる									
	③	明暗・陰影(調子)の理解ができるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	授業時にプリントを配布する										
参考書	授業時にプリントを配布する										

予備知識	1年必修科目全般
DPとの関連	<p>学びのキーワードは「対象をよく観る＝観察力の習得」である。対象を見つめることから発想を得、コンセプトを練り上げ、制作のための試行錯誤を繰り返えし、他者にわかりやすく魅力的に伝える為の表現力やプレゼンテーション力を鍛えることができる。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	課題毎の講評会及び作品の提出と出席

テーマにそった内容の講義を実習内に適時行い、テーマにつながる文献等を紹介し、実習外でそれらを補う学習法を指示する。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	観察による対象の理解	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
	内容	人体クロッキー(クロッキーブック鉛筆・ゴシテ) 2分・5分・10分(計20枚制作)			
2回	テーマ	観察による対象の理解	実習	解剖図の模写	240
	内容	人体クロッキー(クロッキーブック鉛筆・ゴシテ) 2分・5分・10分(計20枚制作)			
3回	テーマ	観察による対象の理解	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
	内容	手のデッサン(木炭紙) 中間評			
4回	テーマ	観察による対象の理解	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
	内容	手のデッサン(木炭紙)			
5回	テーマ	観察による対象の理解	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
	内容	手のデッサン(木炭紙) 講評			
6回	テーマ	観察による対象の理解	実習	手のクロッキー(エスキース)	240
	内容	手のデッサン(木炭紙) 講評会			
7回	テーマ	観察による対象の理解	実習	解剖図の模写	240
	内容	人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)			
8回	テーマ	観察による対象の理解	実習	解剖図の模写	240
	内容	人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)			
9回	テーマ	観察による対象の理解	実習	解剖図の模写	240
	内容	人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)			
10回	テーマ	観察による対象の理解	実習	解剖図の模写	240
	内容	人体デッサン・固定ポーズ(木炭紙)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択)			
12回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 中間評			
13回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 講評			
14回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択)			
15回	テーマ	観察による対象の理解	実習	グラデーションの研究	240
	内容	石膏デッサン(木炭紙) 頭像・胸像(選択) 講評			
16回	テーマ	観察による対象の理解	屋外実習	クロッキー	240
	内容	動物スケッチ			

科目名	コンピュータ基礎実習(1美)				開講学年	1	講義コード	1670701	区分	選必	
英文表記	Computer basic training				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	柳田 也寿志										
研究室	共通講義棟(0号館)						オフィス 月曜日1・2 水曜日1・2 木曜日1 アワー 2				
メールアドレス	yanagita@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	ポートフォリオ マネジメント コンピュータグラフィック プレゼンテーション										
授業概要	<p>本実習では、アーティストが対外的に作品を見せる手段として用いる、「ポートフォリオ」を制作し、同時にコンピュータによる画像処理、コンピュータグラフィックソフトの基礎的な活用方法を学び、今後の作家活動への足掛かりとしながら、コンピュータによる様々な作業を行える力を養う物である。また、昨今では紙媒体の「ポートフォリオ」と同じく、web上で閲覧可能な「ポートフォリオサイト」も見られる。本実習の最終的な取り組みとして、いつでもどこでも閲覧可能な「ポートフォリオサイト」を制作し、今後の作品をそこへ集積し、卒業後に様々な場面で使用できるようすることを目指す物である。</p>							関連科目			
								コンピューター演習			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…文部科学省令で定める科目【各科目に含めることが必要な事項】…情報機器の操作</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	コンピューターの使い方を理解し、様々な資料作成に必要な技術を選択し活用できる。									
	②	ポートフォリオを理解し、必要な情報を選択し作成することができる。									
	③	Web上にホームページを立ち上げ、自己の作品を効果的に配置することができる。									
	④	コンピューターの使用を積極的に行い、諦めずに成果を上げる姿勢を持っている。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	20	30	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										



予備知識	コンピュータグラフィック ポートフォリオ ポートフォリオサイト 文書作成 画像処理
DPとの関連	アートのためのポートフォリオ制作を通して、コンピューターにより様々な資料を作成することで、作品の情報として何が必要なのかを理解しそのための情報収集能力の向上が期待できる。【知識・理解】 様々なコンピューターによるグラフィックの制作、資料作成、画像処理等行うことで社会生活に必要なコンピューター使用技術の向上を図り、多種多様な状況に対応できる応用力を身につけることが期待できる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.レポートによる評価(20点) 授業内容に関するレポートは、授業を真剣に受けて理解することができるか計ものであり、同時にコンピューターを使用した文書作成が見やすくできていることも評価する。2.成果発表による評価(20点) ポートフォリオやポートフォリオサイトをプレゼンテーションし、自己の表現を鑑賞者に効果的に伝える姿勢を持ち、積極的に発表できていることを評価する。3.作品による評価(30点) 実際に完成したポートフォリオについて、効果的に画像や文章を利用しているか、鑑賞者が見やすく興味をもてる仕様にできていることを評価する 4.ポートフォリオによる評価(10点) 大学ポータルにて、授業の振り返りを客観的に行い、アンケートに答えている。

作品のポートフォリオは、卒業後も非常に重要な意味を持っています。特に、今後のクリエイティブ業界において、これまでどのような作品を制作し、どのような技術を持っているのかを瞬時に理解してもらうためにもポートフォリオは効果的です。また、ファイルを持ち歩くことは簡単ではないですが、ポートフォリオサイトを持つことで、名刺にQRコードを載せるなど、URLをLINEやメールで送るなどすることで即座に作品を閲覧可能とすることができます。作家として活動する人や、クリエイティブな業界に進む人も重要な課題となりますので積極的に本科目を行ってください。 ※授業には、自己のポートフォリオを制作することが前提となりますので、どのような作品でも構いませんので作品画像を集めておいて下さい。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	本科目のガイダンス	対面授業		180
	内容	ポートフォリオによる作品発表という概念があることを様々な事例から知り、今後作品を集積していくことの大切さを理解する。	実習		
2回	テーマ	紙媒体のポートフォリオ制作	対面授業	これまでの作品画像の収集	180
	内容	資料作成の基本として、Microsoft Word・Excelの使い方のタイピングと作業効率について	実習		
3回	テーマ	紙媒体のポートフォリオ制作	対面授業	これまでの作品画像の収集	180
	内容	作品画像を紙媒体へと転換し、必要な情報を選別することを理解し、自己のポートフォリオを制作する。作品画像の加工・編集・レイアウトと、補足するための文章制作を行う。	実習		
4回	テーマ	紙媒体のポートフォリオ制作	対面授業	制作したいポートフォリオのイメージ作り	180
	内容	作品画像を紙媒体へと転換し、必要な情報を選別することを理解し、自己のポートフォリオを制作する。作品画像の加工・編集・レイアウトと、補足するための文章制作を行う。	実習		
5回	テーマ	紙媒体のポートフォリオ制作	対面授業	制作したいポートフォリオのイメージ作り	180
	内容	作品画像を紙媒体へと転換し、必要な情報を選別することを理解し、自己のポートフォリオを制作する。作品画像の加工・編集・レイアウトと、補足するための文章制作を行う。	実習		
6回	テーマ	紙媒体のポートフォリオ制作・発表	対面授業	制作したいポートフォリオのイメージ作り	180
	内容	作品画像を紙媒体へと転換し、必要な情報を選別することを理解し、自己のポートフォリオを制作する。作品画像の加工・編集・レイアウトと、補足するための文章制作を行う。ポートフォリオを相互に鑑賞し合い、振り返る。	実習		
7回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
8回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
9回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
10回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
12回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
13回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
14回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作	対面授業	制作したいポートフォリオサイトのイメージ作り	180
	内容	フリーホームページ制作サイト「Wix」を使い、自身のポートフォリオサイトを制作する。様々なサイトを事例として調査し、どのような情報が必要かを選別し自身のサイトに活かす。	実習		
15回	テーマ	ポートフォリオサイトの制作・プレゼンテーション	対面授業	プレゼンテーションソフトの使い方	180
	内容	自身のポートフォリオサイトを使って、作品とサイトのプレゼンテーションを行う。	実習		

科目名	日本画実習ⅠA*1(1美)			開講学年	1	講義コード	1671001	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting I A			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	中村 賢次(実務経験) 田淵 恵理(非常勤)									
研究室	A416					オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	日本画、細密写生、水干絵具									
授業概要	日本画には特有の用具・材料があり、基本的にその原材料の全てがこの日本国内の自然から採取することが出来る。その使用方法に於いては季節や時間、気候等と深く関連があり、この授業では前職における文化財保存修復の実務の経験を活かし、伝統的な画材に関する基礎知識と技術修得において授業の中で学生たちに教授している。また、日本画制作に於いて最も基本的、且つ重要である写生に重点を置いて、描くことの基本姿勢や日本特有の空間に対する意識や感性としての美意識、自然観を身に付ける。						関連科目			
							日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	日本画の画材の名称及び原材料を理解し、その基本的な使用方法を理解できるようになる。								
	②	基礎的な描写力と描くための集中力・持久力を身に付けることができるようになる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(10点)	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	授業の中で指示する									

予備知識	高校美術までの日本画に関する基礎知識
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	中村 賢次
評価明細基準	日常的に作品を前に口頭での質疑を行うことによって理解度を確認。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	日本画の基礎知識		日本画の定義について自分なりの考えを探る	720
	内容	現在に至るまでの日本画の歴史的背景を理解する			
2回	テーマ	日本画の画材		実際の画材に触れ、その用途について確認する	720
	内容	名称・原材料・基本的な使用方法を理解する			
3回	テーマ	筍		鉛筆の使用方法を検討する	720
	内容	鉛筆による細密写生			
4回	テーマ	筍		鉛筆の使用方法を検討する	720
	内容	鉛筆による細密写生			
5回	テーマ	筍		鉛筆の使用方法を検討する 自身の作品を客観的に観察・評価	720
	内容	鉛筆による細密写生及び合評・採点			
6回	テーマ	ジャガイモとネギ		画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	和紙(美濃紙)を水貼りし鉛筆で描写			
7回	テーマ	ジャガイモとネギ		画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	墨入れ(骨描き及び濃淡)と地塗り			
8回	テーマ	ジャガイモとネギ		画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密写生(水干絵具)			
9回	テーマ	ジャガイモとネギ		画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密写生(水干絵具)			
10回	テーマ	合評及び採点		自身の作品を客観的に観察・評価	720
	内容	客観的に自身の作品を捉える			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	和紙(美濃紙)を水貼りし鉛筆で描			
12回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	墨入れ(膏描き及び濃淡)と地塗り			
13回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密描写(水干絵具)			
14回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密描写(水干絵具)			
15回	テーマ	スルメ	実習	画材の特性と使用方法を検討する	720
	内容	細密描写(水干絵具)			
16回	テーマ	合評及び採点	講義・実習	自身の作品を客観的に観察・評価	180
	内容	客観的に自身の作品を捉える			

科目名	洋画実習ⅠA*2(1美)				開講学年	1	講義コード	1671201	区分	選必	
英文表記	Oil PaintingⅠA				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	下城賢一 熊谷有展 中川百合恵(非常勤)										
研究室	L号館D201						オフィス 月1・2 水1・2 木1・2 金1・アワー 2				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	基礎造形 油彩表現 基礎デッサン 人物・人体デッサン 静物デッサン										
授業概要	1年時のカリキュラムは平面絵画形式にかかわる基礎造形力を身につけ、その特性を生かすために必要な実力を獲得することを主眼において組まれている。適切な観察によるモチーフの理解(観察力)・再現性の高い描写力(技術)・美しい画面に不可欠な構成力と構図を組む力(構成力)。この3点を軸に具体的な課題をに取り組んでもらう。さらには2年次における当該科目の連続性を考慮した必須項目として、モチーフにおける形体や色彩、固有色についても学ぶ。この課題によって完成した作品から以下の評価基準を基に観察力・技術・構成力のポイントにしほり評価採点する。							関連科目			
								洋画実習ⅠB、洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB、洋画実習ⅢA、洋画実習ⅢB、洋画実習ⅣA、洋画実習ⅣB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	再現性の高い描写力を養うことができる									
	②	人体骨格・筋肉など基本構造が理解できる									
	③	油彩画の技法を習得することができる									
	④	バランスの取れた構成・構図を理解することができる									
	⑤	平面上における立体表現を再現することができる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	30	50	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	基礎デッサン、西洋美術史、日本美術史、絵画技法論
DPとの関連	テーマにそった内容の講義を実習内に適時に行い、テーマにつながる文献等を紹介する。実習外で美術館見学などを通じて鑑賞力を身につける。古今の西洋絵画の名画の画像資料を用いて構成・構図の研究、画題の研究を行う。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品講評会)において適切な評価、指導、感想を交えて次回の作品制作へと発展させることができる。(10点×3回 計40点) 2.出題された課題と、設定されたモチーフのテーマを良く理解し、完成度、課題への理解度、表現力、取り組む姿勢などを総合評価する。(50点) 3ポートフォリオによる振り返り(10点)

課題制作に必要な画材を事前に用意する。実技・技法・画材などの専門用語と知識を習得する。それぞれが成果発表にて得た知識や自らの問題点をノートまとめ復習すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	自画像			
2回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	自画像			
3回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	自画像			
4回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	自画像			
5回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	自画像			
6回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物デッサンⅠ			
7回	テーマ	講評	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物デッサンⅠ			
8回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物デッサンⅠ			
9回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物デッサンⅠ			
10回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物デッサンⅠ			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	講評	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
12回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
13回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
14回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
15回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
16回	テーマ	講評	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
17回	テーマ	デッサン	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	人物デッサンⅠ			
18回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
19回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
20回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
22回	テーマ	油彩画	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	静物/油彩			
23回	テーマ	油彩画	実習 講評	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
24回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
25回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
26回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
27回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
28回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
29回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			
30回	テーマ	油彩画	実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180
	内容	静物/油彩			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ 内容	油彩画 ..... 静物/油彩	..... 実習	講評に基づいた今後の自身の課題確認	180



科目名	アート・イラストレーション実習ⅠA*3(1美)			開講学年	1	講義コード	1671401	区分	選必	
英文表記	Fine art and illustration practical training I A			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	6	
担当教員	柳田也寿志 高倉万優(非常勤)									
研究室	L A209					オフィス 火曜日1・2 水曜日1・2 木曜日1・ アワー 2				
メールアドレス	yanagita@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	イラストレーション クロッキー デッサン デジタルクロッキー 細密描画									
授業概要	1年時のカリキュラムでは平面表現に関わる基礎造形力を理解し、身につける事を念頭に置いた課題を出題している。特に、観察力、構成力、描画力を含む基礎造形力が今後の土台となる為、その点に着目しそれぞれの力を養うことを目的としている。また、デジタルツール演習の進行と連携し、デジタルツールを用いたデジタル表現と紙、鉛筆などのアナログ表現とを相互に関連させた基礎造形力を養う。						関連科目			
							アート・イラストレーション実習ⅠB、アート・イラストレーション実習ⅡA、アート・イラストレーション実習ⅡB、アート・イラストレーション実習ⅢA、アート・イラストレーション実習ⅢB、アート・イラストレーション実習ⅠB、デジタルツール演習Ⅰ、デジタルツール演習Ⅱ、イラストレーション表現探求Ⅰ、イラストレーション表現探求Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	絵画的な基礎造形力を理解し、目的を持ってクロッキーやデッサンを行うことができる。								
	②	絵画的な基礎造形力を身につけ、イラストレーション制作に活かすことができる。								
	③	観察力、構成力、描写力を各課題で発揮することができる。								
	④	デジタルツールのイラストレーションソフトを駆使し、実習で身につけた基礎造形力をデジタル表現でも発揮できる。								
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	授業の中で指示する									

予備知識	デッサン、西洋美術史、日本美術史、イラストレーションの歴史
DPとの関連	平面表現の基礎にあたる、基礎造形力を理解することで、自己の表現を追求する発想を得ることができ、それが作品を制作する発想力へと繋がる。平面表現の意義や目的について考える機会となり、自らが何故平面表現を行なっているのかを探り、作品制作に対し高い次元から捉える姿勢を作ることが含まれている
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 作品講評会において自己の作品の評価と問題点を理解し、次回の制作に活かす姿勢を持つことができている。(20点) 2. 出題されている課題を理解しようという姿勢があり、完成度の高い作品が制作できている。(60点) 3. ポートフォリオによる振り返り(10点) 4. 授業において、課題に対し積極的に行い、創意工夫を持って制作に挑む姿勢を持っている。(10点)

作品制作準備を十分に行い、出席することで制作時間を確保できるように心がけてください。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	ガイダンス	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	本授業の計画・説明	実習		
2回	テーマ	クロッキー	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	鉛筆・ペジ・パスデルなどの画材を使用したクロッキーとデジタルツールを使ったクロッキーを行う。	実習		
3回	テーマ	細密デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	本単元の計画・説明 植物をモチーフに、観察と細密描写を行う。	実習		
4回	テーマ	細密デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、観察と細密描写を行なう。	実習		
5回	テーマ	細密デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、観察と細密描写を行なう。	実習		
6回	テーマ	細密デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、観察と細密描写を行なう。	実習		
7回	テーマ	デジタルツールを使った細密描写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、デジタルツールを使って細密描写を行なう。	実習		
8回	テーマ	デジタルツールを使った細密描写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、デジタルツールを使って細密描写を行なう。	実習		
9回	テーマ	デジタルツールを使った細密描写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	植物をモチーフに、デジタルツールを使って細密描写を行なう。作品の講評・アドバイス	実習		
10回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作の説明	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
12回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
13回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
14回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
15回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
16回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
17回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
18回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	モチーフデッサン制作	実習		
19回	テーマ	デッサン	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス	実習		
20回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	写真模写の説明	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
22回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
23回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
24回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
25回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
26回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自ら撮影した写真をデジタルツールで模写を行う。	実習		
27回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したページによる描写を行なう。	実習		
28回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したページによる描写を行なう。	実習		
29回	テーマ	写真模写	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス	実習		
30回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	ペン画の計画・説明	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
32回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
33回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
34回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
35回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
36回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
37回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
38回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
39回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
40回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
41回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
42回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
43回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
44回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な要素を構成したペンによる描写を行なう。	実習		
45回	テーマ	ペン画による細密イラストレーション表現	対面	内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス 前期通した講評	実習		



科目名	デジタルツール演習Ⅰ＊Ⅲ（Ⅰ美）				開講学年	1	講義コード	1671501	区分	選必	
英文表記	Digital tool exercises I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	柳田 也寿志 高倉 万優										
研究室	LA101						オフィス アワー 金曜1・2				
メールアドレス	yanagita@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	イラストレーション デジタルイラストレーション イラストレーションアプリケーション アイビスペイント										
授業概要	デジタルツールを使用するための基礎技術、イラストレーション制作アプリの使用技術の理解やデジタルツールでの描画技術の向上を目指すと同時に、作品制作を行い実務的な技術を養う。							関連科目			
								アート・イラストレーション実習ⅠB、アート・イラストレーション実習ⅡA、アート・イラストレーション実習ⅡB、アート・イラストレーション実習ⅢA、アート・イラストレーション実習ⅢB、アート・イラストレーション実習ⅠB、デジタルツール演習Ⅰ、デジタルツール演習Ⅱ、イラストレーション表現探求Ⅰ、イラストレーション表現探求Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	デジタルツールの基礎的な使用技術を習得している。									
	②	イラストレーションアプリの基礎的な使用技術を習得している。									
	③	イラストレーションアプリの使用技術を習得し、作品制作に活用することができる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	iPad Pro アイビスペイント デジタルイラストレーション
DPとの関連	デジタル技術という側面から平面表現を捉えることで、現代社会の中で必要な技術と持っている知識を繋ぎ、新たな技術として生み出すことができる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 作品講評会において自己の作品の評価と問題点を理解し、次回の制作に活かす姿勢を持つことができている。(20点) 2. 出題されている課題を理解しようという姿勢があり、完成度の高い作品が制作できている。(60点) 3. ポートフォリオによる振り返り(10点) 4. 授業において、課題に対し積極的に行い、創意工夫を持って制作に挑む姿勢を持っている。(10点)

作品制作準備を十分に行い、出席することで制作時間を確保できるように心がけてください。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	本授業の計画・説明			
2回	テーマ	デジタルツールオペレーティング	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールであるipad内のイラストソフトの使い方を含めたイラストレーション制作を行う。			
3回	テーマ	デジタルツールオペレーティング	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールであるipad内のイラストソフトの使い方を含めたイラストレーション制作を行う。			
4回	テーマ	デジタルツールによるモチーフ描写とキャラクター造形	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	制作の説明 デジタルツールにより、モチーフ描写を行う。また、モチーフから得られた情報を使ってキャラクターを造形する。			
5回	テーマ	デジタルツールによるモチーフ描写とキャラクター造形	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールにより、モチーフ描写を行う。また、モチーフから得られた情報を使ってキャラクターを造形する。			
6回	テーマ	デジタルツールによるモチーフ描写とキャラクター造形	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールにより、モチーフ描写を行う。また、モチーフから得られた情報を使ってキャラクターを造形する。			
7回	テーマ	デジタルツールによるモチーフ描写とキャラクター造形	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールにより、モチーフ描写を行う。また、モチーフから得られた情報を使ってキャラクターを造形する。			
8回	テーマ	デジタルツールによるモチーフ描写とキャラクター造形	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評とアドバイス			
9回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	制作の説明 状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。			
10回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。	演習		
12回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。	演習		
13回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。	演習		
14回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。	演習		
15回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。	演習		
16回	テーマ	感情や状況を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	状況に応じた、感情表現を題材にイラストレーションを制作する。作品の講評・アドバイス	演習		

科目名	3Dアート実習IA*4(1美)				開講学年	1	講義コード	1671801	区分	必修		
英文表記	3 dimensional art work 1A				開講期	前期	開講形態	フレンド授業(対面+遠隔)	単位数	6		
担当教員	清島 浩徳(実務家教員) 涌井 晃(非常勤)											
研究室	L A-216						オフィス アワー 月曜 5限					
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	3DCG 3Dモデリング 彫刻 キャラクター造形											
授業概要	<p>3DCGソフトのZbrushの基本的な使用方法を修得するとともに、粘土による制作を通して確かな立体造形能力を身につける。実際の素材を用いた実習では、写実的な表現を試みることで、基礎的な立体造形力を身につけることを目指す。量感や奥行きといった、立体ならではの感覚を高め、粘土素材を自由に駆使できるようになるには、多くの修練が必要である。頭像制作は、人物の表情や人格までも写し出す、大変高度な技量が求められる。実際の素材に触れることで学習した造形感覚を3DCGの作品で制作する。キャラクター造形に重要な人体の頭部の基本的な構造を理解しながら、写実的な表現とキャラクター表現の両方の表現技術を獲得する。何度も繰り返し制作を続けながら、表現者としての感性、観察眼を養う。授業以外の時間で自主的に制作を深め、毎日制作する習慣を身につけることで、表現者としての資質の向上を目指す。</p>								関連科目			
									西洋彫刻論 西洋美術史 3Dアート実習IB 立体造形技法実習A 立体造形技法実習B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	モデルを観察して、特徴を把握できるようになる										
	②	粘土の性質を知って塑像の制作過程を理解できるようになる										
	③	塊や面などについて理解できるようになる										
	④	3DCG制作の基礎的な操作方法を理解する										
	⑤	3DCGで動物表現、Room表現ができるようになる										
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	0	70	10	20	100			
教科書	適宜指示する											
参考書	適宜指示する											

予備知識	基礎科目:西洋美術史Ⅰ、西洋美術史Ⅱ、美術領域論Ⅱ(立体)
DPとの関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標沿った授業となっています。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・デッサンの的確さ ・3DCGソフトオペレーションの基本的なスキルの獲得 ・塑像制作の基礎的な技法と立体造形感覚の獲得 ・準備、作品管理 ・制作への真摯な取り組み ・作品を高度化するための自主的な制作

・3DCGの基本的な技術の獲得だけでなく、自分なりの手法・解決策を見つけ出す意欲を持ち続ける。・制作に入る前の準備、制作後の片付け、さらに作品管理をすることも制作に必至。・実材での立体造形感覚を身につけるために粘土を常に最適な状態にし、またモデルへの配慮も忘れず授業に臨むという、基本的なマナーも身につける。観察眼を伸ばすためのデッサンや制作を毎日するペースを身につけ、表現者としての自覚を持つことが大切である。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	Zbrush Basic1	対面		180
	内容	基本的なモデリング手順の説明【課題1「頭蓋骨」】			
2回	テーマ	Zbrush Basic1	遠隔		180
	内容	各種ブラシの使い方【課題1「頭蓋骨」】			
3回	テーマ	Zbrush Basic1	遠隔		180
	内容	モデルの分割と扱い方【課題1「頭蓋骨」】			
4回	テーマ	Zbrush Basic1	遠隔		180
	内容	解像度とリトポロジー【課題1「頭蓋骨」】			
5回	テーマ	Zbrush Basic1	対面		180
	内容	着色、完成【課題1「頭蓋骨」】			
6回	テーマ	Zbrush Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2「動物のモデリング」】			
7回	テーマ	Zbrush Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2「動物のモデリング」】			
8回	テーマ	Zbrush Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2「動物のモデリング」】			
9回	テーマ	Zbrush Basic2	対面		180
	内容	【課題2「動物のモデリング」】			
10回	テーマ	Zbrush Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2「動物のモデリング」】			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	Zbrush Basic3	遠隔		180
	内容	{課題3-Room-}	実習		
12回	テーマ	Zbrush Basic3	遠隔		180
	内容	{課題3-Room-}	実習		
13回	テーマ	Zbrush Basic3	対面		180
	内容	{課題3-Room-}	実習		
14回	テーマ	Zbrush Basic3	遠隔		180
	内容	{課題3-Room-}	実習		
15回	テーマ	Zbrush Basic3	遠隔		180
	内容	{課題3-Room-}	実習		
16回	テーマ	オリエンテーション	対面		180
	内容	頭像制作概説・粘土による頭像作品制作の準備	講義		
17回	テーマ	頭像デッサン基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	デッサン基礎学習とポイントの基本について学習する	実習		
18回	テーマ	塑造制作基礎1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	粘土によるリジゴの模刻を通じて量感の表現を試みる	実習		
19回	テーマ	頭部の人体解剖学基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	頭部の人体解剖学についての基礎学習をする。	実習		
20回	テーマ	塑像制作基礎2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	粘土によるスカル制作	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	女性頭像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	あらゆる角度からモデルをデッサンして構造を理解する。			
22回	テーマ	女性頭像制作2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土を用いて、頭像の荒付けをする。			
23回	テーマ	女性頭像制作3	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土による頭像制作を進める。			
24回	テーマ	女性頭像制作4	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土による頭像制作を進める。			
25回	テーマ	女性頭像制作5	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	頭像の仕上げを行い、講評・相互評価を行う。			
26回	テーマ	男性頭像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	あらゆる角度からモデルをデッサンして構造を理解する。			
27回	テーマ	男性頭像制作2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土を用いて、頭像の荒付けをする。			
28回	テーマ	男性頭像制作3	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土による頭像制作を進める。			
29回	テーマ	男性頭像制作4	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	水粘土による頭像制作を進める。			
30回	テーマ	男性頭像制作5	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	頭像の仕上げを行い、講評・相互評価を行う。			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	オリエンテーション	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	頭像制作概説・3DCGによる頭像作品制作の準備			
32回	テーマ	頭像デッサン基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	タブレットを用いたデッサン基礎学習とポードレートの基本			
33回	テーマ	頭部の人体解剖学基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	3DCGによる頭部の人体解剖学の基礎学習			
34回	テーマ	3DCG制作基礎2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrushによる写真を参考に3DCGによるモデリング制作			
35回	テーマ	頭像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	あらゆる角度からモデルを観察し、タブレットを用いてデッサンして構造を理解する。			
36回	テーマ	頭像制作2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreを用いて、頭像の荒付けをする。			
37回	テーマ	頭像制作3	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreによる頭像制作を進める。			
38回	テーマ	頭像制作4	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreによる頭像制作を進める。			
39回	テーマ	講評・相互評価	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	頭像の仕上げを行い、講評・相互評価を行う。			
40回	テーマ	キャラクター頭部制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Photoshopでアイデアスケッチを描く。			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
41回	テーマ	キャラクター頭部制作2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreを用いて、頭像の荒付けをする。	実習		
42回	テーマ	キャラクター頭部制作3	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreによるキャラクター頭像制作を進める。	実習		
43回	テーマ	キャラクター頭部制作4	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreによるキャラクター頭像制作を進める。	実習		
44回	テーマ	キャラクター頭部制作5	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	Zbrush coreによるキャラクター頭像制作を進める。	実習		
45回	テーマ	講評・相互評価	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	キャラクター頭像の仕上げを行い、講評・相互評価を行う。	実習		

科目名	ゲームデザイン演習*4 (1美)				開講学年	1	講義コード	1671902	区分	選択	
英文表記	Game design				開講期	前期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	井上 幸喜 (非常勤・実務経験)										
研究室	L号館 A-101						オフィス アワー 月～金の5時限目終了後				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	ゲームキャラクターデザイン 3DCG PHotoshop Illustrator										
授業概要	デジタルコンテンツの世界観や登場人物の性格をアイコンとして表現すると共に、ゲーム表 現配慮したデザイン作成。コンテンツにおけるキャラクターデザインの手法を学びます。また、マーチャンダイズにおけるキャラクタービジネスについても学習します。毎回課題作成 と評価を行います。授業内でのソフト操作は中級レベルを学習します。							関連科目			
								3Dアート実習 I A, I B			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	ゲームキャラクターの基本的な考え方を身につける。									
	②	キャラクターディレクションシートの作り方の基礎を身につける。									
	③	クライアント課題に合わせたデザイン創造と提案能力を身につける。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	50	10	20	100		
教科書	適宜指示します										
参考書	適宜指示します										

予備知識	Photoshop,Zbrushの基礎操作
DPとの関連	造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を生かし、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できるの能力を身に付ける。
実務経験のある教員	井上幸喜
評価明細基準	作品と制作に対する姿勢を総合的に判断し評価する

学修上の  
注意  
(SBOs)



授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	対面授業	事後/課題作成(2時間)	90
	内容	キャラクターデザイン作成の準備 プレゼンテーションの準備			
2回	テーマ	キャラクターデザインの現在	対面授業	事前/プレゼンテーション準備(30分) 事後/課題作成(2時間)	90
	内容	キャラクターデザイン作成の準備とIllustratorによるキャラクター作画			
3回	テーマ	キャラクターデザイン基礎	対面授業	事後/課題作成(2時間)	90
	内容	自分についてキャラクターで表現			
4回	テーマ	キャラクターデザイン作成(1)	対面授業	事前/プレゼンテーション準備(30分) 事後/課題作成(2時間)	90
	内容	キャラクターマテリアルについてデザイン出し			
5回	テーマ	キャラクターデザイン作成(2)	対面授業	事前/プレゼンテーション準備(30分) 事後/課題作成(2時間)	90
	内容	主人公キャラクターの作成と中間講評			
6回	テーマ	キャラクターデザイン作成(3)	対面授業	事前/プレゼンテーション準備(30分) 事後/課題作成(2時間)	90
	内容	ライバルキャラクターの作成			
7回	テーマ	キャラクターデザイン作成(4)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	キャラクターシート制作と中間講評			
8回	テーマ	キャラクター設定基礎	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	設定資料の準備と心得			
9回	テーマ	ゲームキャラクターの作成(1)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	ドット絵作成の基本技能			
10回	テーマ	ゲームキャラクターの作成(2)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	2Dキャラクターの作成			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	ゲームキャラクターの作成(3)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	3Dポリゴンキャラクターの作成	実習		
12回	テーマ	ゲームキャラクターシート作成 (1)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 仕様作成	実習		
13回	テーマ	ゲームキャラクターシート作成 (2)	対面授業	事後/課題作成(4時間)	90
	内容	ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 設定決定	実習		
14回	テーマ	ゲームキャラクターシート作成 (3)	対面授業	事後/最終課題作成(2時間)	90
	内容	ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 完成	実習		
15回	テーマ	発表と講評	対面授業	事前/プレゼンテーション準備(2時間)	90
	内容	全体総括と個別評価 振り返り	講義		

科目名	東洋美術史(2美デ)			開講学年	2	講義コード	1672201	区分	選必	
英文表記	History of Asian Art			開講期	通年	開講形態	遠隔授業	単位数	4	
担当教員	永田 郁									
研究室	芸術学部棟A208					オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	アジア美術史 インド文化 仏教美術 ヒンドゥー教美術									
授業概要	ギリシア・ローマの古典的技法とキリスト教の信仰を基盤とした西洋文明に対して、アジアの文明は必ずしも一体であり一貫しているというわけではなく、大きく3つの文明圏に分けて考えることができる。すなわち、一つは東アジア文明圏、一つは仏教・ヒンドゥー教を中心とするインド文明圏、そしてイスラムの信仰を核とする西アジア文明圏である。本講義は東洋、いわゆるアジアの中でも南アジア、特にインド美術を取り上げ、宗教美術(仏教・ヒンドゥー教など)を中心に講義していく。その際、我々が住む東アジア(中国・日本)の関係にも触れながら、古代のアジアの美術の様相について歴史的背景による表現形式の違い、民族や宗教の違いに留意して理解していく。また、アジアの文化や芸術に触れることで、異文化理解のための汎用的な観察力・洞察力を養う。本講義の課題や小テストに関しては適宜フィードバックを行う。						関連科目			
							すべての芸術学部開講科目に関連する。特に日本美術史、西洋美術史、美術概論、日本文化特論(近代)、日本・東洋美術史特論I/II、宗教芸術・文化II(アジア)、教職課程科目(必修)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)						学修・教育目標			
							JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	各回の内容を通して、アジア芸術・文化に関する基礎的な知識・ものの見方・考え方を理解することができる。								
	②	インドおよびアジアに仏像の様式を理解し、その違いを見分けることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	70	20	0	0	10	0	100	
教科書	特にテキストは使用しない。									
参考書	増補新装 カラー版東洋美術史 美術出版社 前田耕作監修 アジアの芸術史 造形篇II 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド(芸術教養シリーズ4) 美術学舎 金子典正編 インド文化事典 丸善出版 インド文化事典編集委員会 インド美術史 吉川弘文館 宮治昭 世界美術大全集 東洋編 1-13-15/中国、朝鮮半島、東南アジア、インド1、インド2・中央アジア 小学館									

予備知識	特に予備知識は必要ないが、日頃アジアのニュースに関心を向けて貰いたい。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	WEBClassの前後期の出席レポート(小テスト、70点・前後期の平均点)とアジア地図(10点)およびアジア体験レポート(10点)、SOJOポートフォリオの学修到達度レポート10点で成績を出す。

通年の授業であるので、前期・後期を通じて受講しないと単位取得できません(履修登録は前期のみ)。単位修得の条件は①出席3分の2以上、②課題提出あるいは小テスト(Webclass)の点数が合計50点以上を満たしていること。対面授業とするが、新型コロナウイルスの感染状況により遠隔授業とする。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	アジア、インドってどんなところ?	遠隔(双方向)	アジア地図作成。	90(1)
	内容	アジア地図を作ろう。			
2回	テーマ	インドってどんなところ?	遠隔(双方向)	ヒンディー語で名前を書く。	180(3)
	内容	其の2:インドの文学とヒンディー語			
3回	テーマ	付論:インド美術の曙	遠隔(双方向)	3.の配布資料の復習。	90(4)
	内容	インダス文明			
4回	テーマ	インド美術のはじまり	遠隔(双方向)	4.の配布資料の復習。	180(6)
	内容	マウリヤ朝の美術/民間信仰の造形			
5回	テーマ	仏教美術の開花①	遠隔(双方向)	5.の配布資料の復習。	90(7)
	内容	パールラット			
6回	テーマ	仏教美術の開花②	遠隔(双方向)	6.の配布資料の復習。	90(8)
	内容	サニシチー			
7回	テーマ	クシャーーン朝の美術①	遠隔(双方向)	7.の配布資料の復習。	180(10)
	内容	ガシタニラ			
8回	テーマ	クシャーーン朝の美術②	遠隔(双方向)	8.の配布資料の復習。	90(11)
	内容	マトウラー			
9回	テーマ	南インドの仏教美術①②	遠隔(双方向)	9.の配布資料の復習。	180(12-13)
	内容	ア馬拉ニヴァティニ:ナーガールジュナコングダ			
10回	テーマ	展覧会あるいは寺社見学	遠隔(双方向)	事前レポート/事後レポート 前期定期試験	180(14-15)
	内容	展覧会あるいは寺社見学(2コマ分前期実施) 見学および展覧会レビュー 前期定期試験(第15回)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	グプタ朝の美術	遠隔(双方向) 講義	11.の配布資料の復習。	180(16-17)
	内容	古典様式の仏像の成立			
12回	テーマ	アジアと日本の仏たち	遠隔(双方向) 講義	アジアの仏像の復習。	180(18-19)
	内容	スリランカ、中央アジア、東南アジア、東アジア(中国・朝鮮半島)、日本			
13回	テーマ	インドの石窟寺院:序	遠隔(双方向) 講義	13.の配布資料の復習。	180(20-21)
	内容	インドの石窟寺院とは?			
14回	テーマ	ヒンドウ教美術の世界①	遠隔(双方向) 講義	14.の配布資料の復習。	180(22-23)
	内容	初期ヒンドウ教美術(グジャーン朝)・シヴァ神の神話世界			
15回	テーマ	ヒンドウ教美術の世界②	遠隔(双方向) 講義	15.の配布資料の復習。	180(24-25)
	内容	ヴァイシュナ神の神話世界・女神その他・ジャイナ教の世界			
16回	テーマ	ヒンドウ教の石窟寺院	遠隔(双方向) 講義	16.の配布資料の復習。	90(26)
	内容	エレファンタ石窟・エローラ石窟(第21、29窟)			
17回	テーマ	インドの石彫寺院	遠隔(双方向) 講義	17.の配布資料の復習。石窟、石彫寺院理解度小テスト。	90(27)
	内容	南インド、マニマニラプラムの世界遺産			
18回	テーマ	総括	自学/FW(フィールドワーク)	課題等の返却。	270(28~30)
	内容	アジアの美術・文化への理解			

科目名	色彩論演習(2美)				開講学年	2	講義コード	1672401	区分	選択	
英文表記	Seminar on theory of colors				開講期	前期	開講形態	ブレンド授業	単位数	2	
担当教員	永田和之(非常勤) 熊谷有展										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	色彩論										
授業概要	<p>私達の周りの環境は、色彩に満ちあふれている。そしてその色彩を通して、多くの情報が伝達されている。色彩は特に重要不可欠な要素の一つである。ここでは、平面作品の制作を通して、その作品における色彩の意味や必要性、重要性を学び、平面絵画における色彩の可能性をさぐる。また、色彩の基本的な特性、本質を理解させ、より良いかたちで色彩を活用していけるような手助けを目指したい。授業の中で適宜、作品講評会を行い作品上のアドバイスと評価を行う。</p>							関連科目			
								実習			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	色彩の特性・本質を理解できる									
	②	色彩をより良く活用することができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	プリント、描画材料など										
参考書	授業の中で指示する										



予備知識	講義とそれらを踏まえての演習
DPとの関連	自己理解・自己管理能力、課題対応能力を身につけ、それらを実践できるもの
実務経験のある教員	
評価明細基準	1 作品評価(70点) 2 ポートフォリオ(10点) 3 その他制作に関する姿勢など(20点)

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	色彩		色彩の基本的特性について	90
	内容	色彩とは何か 点描による演習			
2回	テーマ	//		//	90
	内容	//			
3回	テーマ	//		表色法	90
	内容	色の表し方 点描による演習			
4回	テーマ	//		//	90
	内容	//			
5回	テーマ	//		加法混色、減法混色、三原色など	90
	内容	混色の原理と応用 点描による演習			
6回	テーマ	//		//	90
	内容	//			
7回	テーマ	//		刺激と色感覚	90
	内容	色彩の知覚的効果 点描による演習			
8回	テーマ	//		//	90
	内容	//			
9回	テーマ	//		//	90
	内容	//			
10回	テーマ	//		色彩の感情効果	90
	内容	色彩の感情効果 点描による演習			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	//	"	"	90
	内容	//			
12回	テーマ	//	"	"	90
	内容	//			
13回	テーマ	//	"	色彩の調和	90
	内容	色彩の美的効果 点描による演習			
14回	テーマ	//	"	"	90
	内容	//			
15回	テーマ	//	"	"	90
	内容	//			

科目名	美術領域論Ⅱ（立体造形）（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1672501	区分	選択	
英文表記	Art theory 2 (3D modeling)				開講期	前期	開講形態	遠隔授業	単位数	2	
担当教員	清島 浩徳（実務経験）										
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	立体造形										
授業概要	様々な国や時代の彫刻作品や立体造形物を概観し、作品の良さや美しさを感じ取り、作者の意図や心情についても考え、その作品の歴史的、社会的背景などにも触れながら、立体芸術への興味を引き出し、最終的に立体造形や作家研究のテーマを決めプレゼンテーションを行う。プレゼンや関連レポートについては適宜学生にフィードバックする。立体芸術を深く味わう楽しさを共有しながら、表現者としての資質を伸ばしていく。							関連科目			
								彫刻実習、西洋彫刻論、彫刻特論、東洋美術史			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	立体造形物への興味と知識を深めることができる									
	②	美術史と彫刻作品や作家などを関連づけて理解することができる									
	③	自らテーマを見つけ、研究することができるようになる									
	④	研究したものをプレゼンテーションすることができるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	30	0	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	西洋美術史、日本美術史、東洋美術史、西洋彫刻論
DPとの関連	彫刻作品を通して、造形的なよさや美しさを感じ取り、発送や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めることができるようになる。彫刻作品に関する幅広い専門知識と、考察力の備わった人材育成を目指す。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・立体造形物や彫刻家に対する興味と研究姿勢 ・研究内容のプレゼンテーションおよびレポート ・出席などを併せて評価する

常に、いつ、誰が、どのように、なんの為にそれを作ったかという観点に立ち、自ら疑問を持つことで、研究のきっかけを見つける姿勢が必要。また表現者としての立場と、客観的な立場の双方から造形物や作家を考察することで、鑑賞力の向上を目指す。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	立体の造形物について俯瞰する	講義		90
	内容	心に響く彫刻（導入）			
2回	テーマ	古代の彫刻	講義	西洋美術史の予習	90
	内容	古代文明の彫刻概観			
3回	テーマ	ギリシア彫刻	講義	西洋彫刻論の（予習、復習）	90
	内容	ギリシア彫刻概観			
4回	テーマ	キリスト教美術の彫刻表現	講義	西洋彫刻論（予習・復習）	90
	内容	キリスト教的主題の彫刻、造形物			
5回	テーマ	ルネサンスの彫刻	講義	ミケランジェロ作品の検索	90
	内容	作家論：ミケランジェロとルネサンス、 マニエリスム			
6回	テーマ	バロックから近代の彫刻	講義	バルニーニ作品の検索	90
	内容	バロックから近代の彫刻概観			
7回	テーマ	ロダン、ブールデル、マイヨールの彫刻	講義	ロダン作品の検索	90
	内容	作家論：ロダンとその弟子たち			
8回	テーマ	飛鳥から平安の仏像彫刻	講義	仏教美術史予習 復習	90
	内容	日本の仏教的主題の彫刻、造形物Ⅰ			
9回	テーマ	鎌倉時代の慶派仏師の仏像彫刻	講義	仏教美術史予習 復習	90
	内容	日本の仏教的主題の彫刻、造形物Ⅱ			
10回	テーマ	人物埴輪について	講義	人物埴輪作品の検索	90
	内容	人物埴輪の造形的特徴概観Ⅰ			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	近代から現代彫刻	講義	西洋美術史 復習	90
	内容	近代から現代の彫刻概観			
12回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
13回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
14回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
15回	テーマ	個人プレゼン発表	演習	個人研究	90
	内容	個人研究プレゼンテーション			
16回	テーマ	フィードバックをもとにした自己評価	演習	評価	90
	内容	相互評価 反省など			

科目名	共通絵画実習Ⅰ（日本画）（2美）				開講学年	2	講義コード	1672601	区分	選必	
英文表記	Common Japanese Painting practice I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜日・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,写生,岩絵具,金箔,銀箔										
授業概要	美術学科に於ける各コースの専門教育のスキル向上のため、所属するコースの専門以外の領域を実体験する。この科目は日本画コース以外の美術学科の学生を対象とし、実習を通して日本画領域への理解を深めるものであり、そのために大きく二つの項目に於ける実習を行なう。最初に日本の文化・美術の成り立ちや日本画の精神性を理解することを目指した実習を行ない、次に日本画特有の画材を用いた技術・技法の習得を目指す。課題についての講評は、授業時間毎または次の授業までに学生一人ひとりに対して指導する。							関連科目			
								共通絵画実習Ⅱ、共通立体実習（彫刻）			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	古来より日本人が大切にしてきた自然界との関わり方を理解した上での写生ができるようになる。									
	②	室内装飾としての役割を踏まえた自然物のイメージ化とその表現への理解ができるようになる。									
	③	日本画の画材の性質を理解できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席や制作姿勢(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	1年次の各コース専門科目
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行なう。

授業での実習をスムーズに実施するため、毎回事前に授業項目に必要な道具の検討及び知識を得ておくこと

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	日本画について	講義	日本の文化・美術の成り立ちや日本画の精神性及び画材に対する理解を得る講義	180
	内容	日本画への理解			
2回	テーマ	写生	実習	屋外にて写生1	180
	内容	花または果実の写生(鉛筆)			
3回	テーマ	写生	実習	屋外にて写生2	180
	内容	花または果実の写生(水彩絵具による着彩)			
4回	テーマ	日本画の技法「溜め塗りとたらしこみ」	実習	和紙・墨・筆への理解及び溜め塗り・たらしこみ技法の習得	180
	内容	和紙・墨・筆への理解及び溜め塗り・たらしこみ技法・鳥の子紙			
5回	テーマ	日本画の技法「溜め塗りとたらしこみ」色紙	実習	写生を元にした色紙・短冊制作「色紙」	180
	内容	制作			
6回	テーマ	日本画の技法「溜め塗りとたらしこみ」短冊	実習	写生を元にした色紙・短冊制作「短冊」	180
	内容	制作			
7回	テーマ	日本画の技法「溜め塗りとたらしこみ」砂子	実習	写生を元にした色紙・短冊制作「砂子」	180
	内容	制作			
8回	テーマ	小下図	実習	2,3回目の写生をもとに下図を制作	180
	内容	「小下図」制作			
9回	テーマ	草稿	実習	小下図を見ながら草稿に入る	180
	内容	「草稿」制作			
10回	テーマ	パネル作成・水張り	実習	和紙の水張り	180
	内容	ベニヤ板を切り出し、白麻紙を水張り			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	地塗り	実習	水干絵具で地塗り	180
	内容	前回水張りした百麻紙に永年黄土を地塗り			
12回	テーマ	転写・墨入れ	実習	下図の転写、墨入れ・濃淡	180
	内容	下図を転写し、墨で膏描き・濃淡をつける			
13回	テーマ	盛上と箔	実習	盛上、金箔または銀箔	180
	内容	岩絵具「盛上」による効果と箔			
14回	テーマ	岩絵具	実習	岩絵具による彩色	180
	内容	制作			
15回	テーマ	岩絵具	実習 講義	岩絵具による彩色	180
	内容	総評 各評 採点			

科目名	共通絵画実習Ⅱ（洋画）（2美）				開講学年	2	講義コード	1672701	区分	選必	
英文表記	Common OilPainting practiceⅡ				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	下城賢一										
研究室	L号館A102						オフィス アワー 月1・2限目				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	絵画史 コラージュ技法 絵画鑑賞 細密画 素描										
授業概要	<p>平面絵画に共通する基礎的な知識と技法および絵画鑑賞の心得を学ぶ。通常の制作実習ではカバーしていない領域の技法に取り組み、各々の作品制作の幅を広げ深めるような課題を用意している。そこでは表現形式の特性を模索し、構造や色彩構成などについて学び思考する。適切な絵画展や展覧会を鑑賞することで美術全般の見識と理解を深める。絵画史がどのように発展し、変遷を経て現在に至るのかを理解できるようにする。授業の中で適宜、レポートの評価を行い理解度の評価を行う。</p>							関連科目			
								共通絵画実習Ⅰ(日本画)			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	細密描写ができる									
	②	画家とその作品の時代性が理解できる									
	③	優れた作品と対峙する事で、自身の作品を考えることができる									
	④	様々な技法や画材に精通する									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	20	50	10	0	100		
教科書	特になし										
参考書	授業の中で適宜指示										

予備知識	必要な画材を用意すること。
DPとの関連	国内外の美術展を見学することで、幅広い絵画表現の現場に触れる。西洋絵画における発展史および技法論を広く学ぶことで、西洋絵画一般における知見を獲得する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品の寸評・講評会)を通して制作した作品の評価を次回の作品制作に繋げられるか。(20点) 2.展覧会鑑賞やレクチャーなどのレポート提出(20点) 3.課題制作の完成度とテーマへの理解度(50点) 4.授業の振り返り(10点)



レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	西洋絵画における技法論A1		準備物と課題計画の確認	180
	内容	技法論・素描論・素材論……実習に関する具体的な説明と補足			
2回	テーマ	西洋絵画における技法論A2		準備物と課題計画の確認	180
	内容	素描実習			
3回	テーマ	西洋絵画における技法論A3		準備物と課題計画の確認	180
	内容	素描実習			
4回	テーマ	西洋絵画における技法論A4		準備物と課題計画の確認	180
	内容	素描実習			
5回	テーマ	西洋絵画における技法論A5		準備物と課題計画の確認	180
	内容	素描実習			
6回	テーマ	西洋絵画における技法論A6		準備物と課題計画の確認	180
	内容	作品講評・解説・評価			
7回	テーマ	西洋絵画史・画家の制作に関する知見1		準備物と課題計画の確認	180
	内容	講義・レポート課題			
8回	テーマ	西洋絵画史・画家の制作に関する知見2		準備物と課題計画の確認	180
	内容	講義・レポート課題			
9回	テーマ	西洋絵画史・画家の制作に関する知見3		準備物と課題計画の確認	180
	内容	講義・レポート課題			
10回	テーマ	西洋絵画史・画家の制作に関する知見4		準備物と課題計画の確認	180
	内容	講義・レポート課題			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	西洋絵画における技法論B1	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	技法論・素描論・素材論……実習に関する具体的な説明と補足			
12回	テーマ	西洋絵画における技法論B2	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	絵画制作			
13回	テーマ	西洋絵画における技法論B3	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	絵画制作			
14回	テーマ	西洋絵画における技法論B4	実習	準備物と課題計画の確認	180
	内容	絵画制作			
15回	テーマ	西洋絵画における技法論B5		準備物と課題計画の確認	180
	内容	作品講評・解説・評価			

科目名	日本画実習ⅡA*1(2美)			開講学年	2	講義コード	1672901	区分	選必		
英文表記	Japanese PaintingⅡA			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	8		
担当教員	佐藤 和歌子 本多 由佳梨(非常勤)										
研究室	A412					オフィス アワー 火曜・昼休み					
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,運筆,色紙,短冊,白描法,彫塗,没骨,溜塗,たらし込み										
授業概要	<p>明治以降、日本の生活文化は大きく西洋文化の影響を受けながら変化してきた。日本絵画の世界もそれに伴ない大きく変化し、現代においては会場芸術として額装形態の作品が主流となるが日本建築の存続に対し、軸・色紙・短冊の形態も根強く残ることとなる。この形態・様式に対する理解と伝統技法の習得を目指し、日本画独自の美意識や自然観などから生まれる余白を用いた空間表現と金箔・銀箔を使用した背景の表現について西洋画との違いを意識しながら、自らの表現を追求する。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。</p>							関連科目		日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)	
	建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造							
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	墨・和紙の性質を理解できるようになる									
	②	筆の種類・基本的使用方法・様々な筆法を理解できるようになる									
	③	色紙・短冊等の性質と形態の特徴に起因する特有の表現様式を理解できるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	一作品ごとに合評・採点を行う。

この実習は単時限完結であるため、前回の実習における技術的反省点を各自クリアしておくことが重要である。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 筆と筆法	..... 講義・演習	画材や技法について十分に検討する	720
2回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 潤筆と乾筆、直筆と側筆	..... 講義・演習	画材や技法について十分に検討する	720
3回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 和紙の種類・ドーサの有無による相違	..... 講義・演習	画材や技法について十分に検討する	720
4回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 干濃淡	..... 講義・演習	画材や技法について十分に検討する	720
5回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 竹の鉛筆写生	..... 講義・実習	画材や技法について十分に検討する	720
6回	テーマ ..... 内容	運筆 ..... 墨で描く(付立)	..... 実習	画材や技法について十分に検討する	720
7回	テーマ ..... 内容	運筆・合評 ..... 合評・採点	..... 講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
8回	テーマ ..... 内容	人物 ..... 自画像又は実在する人物の写生	..... 講義・実習	十分な写生を繰り返す	720
9回	テーマ ..... 内容	人物 ..... 写生を完に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	..... 実習	感覚的なイメージを具体化する	720
10回	テーマ ..... 内容	人物 ..... 原寸大での草稿及び裏打ち	..... 実習	カタチに対して十分な検討を行なう	720

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	人物	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	720
	内容	草稿の転写、墨入れ、地塗り			
12回	テーマ	人物	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(水干絵具)			
13回	テーマ	人物	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(水干絵具)			
14回	テーマ	人物	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(水干絵具)			
15回	テーマ	人物	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(水干絵具)			
16回	テーマ	人物	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			



科目名	洋画実習ⅡA*2(2美)				開講学年	2	講義コード	1673101	区分	選必		
英文表記	Oil PaintingⅡA				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	8		
担当教員	下城賢一 熊谷有展 上野洋嗣(非常勤)											
研究室	A301						オフィス アワー 金曜日5時限目					
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	油彩 デッサン 混合技法 人物表現 静物表現											
授業概要	<p>洋画実習ⅠA・Bを経て、西洋絵画の総合的な完成を求める。絵画上での基礎的な表現力を養い、応用力を身につけ、自由に様々なモチーフとテーマに取り組むことを目的とする。また自らの作品の客観的な評価を自分で行うことが出来るようになり、さらにはプレゼンテーションを通して作品を他者へ向けて発表できる力を身につける。イメージの発想と技術の重要性に目を向け、西洋絵画の歴史における時代ごとの変遷や内容を理解しつつ個々の感性による表現を大切に。対象物を観察し、調和の取れた感動ある作品を目指す。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。</p>								関連科目		洋画実習ⅠA、ⅠB	
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)								学修・教育目標			
									JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	絵画上の表現力を身に付けることができる										
	②	感性による表現を大切にすることができる										
	③	自然な空間表現ができる										
	④	色彩について理解できている										
	⑤	多様な画材の理解と知識がある										
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	40	60	10	0	100			
教科書	プリント配布											
参考書	授業の中で指示する											

予備知識	洋画実習ⅠA,ⅠBを経て、絵画の総合的な完成を求める洋画実習ⅢBへと繋がる。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理能力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.作品の講評会を受けて作品の客観的な評価と問題点などを次回の作品制作に復習する。40点 2.課題への理解と、モチーフとテーマへの理解を反映させた作品の評価。50点 3ポートフォリオによる振り返り(10点)

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	制作	実習	人物着衣を描く、オリエンテーション、デッサン、エスキース、油彩による着彩	720
	内容	人物画(油彩)			
2回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
3回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
4回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
5回	テーマ	制作	"	" 作品講評	720
	内容	"			
6回	テーマ	制作	実習	静物を描く、オリエンテーション、発想、デッサン、エスキース、油彩による着彩	720
	内容	静物画(油彩)			
7回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
8回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
9回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
10回	テーマ	講評	"	" 作品講評	720
	内容	"			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	実習	人物ヌードを描く、オリエンテーション、デッサン、エスキース、 油彩による着彩	720
	内容	人物画(油彩)			
12回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
13回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
14回	テーマ	制作	"	"	720
	内容	"			
15回	テーマ	講評	"	" 作品講評	720
	内容	"			

科目名	彫刻実習ⅡA*3(2美)				開講学年	2	講義コード	1673301	区分	必修	
英文表記	sculpture work 2A				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	6	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜 5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	塑像による全身像										
授業概要	<p>塑像による人体の全身像を制作する。対象を鋭く観察し、様々なアプローチを試みることによって、造形的な見方・考え方を働かせ、人体の持つ存在感やムーブメントを的確に捉える修練や、それを立体で表現する能力を高める。粘土の持つ可塑性を駆使した表現を自ら探求する姿勢を身につけるとともに、彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。作品の自己評価力を高め、作品などに対する見方や感じ方を深める。作品管理能力、自己管理能力の向上を目指す。</p>							関連科目			
								基礎科目:西洋美術史特論Ⅰ、西洋美術史特論Ⅱ、美術領域論Ⅱ(立体)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	ポーズを理解できるようになる									
	②	量塊の的確な構成(デッサン)ができるようになる									
	③	写実に基づくモデリングができるようになる									
	④	モデルの個性を掴み、表現できるようになる									
	⑤	自分の制作した作品について、とことん追求する姿勢を身につけることができるようになる									
	⑥	作品についてプレゼンテーションすることができるようになる									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	石膏技法実習
DPとの関連	美術表現者としての専門性、感性を伸ばし、徹底した観察に基づく制作姿勢を貫かせることは、自ずから作家としての資質のみならず、人間性を育てることにつながり、DPを達成する要素を網羅した授業内容である。
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	・作品制作への姿勢 ・観察力、探究心 ・立体造形の技術力 ・基礎デッサン力 ・作品管理能力 ・自己管理能力

・全身像への取り組みは、精神的、体力的にもハードルが高くなる。したがって、授業に臨む前の準備、その後の作品管理も含め、計画的に制作していく必要がある。作品が完成するまでの、長期間の制作で、いかに多くの発見ができるか、常に新しい発見に挑む姿勢で制作することが大切である。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	内容の確認	90
	内容	オリエンテーション			
2回	テーマ	デッサンによるポーズ決め	実習、AL	ポーズの研究を予習する	540
	内容	ポーズ決定のためのデッサン			
3回	テーマ	人体の構造と流れの把握	実習、AL	ポーズの研究(復習)	180
	内容	ポーズの決定と分析			
4回	テーマ	等身用心棒組み	実習、AL	必要な材料を準備する	360
	内容	心棒組み			
5回	テーマ	制作	実習、AL	構造的に粘土を荒付けする	2160
	内容	制作Ⅰ 荒付け			
6回	テーマ	中間講評	実習、AL	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅰ 相互評価			
7回	テーマ	制作	実習、AL	観察を基にバランスよく全体の粘土をつけ、方向性を探りながら制作する	2160
	内容	制作Ⅱ 展開			
8回	テーマ	中間講評	実習、AL	講評を反映して制作する	180
	内容	中間講評Ⅱ 相互評価			
9回	テーマ	制作	実習、AL	問題点を探りながら、仕上げに向けて制作を深める	2070
	内容	制作Ⅲ まとめ			
10回	テーマ	最終講評	実習、AL	講評を反映して、次作への計画を立てる	180
	内容	最終講評・評価 相互評価			

科目名	木彫実習（2美）		開講学年	2	講義コード	1673501	区分	必修		
英文表記	Wood carving (Practicum)		開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4		
担当教員	森 英顕（非常勤・実務経験）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	h0002636@m.sojo-u.ac.jp									
キーワード	彫刻 木彫 立体造形 木工技法									
授業概要	<p>本授業では、木という実材（作品として恒久的に設置することを想定した素材）から彫刻を生み出すプロセスを通して木彫の基本的な技術を学び、素材の持つ要素・特性と向き合いながら魅力的な彫刻作品を生み出すことを目的とします。木彫制作といった物体を手で加工する行為は、視覚情報に合わせて手接触を通じた身体感覚情報を一致させ認識することにより、より正確な体性感覚を身に付けることができます。体性感覚とは触覚や圧覚、位置・動き・力の感覚などです。正確な体性感覚は、加工技能の向上だけではなく、社会にあふれる様々な情報を正確に判断する自分自身の物差しを持つことができます。実材に触れることで物理的な自然の理を知り、木を加工する手工具を用いることで自らの身体性を再確認する。その中で造形力を高め、幅広い視野と柔軟な表現力を身に付けていきましょう。</p>						関連科目			
							基礎デッサン、彫刻実習 2A、2B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項（中学校及び高等学校 美術）【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	木彫制作に必要な道具の扱い方を習得することができる。								
	②	重さ・硬さ・色など、木が持つ形の強さや魅力を知り、立体造形に必要な構造・要素を発見することができる。								
	③	木の素材と向き合い、自分の手で作品を生み出す創造力・実践力を養うことができる。								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	授業の中で適宜配布する									
参考書	授業の中で適宜配布する									

予備知識	<p>塑造、造形</p>
DPとの関連	<p>実習科目として位置づけられる本授業を通して、立体表現の初歩的な技術及び理解を得ることが期待できる。【知識・理解】 その後の学修の基盤となる力を身に付けることが期待できる。【汎用的技能】 課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	<p>森 英頭</p>
評価明細基準	<p>出席・制作過程・完成作品などを考慮し、総合的に評価する。</p>

動きやすく作業に適した服装であること。作業には電動工具や刃物など危険を伴う道具を使用するため、注意説明をよく聞き、わからないことは事前に質問すること。事故防止のため、常に作業場の清掃や道具等の整理整頓に努めること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	説明	対面授業	木彫の材料・道具について	180
	内容	ガイダンス			
2回	テーマ	木を彫る	対面授業	制作プランを準備する	180
	内容	制作プランと守法決め			
3回	テーマ	木を彫る	対面授業	木の扱い方を知る	180
	内容	木取りと粗取り			
4回	テーマ	木を彫る	対面授業	木の扱い方を知る	180
	内容	木取りと粗取り			
5回	テーマ	木を彫る	対面授業	構造についての考察	180
	内容	構造について①			
6回	テーマ	木を彫る	対面授業	空間と量塊の考察	180
	内容	空間と量塊①			
7回	テーマ	木を彫る	対面授業	面と稜線の考察	180
	内容	面と稜線①			
8回	テーマ	制作を振り返る①	対面授業	制作を振り返る	180
	内容	中間講評			
9回	テーマ	木を彫る	対面授業	構造についての考察	180
	内容	構造について②			
10回	テーマ	木を彫る	対面授業	空間と量塊を意識し制作	180
	内容	空間と量塊②			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	木を彫る	対面授業  実習	面と稜線を意識し制作	180
	内容	面と稜線②			
12回	テーマ	木を彫る	対面授業  実習	全体と細部の関係性を考察し制作	180
	内容	全体と細部について			
13回	テーマ	木を彫る	対面授業  実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現①			
14回	テーマ	木を彫る	対面授業  実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現②			
15回	テーマ	木を彫る	対面授業  実習	形と表現の追求	180
	内容	形と表現③			
16回	テーマ	制作を振り返る②	対面授業  実習	作品プレゼンテーション	180
	内容	プレゼンテーション及び講評			

科目名	日本画実習ⅢA＊1（3美）				開講学年	3	講義コード	1674901	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting ⅢA				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画										
授業概要	日本画には古くより特有の表現技法が伝えられている。更に日本画そして絵画全般に云える事は、自然を相手に心の動くところを表現したものである。自然の形態、色彩、明暗、そして匂いや肌で感じるものが人間の感性を動かし、心に映り、心象となって、これが平面の上に描かれ絵画となって行く。特に日本画の基本的様式は平面的・装飾的な表現であり、線が主要なものとなり、対象を見たまに描写するのではなく自分の意思・感覚・思想・生活感情等を通して単純化されたものである。このことを暗まえ、自分の心に呼応した対象と向き合って日本画制作に取り組む。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
①	自然と対峙し落ち着いて写生を行なう姿勢を養うことができるようになる										
②	自分が感動した事象を客観的に捉える能力を養うことができるようになる										
③	大作を描くために必要な過程の理解とその技術を習得することができるようになる										
④											
⑤											
⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80点	10	出席10点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行ない理解度を深める。一作品ごとに合評・採点を行なう。



前回の実習の反省点を十分に検討した上で、毎時ごとに制作到達計画を立てる。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	風景	実習	作品にする風景と出会うため屋外にて写生	360
	内容	風景をテーマとして屋外にて写生及び50号パネル製作			
2回	テーマ	風景	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	風景	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	草稿を転写、墨入れ、地塗り			
4回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	風景・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			
8回	テーマ	自由制作	実習	十分に写生を繰り返す	360
	内容	描く対象を各自写生及び100号パネル製作			
9回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
10回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ、地塗り、本紙制作			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
12回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			

科目名	日本画実習ⅢB*1(3美)				開講学年	3	講義コード	1675001	区分	選必	
英文表記	Japanese painting Practical ⅢB				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,風景画										
授業概要	二年次までに習得した日本画の基礎的知識と技術・技法の元に各自が自由なテーマに基づき個性的表現の実践と研究を行なう。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	自分の表現したい世界・対象を具現化するための造形力と技術力を養うことができるようになる									
	②	大作を描くために必要な全プロセスを理解できるようになる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	風景	実習	作品にする風景と出会うため屋外にて写生	360
	内容	風景をテーマとして屋外にて写生及び50号パネル製作			
2回	テーマ	風景	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	風景	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	草稿を転写、墨入れ、地塗り			
4回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	風景	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	風景・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			
8回	テーマ	自由制作(100号)	実習	十分に写生を繰り返す	360
	内容	描く対象を各自写生及び100号パネル製作			
9回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
10回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ、地塗り、本紙制作			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
12回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			



科目名	特別演習（洋画）（3美）				開講学年	3	講義コード	1675302	区分	選択	
英文表記	Special Seminar(Oil Painting)				開講期	前期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	有田巧（非常勤） 高梨芳実（非常勤） 下城賢一 熊谷有展										
研究室	L号館A201						オフィス アワー 前期・後期集中				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	フレスコ ストラッポ 壁画 古典技法 油彩絵画技法										
授業概要	イタリア発祥の壁画技法であるフレスコ技法を学ぶ。古典技法を学び、現在の絵画への変遷と発展を知り自らの作品制作を深める契機にする。							関連科目			
								洋画実習ⅢA・ⅢB、基礎デッサンⅠ、基礎デッサンⅡ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	フレスコについて知識を得る									
	②	適切な技法および画材のへの修練がなされたか									
	③	古典絵画技法への理解度									
	④	課題制作の完成度									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	30	70	0	0	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅢA、ⅢB、基礎デッサンⅠ、基礎デッサンⅡ
DPとの関連	古典技法と近代絵画 フレスコ
実務経験のある教員	
評価明細基準	1作品講評会(寸評など)を受けて各学生が自らの作品制作を客観的に評価できたか(30点) 2古典技法のテンペラ絵画制作を完成度、理解度、表現への取り組みなどを基準に評価(70点)

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	イタリア絵画		準備物と課題計画の確認	420
	内容	パレスコ絵画制作			
2回	テーマ	古典技法の理解			840
	内容	作品解説、講義			

科目名	特別演習（彫刻）（3美）				開講学年	3	講義コード	1675303	区分	選択	
英文表記	Special Seminar (Sculpture)				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	清島 浩徳										
研究室	L-A-216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻素材 彫刻作家										
授業概要	4年次の卒業研究のための予備研究として位置づけ、研究テーマの絞込みと、制作力の向上をめざして、制作のみならず、日本及び諸外国の伝統的な美術作品から現代の美術作品まで幅広く扱い、造形的な要素についての理解を深め、民族性や地域性と表現との関連、作家研究や論理的な考察も試みながら、表現者としての資質向上を目指す。							関連科目			
								日本美術史、西洋美術史、東洋美術史、西洋彫刻論、美術領域論Ⅱ			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	主な近代彫刻家について研究し理解することができるようになる									
	②	近代から現代の彫刻について幅広い知識を得ることが出来るようになる									
	③	卒業制作の試作を行なうことができるようになる									
	④	主な彫刻素材について自ら研究できるようになる									
	⑤	鑑賞したり研究したことを端的にレポートにできるようになる									
	⑥	調べたことをプレゼンテーションできるようになる									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	30	30	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	自分の好きな作家や興味のある作品などの研究をする 制作テーマを見つける。出来るだけ多くの美術館やギャラリーに行き、作品を見る(データや画像でなく本物を見る)
DPとの関連	専門的な力を身につけた、感性豊かな人格と、論理的な思考力を持つ人材を育てる
実務経験のある教員	
評価明細基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻芸術に対する基本的な知識を得られたか</li> <li>・自他の作品に対して、自らの言葉で感想やコンセプトを伝えることができたか</li> <li>・作家研究等によって、自分の作品に反映することができたか</li> <li>・卒業研究テーマが決まったか</li> </ul>

彫刻芸術に対する深い理解者となり、高度な資質を備えた表現者となるために、論理的なアプローチと感性的なアプローチをバランスよく試み、素材研究、作家研究、制作上での技法研究、コンセプチュアルな表現研究などの中から興味深いテーマを選び、自らの研究テーマを導き出す。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	導入		演習内容を理解する	90
	内容	オリエンテーション			
2回	テーマ	作家研究		作家研究(予習)	270
	内容	作家研究を行いプレゼンテーションをする			
3回	テーマ	素材研究		素材研究(予習)	450
	内容	素材研究をし、成果発表をする			
4回	テーマ	テーマ設定		テーマ制作(予習)	450
	内容	テーマ制作を行い、プレゼンテーションする			
5回	テーマ	プレゼンテーション		卒業研究テーマの決定	90
	内容	総括まとめ			



科目名	特別演習（視覚芸術）（3美）				開講学年	3	講義コード	1675305	区分	選択	
英文表記	Special Seminar				開講期	通年・集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	永田郁										
研究室	永田A208（芸術学部棟）						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	つなぎ美術館 達仏										
授業概要	本演習は津奈木町を教材にして、アートと社会、アートと地域、アートと人々といったテーマを体感する特別演習である。実施内容は以下の通りである。①津奈木町の「津奈木大橋下」にある達仏（西野達プロデュース）のメンテナンス ②「達仏」の観察（四季を通じて、春・夏・秋） ③津奈木町所在の16体の彫刻群をリサーチする							関連科目			
								視覚造形実習ⅢA、ⅢB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	実際の現場における観察により鑑賞力および表現力が養うことができた。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10	0	0		
教科書											
参考書											

予備知識	達仏のHP <a href="http://tatzubutzu.com/達仏/">http://tatzubutzu.com/達仏/</a> 津奈木町の16体の彫刻群 <a href="http://www.town.tsunagi.lg.jp/page817.html">http://www.town.tsunagi.lg.jp/page817.html</a>
DPとの関連	観察による鑑賞力と表現力を養う。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業概要①②③の取り組みと成果レポートおよび作品(90点)、SOJOポートフォリオによる学修到達度目標レポート(10点)の計100点

本演習は通年科目のため、スケジュールについては担当教員か連絡があるので、必ず確認すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	①達仏	対面	達仏をメンテナンスアシスタント	90×5
	内容	達仏メンテナンス(1~2日間)	実習		
2回	テーマ	②達仏をみる	対面	達仏を四季ごとに観察する	90×5
	内容	達仏の定期観測	実習		
3回	テーマ	③津奈木町所在の16体の彫刻群	対面	彫刻の観察 彫刻の撮影	90×5
	内容	津奈木町所在の16体の彫刻群をリサーチする	観察実習		

科目名	洋画実習ⅢA*2(3美)				開講学年	3	講義コード	1675501	区分	選必	
英文表記	Oil Painting ⅢA				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	熊谷有展										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金5				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	作家研究										
授業概要	作家研究を通して、二年度までのカリキュラムで習得した基本的技術を完成させ、自分自身の絵画世界を展開させる。幅広い表現方法、用具の特性の理解や、洋画の歴史について学ぶ。適宜課題作品の講評を行い、学生に作品上のアドバイスを行う。							関連科目			
								洋画実習ⅡB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	専門的な知識や技術を身に付けることができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅡB
DPとの関連	今後の創作活動を見据え、専門的な知識や技術を身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	課題作品のデッサン・エスキースを含んだ作品 講評・採点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
3回	テーマ	〃	〃	構図の決定	360
	内容	〃			
4回	テーマ	〃	〃	作家研究による自由制作。各自、自由な発想・テーマに基づいて、よりプロセスを大切にしながら取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
6回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
7回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
8回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
9回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
10回	テーマ	〃 講評	〃 講評	〃	360
	内容	〃 中間講評			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	実技	"	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	講評	"	360
	内容	作品講評			

科目名	洋画実習ⅢB*2(3美)				開講学年	3	講義コード	1675601	区分	選択	
英文表記	Oil Painting ⅢB				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	熊谷 有展 永田和之(非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	洋画ⅢB										
授業概要	<p>大作を制作するには、特にプロセスが重要である。発想段階から取材、デッサン、エスキース等の試行錯誤を経て作品のテーマが明確化される。自主的な制作計画を身につけながら自己の造形能力、感性を錬磨し、積極的な制作活動が求められる。発想段階から制作プロセスをエスキース等を見ながら話し合いを進めていく。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。幅広い表現方法、用具の特性や油彩画の歴史について学ぶ。</p>							関連科目			
								洋画実習ⅢA			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	作家研究をする中で自身に合う表現を探することができる									
	②	方向性・個性を確立させることができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	洋画実習ⅢAと連動して、テーマ制作を更に深める。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理能力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	課題作品のデッサン、エスキースを含んだ作品 講評、採点

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
3回	テーマ	制作	"	構図の決定	360
	内容	"			
4回	テーマ	制作	"	各自、自由な発想に基づいて、よりプロセスを大事にして取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
6回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
7回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
8回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
9回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
10回	テーマ	講評	"	"	360
	内容	" 中間講評			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
12回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	"	"	360
	内容	作品講評			

科目名	彫刻実習ⅢA*3(3美)			開講学年	3	講義コード	1675901	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅢA			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	粘土 人体 観察 量塊									
授業概要	人間をテーマにした彫刻表現の歴史は永い。私自身塑造分野の世界で人間表現の追求に取り組み、国内外での発表活動を経て半世紀近い。また、制作を通じた美術振興に関わる様々なプロジェクトの立案、支援も取り組んできた。これらの知見をもとにこの科目では、塑造による人体表現をテーマとして、身に付けるべき普遍的な造形の基礎を学びながら、成果物としての作品を地域共創活動での発表として展開する。授業は人体観察による等身大の塑造制作である。粘土の特性である可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、様々な角度から創意工夫や試行錯誤を行う。その手法として人間の観察による造形的な要素の理解を深めるためにポーズを固定し、時間をかけ観察によるアプローチを繰り返し行う。人体観察を通して、自然の摂理、構築を観察する中で、自由な精神に基づいた真理への探究心や、知性、感性に裏付けられた柔軟な思考力と発想力(表現の追求)を身に付ける。また、作品制作や研究を通し立案、計画、作業を自分で組み立て実現させる実行力を身に付ける。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを相互の意見交換を交えた中間講評により確認し、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。完成作品を地域共創活動として玉名市の高瀬蔵での展示会で発表する。この授業では前職における様々な制作活動(発表)を通じて得た経験を活かし、その経験を学生たちに教授している。						関連科目			
							基礎デッサンⅠ・Ⅱ 共通立体 彫刻実習ⅡA・ⅡB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	デッサンによる形態把握ができるようになる								
	②	心棒の制作が正確に出来るようになる								
	③	空間の中での量塊の位置が正しく理解できるようになる								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	プリント(解剖図)									
参考書	適時指示する									

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	1.客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行くことができる。【知識・理解】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。



作業着を着用し、作品を包む布、ビニール袋を準備しておくこと。モデルが入室する前に制作の準備をしておくこと。遅刻した場合休憩時間まで入口で待機しておくこと。常に室内の気温がモデル制作に適温か、留意すること。制作後の清掃は必ず行うこと。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	構造の理解	対面授業  実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	同上			
15回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	「到達度ポートフォリオ」の提出	180
	内容	講評会			

科目名	彫刻実習ⅢB*3(3美)			開講学年	3	講義コード	1676001	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅢB			開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)									
研究室	A212					オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	粘土 人体 観察 造形力									
授業概要	人間をテーマにした彫刻表現の歴史は永い。私自身塑造分野の世界で人間表現の追求に取り組み、国内外での発表活動を経て半世紀近い。また、制作を通じた美術振興に関わる様々なプロジェクトの立案、支援も取り組んできた。これらの知見をもとにこの科目では、塑造による人体表現をテーマとして、身に付けるべき普遍的な造形の基礎を学びながら、成果物としての作品を地域共創活動での発表として展開する。授業は人体観察による等身大の塑造制作である。粘土の特性である可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、様々な角度から創意工夫や試行錯誤を行う。その手法として人間の観察による造形的な要素の理解を深めるためにポーズを固定し、時間をかけ観察によるアプローチを繰り返し行う。人体観察を通して、自然の摂理、構築を観察する中で、自由な精神に基づいた真理への探究心や、知性、感性に裏付けられた柔軟な思考力と発想力(表現の追求)を身に付ける。また、作品制作や研究を通し立案、計画、作業を自分で組み立てて実現させる実行力を身に付ける。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを相互の意見交換を交えた中間講評により確認し、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。完成作品を地域共創活動として玉名市の高瀬蔵での展示会で発表する。						関連科目			
							基礎デッサンⅠA/ⅠB 共通立 体実習 彫刻実習ⅡA/ⅡB			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻						建築学 科のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
							学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標									
	①	デッサンにより形態の把握ができるようになる								
	②	心棒制作が正確に出来るようになる								
	③	空間の中での量塊の位置が正確に与えることができるようになる。								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書										
参考書										

予備知識	モチーフを人物(ヌード)とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	1.客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行くことができる。【知識・理解】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

モデル使用の為室温に常に留意すること モデル使用中の教室の入退出は禁止である。制作に入るための準備、特に室温調整をあらかじめしておくこと。制作後の清掃は必ず行うこと。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	構造の理解	対面授業  実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の理解 客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	「到達度ポートフォリオ」の作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			



科目名	鑄造実習 A (3美)				開講学年	3	講義コード	1676301	区分	選択	
英文表記	Casting Practice A				開講期	前期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	陶山 伸一 (非常勤・実務経験)										
研究室	硯川実習室107						オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	技法 窯 溶解 蝋 ブロンズ										
授業概要	蝋型鑄造に対する理解を深め、実習によって蝋の合わせ方、流し方、窯の組み方、火入れ、焼成、合金の割合、金属溶解、鑄込み、仕上げなどについて、確実に安全な方法を身につける。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	蝋型鑄造に対する理解を深めることができる。									
	②	安全に作業を行うことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	10	60	10	20	100		
教科書											
参考書											

予備知識	彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B
DP との 関連	1.造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を通して、社会への関わり方や発展に持続的に貢献できる能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】
実務経験 のある 教員	陶山 伸一
評価明細 基準	出席・課題の取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。

実習中に適宜指示する。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	講義で工程の流れを知る	80
	内容	蠟型鑄造法とは			
2回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	蠟の特性を知る	270
	内容	蠟原型制作			
3回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	窯詰め、焼成 火入れ、鑄型の焼成をする			
4回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	鑄込み			
5回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	到達度ポートフォリオの作成	80
	内容	仕上げ 型を割り、湯道、釘を抜く 酸洗い、着色、色止めをする			

科目名	日本文化特論（近代）＊6（3美）				開講学年	3	講義コード	1676601	区分	選必	
英文表記	Japanese Culture: Modern Japan, Advanced				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	モダン彫刻 モニュメント 近代日本 長崎										
授業概要	明治以降、日本は西洋列強と肩を並べるべく急激な近代化を推し進めた。日本美術もまた「西洋近代」を受容し、近代化を推し進めていった。彫刻という造形言語が絵画との対比において確立する時期、モニュメントとしての彫刻もまた地に溢れる。近代彫刻史はその一部においてモニュメントの歴史でもある（『彫刻の問題』より抜粋）。本講義は小田原のどか氏『近代を彫刻／超克する』（講談社）等のテキストを通して、近代における彫刻、モニュメントの問題について検証する。同時に長崎の爆心地に関連するモニュメントに焦点を当てその意味について受講生と一緒に考えたい。テーマごとの研究発表の際に、プレゼンテーションに対して講評を行う。							関連科目			
								日本美術史／東洋美術史／美術概論／芸術学演習Ⅰ／アートマネジメント論／日本・東洋美術史特論Ⅱ／彫刻実習ⅢA/ⅢB/ⅣA/ⅣB/視覚造形実習Ⅲ/視覚造形実習Ⅳ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	芸術というものが常に社会と連関して展開していることを理解できる。									
	②	芸術や美術の社会的な役割についての理解を深めることができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	40	0	10		100		
教科書	近代を彫刻／超克する 講談社 小田原のどか 記録資料と芸術表現 芸術学舎 林田新・中村裕太・小田原のどか 彫刻1空白の時代、戦時の彫刻、この国の彫刻のはじまりへ トポフィル 小田原のどか 現代思想 総特集ブラック・ライヴス・マター(10月増刊号)2020vol.48-13 青土社 上記のテキストは講義時に適宜コピー配布。										
参考書	日本彫刻の近代展(図録) 淡交社 東京国立近代美術館他編6 美術の日本近現代史 制度・言説・造型 東京美術 北澤憲昭他編 べらべらの彫刻 武蔵野美術大学出版局 戸田裕介編 彫刻2:彫刻、死後／新しい彫刻 書肆九十九 小田原のどか 彫刻の歴史 先史時代から現代まで 東京書籍 アントニー・ゴームリー・マーティン・ゲイフォード著、石崎尚他訳										

予備知識	特に予備知識は必要ないが、彫刻とは何かについて日頃関心を向けて貰いたい。
DPとの関連	造形活動および芸術文化研究における批判的な洞察力、さらにはそ言葉として表現する能力・態度を身につける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	各テーマにおけるプレゼンテーション(45)および課題レポート(45)、他SOJOポートフォリオ(10)で評価する

単位修得の条件 ①出席3分の2以上を満たしていること。②講義中に出された課題がすべて実施・提出されていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	対面	事前にテキストは熟読し、疑問点、わからない点などを整理して、授業に臨むこと。	90
	内容	本講義の進め方など、テキストについて	講義		
2回	テーマ	小田原のどか「1章空の空座」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	事前にテキストは熟読し、疑問点、わからない点などを整理して、授業に臨むこと。	270
	内容	「彫刻とは何か」を考える(2-4回目)	講義		
3回	テーマ	小田原のどか「1章空の空座」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	研究発表の準備(1週間) 研究発表、レポート作成。	180
	内容	本論文より問題点・テーマを探し、研究発表。テーマ:公共空間と女性裸体像(5-6回)	演習		
4回	テーマ	小田原のどか「2章 拒絶される彫刻」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	事前にテキストは熟読し、疑問点、わからない点などを整理して、授業に臨むこと。	270
	内容	なぜ拒絶されるのか?(7-8回)	講義		
5回	テーマ	小田原のどか「2章 拒絶される彫刻」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	研究発表の準備(1週間) 研究発表、レポート作成。	180
	内容	本論文より問題点・テーマを探し、研究発表。(9-10回目)	演習		
6回	テーマ	小田原のどか「3章 彫刻を語る」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	事前にテキストは熟読し、疑問点、わからない点などを整理して、授業に臨むこと。	270
	内容	彫刻の「思想的課題」(11-13回目)	講義		
7回	テーマ	小田原のどか「3章 彫刻を語る」『近代を彫刻／超克する』を読む。	対面	研究発表の準備(1週間) 研究発表、レポート作成。	180
	内容	本論文より問題点・テーマを探し、研究発表。(14-15回目)	演習		



科目名	宗教芸術・文化Ⅰ（ヨーロッパ・日本）＊6（3美）			開講学年	3	講義コード	1676801	区分	選必		
英文表記	Religious Art & Culture I : European & Japanese Society			開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2		
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313					オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	キリスト教美術 キリシタン美術 聖母マリア 黙示録										
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つに、芸術文化研究における専門的知識を総合的に修得するということが挙げられているが、本科目は西洋美術史の二大根幹といえるキリスト教美術について基礎的知識を身に付けるという意味で、芸術文化コースの学生にとって必要不可欠な科目である。本年度も、キリスト教美術の発生から現代に至るまでの重要なキリスト教建築・美術・文化について学習する。また特に本年度は、岡田温司氏の『処女懐胎 描かれた「奇跡」と「聖家族」』をプレゼン発表の教科書として、キリスト教美術における黙示録の図像やそれらの作例などについて学習、考察していく。また近代のマリアの「奇跡」の表象としてフランスのルルドの例を紹介するとともに、日本の近世や近代における聖母マリア信仰の特徴についても紹介し、キリスト教美術史全般の基礎的知識の習得を目指す。また、プレゼン後にはプレゼンに対するフィードバック、提出されたレポートには添削して返却(フィードバック)を行うので、赤入れされた箇所を熟読し、次回レポート作成時に反映させて欲しい。</p>							関連科目			
								西洋美術史、西洋美術史特論Ⅰ、西洋美術史特論Ⅱ、日本近世・近代美術史、ほか			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・選択【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	キリスト教美術の主題や図像について基礎的知識を得る。									
	②	様式的な変化を生じさせた時代背景や要因について考察する思考力を養う。									
	③	資料作成能力を身に付ける。									
	④	プレゼンテーション力を身に付ける。									
	⑤	学術的な記述力を身に付ける。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	35	0	10	15	100		
教科書	処女懐胎 描かれた「奇跡」と「聖家族」 中公新書 岡田温司										
参考書	聖母マリア 講談社選書メチエ 竹下節子 聖母マリア 創元社 シルヴィ・バルネイ著 船本弘毅監修 遠藤ゆかり訳 聖母像の到来 白水社 若桑みどり キリスト教美術図典 吉川弘文館 柳宗玄 中森義宗編 黙示録										

予備知識	特になし。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家として、専門的知識(ここではキリスト教美術)や論理的思考力、プレゼンテーション力、国際的視点を身に付け、社会において課題や問題を解決できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	P.P.を使用した発表(35点)とレポート(40点)、ポートフォリオ、出席状況の合計点とする。合計が6割に満たない場合はレポートの再提出がある。

P.P.を使用した発表とレポート提出がある。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	1回目の復習	40
	内容	ガイダンス／キリスト教の歴史			
2回	テーマ	キリスト教の歴史	対面	2回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
3回	テーマ	キリスト教の歴史	対面	3回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
4回	テーマ	キリスト教の歴史	対面	4回目の復習	30
	内容	概説(キリスト教の歴史)			
5回	テーマ	聖母マリア信仰	対面	5回目の復習	30
	内容	概説(聖母マリア信仰とマリア像の諸型)			
6回	テーマ	聖母マリア信仰	対面	6回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(聖母マリア信仰とマリア像の諸型) 研究発表分担の決定			
7回	テーマ	ルルドと聖洞窟模型	対面	7回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(ルルドの奇跡と模造ルルドの世界への普及)			
8回	テーマ	ルルドと天草	対面	8回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(巡礼地ルルドと天草の模造ルルド)			
9回	テーマ	日本のルルドの聖母信仰	対面	9回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	講義(日本におけるルルドの聖母信仰と模造ルルドの普及)			
10回	テーマ	無原罪の御宿り	対面	10回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	無原罪のお宿りとは?～中世までの展開			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	無原罪の御宿り	対面	11回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	近世の諸作例			
12回	テーマ	無原罪の御宿り	対面	12回目の復習 担当章のプレゼン準備	90
	内容	無原罪のお宿りの諸類型(1)			
13回	テーマ	無原罪の御宿り	対面	学生による研究発表1、総括 レポート準備	180
	内容	無原罪のお宿りの諸類型(2)			
14回	テーマ	プレゼン	対面	学生による研究発表2、総括 レポート準備	180
	内容	学生による発表 マリアの処女懐胎(前半)			
15回	テーマ	プレゼン・レポート提出	対面	学生による研究発表3、総括	180
	内容	学生による発表 マリアの処女懐胎(後半)			

科目名	考古学と文化財Ⅰ（考古・発掘）＊7（3美）				開講学年	3	講義コード	1677101	区分	選必		
英文表記	Archology and Cultural Proderity I				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	2		
担当教員	清田 純一(非常勤)											
研究室	芸術学部棟 1階 事務室						オフィス アワー 授業後					
メールアドレス	kiyotar02@icloud.com											
キーワード	考古学 日本考古学 文化財											
授業概要	美術学科の人材育成の目標の一つにあるように、芸術を学ぶ者にとっては、専門家としての知識を総合的に身につけることが求められる。本科目においては、考古学の手法によって導き出される先人たちの精神文化やライフスタイルを学ぶことにより、視野を広げることになる。日本における遺跡数は約47万箇所を数え、年間8千件を超える発掘調査が行われている。これらの調査では、時代を異にする遺構が検出され、様々な遺物が出土している。これらは人々の生きざまを知る大きな手掛かりとなる。本科目では、残された遺構や遺物から、先人たちがどのように生きたかについて、特に原始・古代に言及し、九州・熊本の事例を取りあげながら、日本列島の様相について講義する。前半は、各時代の概要について、後半は、設定したテーマに沿った「もの」について講義する。 フィードバックは、個別の講評によって行う。								関連科目		考古学と文化財Ⅱ、その他の芸術文化コース科目	
	建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造								
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・選択【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)								学修・教育目標			
	JABEE基準											
JABEE記号	学生の到達度目標											
①	考古学とはどのような学問分野か知ることができる											
②	発掘調査等で得られた最新の知識を得ることができる											
③	文化財とは何かを知ることができる											
④	日本における原始・古代の社会について知ることができる											
⑤												
⑥												
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	20	0	20	30	0	0	10	20	100			
教科書	無し											
参考書	特になし											

予備知識	特になし
DPとの関連	芸術文化研究において培った基礎知識や専門知識、論理的思考力、歴史的視点を生かして、社会で芸術文化研究における専門家として、芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	中間試験(20点)小テスト(20点)レポート(30点)ポートフォリオ(10点)授業態度・積極性(20点)第8回の講義において中間試験を、最終講義において小テストを実施する。また全講義終了後指定日まで小レポートを提出。

授業開始10分までは正規出席とし、30分以降は欠席とする。レポート等の提出物のコピー&ペースト等の剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	日本考古学の歴史と手法	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	日本考古学の始まりから現在に至るまでの変遷について講義し、考古学の本質について学ぶ	講義(パワーポイント)		
2回	テーマ	始原期の考古学～旧石器時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	日本列島における始原期の人類について、出土した遺物をもとに講義する	講義(パワーポイント)		
3回	テーマ	貝塚の考古学～縄文時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	縄文時代の代表的な遺跡である貝塚について、県内の貝塚の事例を中心に縄文時代の暮らしについて言及する	講義(パワーポイント)		
4回	テーマ	倭国大乱と倭人の暮らし～弥生時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	中国の史書にも記載される「倭国大乱」の時期の日本列島の様相について熊本県内の遺跡を取り上げ、日本列島の様相について講義する。	講義(パワーポイント)		
5回	テーマ	古墳前夜の日本列島～弥生時代の終焉～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	権威のシンボルとして、全国に古墳が作られる直前の日本列島の様相について講義する。	講義(パワーポイント)		
6回	テーマ	古墳の広がり)と日本列島～古墳時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	全国の主要な古墳を紹介しながら、熊本県内の古墳との比較や同時代の様相について講義する。	講義(パワーポイント)		
7回	テーマ	平城京の考古学～奈良時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	中央集権国家が確立した奈良時代の都「平城京」について、発掘調査の成果をもとに講義する	講義(パワーポイント)		
8回	テーマ	西海道と肥後の国～奈良時代～平安時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	平城京が作られたころ西海道と呼ばれていた九州や肥後熊本に様相について講義する	講義(パワーポイント) 中間テスト		
9回	テーマ	土器の見方	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	原始・古代において生活の必需品であった土器について、考古学的な手法を用い、いろいろな視点から抗議する	講義(パワーポイント)		
10回	テーマ	酒器と酒造技術の変遷①～縄文時代・弥生時代～	対面	配布資料に目を通しておく	90
	内容	いろいろな場面で登場する酒について、その変遷について、酒器を中心に講義する	講義(パワーポイント)		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	酒器と酒造技術の変遷②～古墳時代・古代～	対面  講義(パワーポイント)	配布資料に目を通しておく	90
	内容	前回は引き継ぎ期の講義			
12回	テーマ	龍の絵画土器	対面  講義(パワーポイント)	配布資料に目を通しておく	90
	内容	日本列島において後人が理解した「龍」について、土器に描かれた龍の絵画土器を中心に講義する			
13回	テーマ	埴輪の考古学	対面  講義(パワーポイント)	配布資料に目を通しておく	90
	内容	古墳時代の遺物として、最も周知度の高い埴輪についてその変遷や意味について発掘事例から抗議する			
14回	テーマ	埋蔵文化財の保存と活用	対面  講義(パワーポイント)	配布資料に目を通しておく	90
	内容	発掘調査によって見つかった遺構や遺物はどのように処理され、保存されるのか。またそれらを活用するすべについて講義する			
15回	テーマ	現地見学	対面  学外授業	現地で学習したことを整理しておく。	30
	内容	実際に歴史資料館や発掘の現場を見学し、オリジナルの資料や学会員から直接考古学や保存について学ぶ。			
16回	テーマ				
	内容	課題レポート提出			

科目名	芸術文化演習Ⅰ(3美)				開講学年	3	講義コード	1677301	区分	必修	
英文表記	Art & Culture Studies : Practice I				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A312 A208						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	文献検索 資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション										
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つに、研究の授業を通して課題を発見し、解決する能力を養うことがあるが、本科目は芸術文化コースで4年次に卒業研究提出を目指す学生にとっては必要不可欠な科目である。本科目では、4年次の卒業研究(論文作成)に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究(論文)の遂行に必要な一連の事柄(作品やものの見方や考え方を含む)の指導を行う。また、到達度目標の達成状況をみながら、学生による研究発表も開始し、課題の発見力を養う。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全科目			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。									
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。									
	③	卒業研究の方向づけを行うことができるようになる。									
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。									
	⑤	研究成果の発表方法に熟達できるようになる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	25	0	10	15	100		
教科書	個別に指示、指導する										
参考書	個別に指示、指導する										

予備知識	テーマに関するある程度の知識が必要。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・発表内容および提出された小論文(もしくはレポート)、口頭発表、並びに出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。

受講生各自の積極的な取り組みと研究内容のP.P.等を使用した口頭発表が必要である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	論文とは	対面	科目の内容と目標を理解する	0
	内容	オリエンテーション(論文とは何か)			
2回	テーマ	論文作成のタイムスケジュール	対面	各自タイムスケジュール作成(復習)	60
	内容	ガイダンス(論文作成のためのタイムスケジュール)			
3回	テーマ	資料収集法	対面	各自文献検索(復習)	60
	内容	資料収集法1(文献)			
4回	テーマ	資料収集法	対面	各自画像取り込み(復習)	60
	内容	資料収集法2(画像)			
5回	テーマ	資料収集法	対面	各自作品データの収集・電子化作業(復習)	60
	内容	資料収集法3(作品データの収集)			
6回	テーマ	文献検索法	対面	学習した文献検索方法によって課題のリスト作成(復習)	60
	内容	文献検索の方法1(図書館、文書館、美術館、博物館等の施設の活用)			
7回	テーマ	文献検索法	対面	論文が掲載されている書籍から各自復習として論文を検索してみる(復習)	60
	内容	文献検索の方法2(論文検索のための書籍の活用)			
8回	テーマ	文献検索法	対面	WEBから自身の研究課題に関する文献を検索してみる(復習)	60
	内容	文献検索の方法3(WEBの活用)			
9回	テーマ	問題設定	対面	各自で論文のテーマを想定して、構成を考えてみる(復習)	30
	内容	論文の問題設定と方向づけについて			
10回	テーマ	テーマ設定	対面	各自で内容に合致したよりよいテーマを考えてみる(復習)	30
	内容	テーマ設定(受講生各自のテーマを決定する)			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	論文の書式	対面	学術雑誌等に当たり、微妙な違いを認識する(復習)	30
	内容	論文執筆の実際1(論文の書式)			
12回	テーマ	論文の展開	対面	論文の文章の構成、展開に関する復習	30
	内容	論文執筆の実際2(文章の展開法)			
13回	テーマ	プレゼンのテクニック	対面	プレゼンに関する復習	30
	内容	プレゼンテーションの技法(視聴覚機器の使い方、資料の提示法)			
14回	テーマ	資料の加工	対面	パソコンを使って実際に資料を加工してみる(復習)	40
	内容	資料の加工(視聴覚資料の作成)			
15回	テーマ	図版作成	対面	パソコンやスキャナなどを使い独力で図版を使ってみる(復習)	40
	内容	図版作成(論文の挿図や口絵などの作成)			
16回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
17回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	60
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
18回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
19回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
20回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	60
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
22回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
23回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	60
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
24回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
25回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	60
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
26回	テーマ	研究発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
27回	テーマ	論文講読	対面	論文をもう1度読み返し、問題点や新規性を整理する(復習)	60
	内容	論文講読(研究テーマに関する論文の講読)			
28回	テーマ	口頭発表	対面	発表の準備(予習)	120
	内容	研究発表(決定したテーマに関する口頭発表)			
29回	テーマ	小論文執筆	対面	卒業論文に向けての小論文執筆(予習)	180
	内容	小論文執筆			
30回	テーマ	提出・添削	対面	卒業論文に向けての小論文執筆(予習)	180
	内容	小論文執筆・提出			



科目名	視覚造形実習ⅢA*8(3美)				開講学年	3	講義コード	1677501	区分	選必		
英文表記	Visual Arts Work IIIA				開講期	前期	開講形態	対面授業	単位数	8		
担当教員	永田 郁 野島泉里(非常勤) 野島マーサ(非常勤) 東耕平(非常勤)											
研究室	芸術学部棟A208(永田) 硯川実習棟303/102(非常勤)						オフィス アワー 水曜日5限					
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	作品制作 現代アート											
授業概要	<p>本実習は3年後期の大型作品の制作を念頭に入れて、基本的には制作系は野島泉里、野島マーサ・東耕平各講師によるアプローチと制作のための理論については永田のアプローチにより、受講者自身がいかに日頃感じている、またはいろいろな場面で発見した「気づき」を作品化できるよう、制作および理論の双方で指導していく。視覚造形実習ⅢAではfinding your voice(自身の興味を掘り下げる、または自分をみつめる)およびSelf research(自ら学ぶ)のアプローチにより実験的なことも含め個人の興味を探りながら考えを深めていく。本実習を通して、アートと社会の関係も考え、本実習の学びがどのように実社会に還元できるかも学生と一緒に議論する。本実習は週2コマ×4回で実施される。3年後期の大型作品の制作に必要な方法論、理論について野島(泉)&amp;(マ)両講師、東講師および永田が担当する。担当開講曜日は下記の通りである(予定*R4年度時間割を確認すること)。月3-4限:東講師【美/非】 火1-2限野島(マ)講師【美/非】 水3-4限永田【美】 金3-4限:野島(泉)講師【美/非】</p>								関連科目			
									視覚造形実習Ⅳ、学外演習(視覚)、ワークショップ演習			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	3年後期の大型作品の制作へ向けての作品の構想化から制作実施まで実現できるようなテーマを発見し、またそのテーマを具体的に視覚化できるよう方法論について理解し、実践でできるようになる。										
	②											
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	20	70	10	0	100			
教科書	特に指定しない											
参考書	<p>メイキング 人類学・考古学・芸術・建築 左右社 T・インゴルド          ラインズ 線の文化史 左右社 T・インゴルド          ライフ・オブ・ラインズ フィルムアート社 T・インゴルド          制作へ EKTRITS 上妻世海</p>											

予備知識	
DP との 関連	造形活動を通して総合的な問題解決の方法を学ぶ。
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	実習の取り組み方(アート制作実習、理論演習)と各担当における提出課題(70点)・作品または研究発表(プレゼン)(20点)により評価する。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

オリエンテーションおよび実習の初回には必ず出席すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	野島泉里・野島マーサ・東 耕平クラス	対面	スキル体験・素材研究など	540× 3週間
	内容	スキルアップ週間「ものづくりゼミナール」表現の幅を広げるスキルの体験、素材の発見の期間(1st-3rd week)	実習		
2回	テーマ	自由制作のための探究・実験Ⅰ(4th-7th week)	対面	各自のテーマで探究・実験	540× 4週間
	内容		実習		
3回	テーマ	中間成果発表会(8th week)	対面	探究・実験の成果発表	540
	内容		プレゼンテーション・講評		
4回	テーマ	自由制作のための探究・実験Ⅱ(9th-14th week)	対面	各自のテーマで探究・実験	540× 6週間
	内容		実習		
5回	テーマ	前期成果発表会(作品・アイデア等複数発表可)	対面	探究・実験の成果発表	540
	内容		プレゼンテーション・講評		
6回	テーマ	永田クラス ポートフォリオ作成+フィールドワーク	対面	ポートフォリオとは何?から具体的なコンテンツを立てる。	180×2 週間
	内容	ポートフォリオを作ろう	講義		
7回	テーマ	作家・作品研究	対面	興味ある作家・作品を取り上げディスカッション	180× 4週間
	内容		演習		
8回	テーマ	フィールドワーク実習Ⅰ	対面	地域を決めて、そこをフィールドワークし、資源・種を探し、作品や発表を行う。	180× 8週間
	内容		実習・演習		
9回	テーマ	フィールドワーク実習Ⅰ 成果発表	対面	フィールドワークの成果発表	180
	内容		プレゼンテーション・講評		

科目名	卒業研究◎（日本画、洋画、彫刻、視覚芸術）（4美）				開講学年	4	講義コード	1677701	区分	必修	
英文表記	Graduation Study/Work				開講期	通年・集中	開講形態	対面授業	単位数	16	
担当教員	清島浩徳 中村賢次 佐藤和歌子 熊谷有展 下城賢一 勝野眞言 永田郁										
研究室	A 2 1 6 (清島研究室) A 4 1 6 (中村研究室)・A 4 1 2 (佐藤研究室) A 3 1 1 (熊谷研究室)・A 3 1 6 (下城研究室) A 2 1 2 (勝野研究室) A 2 0 8 (永田研究室)						オフィス アワー 火曜日昼休み				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	卒業研究 卒業制作										
授業概要	卒業制作・研究を行う。各専門に関連する各自の卒業研究テーマを決定し、担当教官より個別の指導を受け、4年間の集大成として作品制作及び研究を行なう。制作・研究指導に対するフィードバックはその都度実施する。							関連科目			
								本学科で履修した全ての科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	作品及び研究に於ける全プロセスへの理解を深め、テーマの具現化を目指す。その過程に於いて問題提起とその解決能力を身に付けることができるようになる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	0	70	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	本学科で履修した全ての科目
DPとの関連	卒業制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	研究作品と制作論、研究姿勢などを総合的に評価する

担当教員の指導のもとで各々の研究に必要な準備・取材等に十分な時間を掛け、目標に向かって日常的に自己反省とその解決のために必要な準備を実践する

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	卒業制作・研究		卒業制作・研究のサイズやテーマ設定と提出日程確認	720
	内容	オリエンテーション・卒業制作・研究の流れとテーマの決定			
2回	テーマ	卒業制作・研究		各学生が担当教員のもと、3年間で修得した内容を踏まえテーマを設定する	720
	内容	制作・研究のテーマ決定			
3回	テーマ	卒業制作・研究		設定したテーマを具現化するために必要な理論及びイメージの構築・サイズの決定	720
	内容	テーマの具体化			
4回	テーマ	卒業制作・研究		制作・研究に必要な取材、使用画材・機材等の準備を行う	720
	内容	制作・研究のための準備			
5回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
6回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
7回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
8回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
9回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
10回	テーマ	卒業制作・研究		制作及び研究	720
	内容	制作・研究			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
12回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
13回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
14回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
15回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
16回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
17回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
18回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
19回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
20回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
22回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
23回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
24回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究	720
	内容	制作・研究			
25回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			
26回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			
27回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			
28回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			
29回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			
30回	テーマ	卒業制作・研究	実習・PBL	制作及び研究と卒業展に向けての準備	720
	内容	制作・研究			

科目名	卒業研究◎（芸術文化）（4美）			開講学年	4	講義コード	1677702	区分	必修		
英文表記	Graduation Study/Work(Art & Culture)			開講期	通年	開講形態	対面	単位数	8		
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A313 A208					オフィス アワー 金曜放課後					
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	論文 美術史 文化史 AL PBL										
授業概要	<p>本科目は芸術文化コースの卒業研究(論文)を執筆するために必要不可欠な科目である。各自の卒業研究のテーマを決定し、個別に指導を受けながら、4年間の集大成として研究論文の執筆を行う。担当教員の指導下で各々の研究に必要なフィールドワークや文献収集を十分に行い、提起した問題の解明(結論)に向けてを努力することで、論文を執筆する基礎能力や汎用的調査・研究能力を養う。フィードバックは、論文の入れ添削や構成の修正などの形で行うので、赤入れされた箇所のコメントを熟読、再考し、よりよい卒業論文にしていって欲しい。</p>							関連科目		芸術文化コース全科目	
								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分								学修・教育目標			
								JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	学術論文の書き方や構成方法を習得する。									
	②	論理的な考察ができるようになる。									
	③	注の意味を理解し注が付けられるようになる。									
	④	文献の扱い方や参考文献一覧の作成方法を習得する。									
	⑤	図版の処理やキャプションのつけ方に習熟する。									
	⑥	フィールドワークや写真撮影、インタビューなどができるようになる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0		20	70	10	0	100		
教科書	個別に指導										
参考書	個別に指導										

予備知識	テーマに関するある程度の事前知識が必要
DPとの関連	学外(フィールド)に出て第一次資料の実見や写真撮影、台帳記入をしたり、図書館等で文献調査・収集を行ったりして、研究課題解決のための技術や知識、論理的思考力、プレゼンテーション力を身に付けることで、社会において芸術文化研究の専門家として芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を修得することを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	論文(70点)と口頭発表(20点)、ポートフォリオ(10点)の総点で評価を行う。

先行研究を熟読し、できるだけ早く未解明の問題を絞り込み、問題解明のための資料や文献収集、インタビューを行うこと。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学術論文を書く	対面	学生に応じて異なる	8カ月
	内容	授業としては設定せず、必要に応じ随時指導	AI PBL		

科目名	芸術文化演習Ⅲ◎（4美）				開講学年	3	講義コード	1677801	区分	必修	
英文表記	Art & Culture Studies : Practice III				開講期	前期	開講形態	対面	単位数	4	
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A313 A208						オフィス アワー 金曜3限				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	文献検索・資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション										
授業概要	<p>課題を発見し、解決できる高度な専門家を目指し卒業研究を論文で提出する学生にとっては必要不可欠な科目である。本科目は、「芸術文化演習Ⅱ」に引き続き、4年次の卒業研究(論文作成)に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究(論文)の遂行に必要な一連の事柄(作品やもの見方や考え方を含む)の指導を行う。「芸術文化演習Ⅲ」では、学術論文を実際に数本読みながら、論文や論文の書き方についてさらに知識を深めた後、学生による研究発表(1名/1週間)を中心に授業を進め、課題発見力や解決能力を養う。フィードバックは、プレゼンに対する講評や、レポートの赤入れ添削や構成修正の形で行う。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全科目			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。									
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。									
	③	卒業研究の方向づけが行えるようになる。									
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。									
	⑤	研究成果の発表方法に熟達できるようになる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	25	0	10	15	100		
教科書	授業の中で個別に指示する										
参考書	授業の中で個別に指示する										

予備知識	テーマに関するある程度の知識。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・口頭発表の内容、提出された小論文もしくはレポート、出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。



受講生各自の自主的、積極的な取り組みが必要である。また、研究内容の口頭発表、小論文の提出は必須である。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	なし	0
	内容	オリエンテーション1(科目のガイダンス)	講義		
2回	テーマ	進捗状況報告	対面	報告準備	90
	内容	オリエンテーション2(研究の進捗状況報告)	講義 演習		
3回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
4回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
5回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
6回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
7回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
8回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
9回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		
10回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)	講義 演習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
12回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
13回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
14回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
15回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
16回	テーマ	論文講読	対面	事前の下調べ・論文収集(予習)	40
	内容	論文講読(履修者の研究テーマに関する論文講読)			
17回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
18回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
19回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
20回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
22回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	履修者による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
23回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
24回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
25回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
26回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
27回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
28回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
29回	テーマ	執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
30回	テーマ	総括	対面	小論文最終作成(予習)	180
	内容	半期の総括と各学生への今後の指導／小論文提出			

科目名	基礎デッサンⅡ（1美）			開講学年	1	講義コード	2670601	区分	選択	
英文表記	basic drawing Ⅱ			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	下城 賢一 柳田也寿志									
研究室	A214					オフィス アワー 水曜日・放課後				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	デッサン 石膏像デッサン 素描 基礎造形 構成デッサン									
授業概要	この授業では平面および立体表現領域における基礎造形力を養うことを目的とする。デッサンを通して身近なモチーフ（描く対象）を深く観察し、そのモチーフに宿る均衡、律動、バランスなどを美しさを感じながら描き、対象に向き合うことを学ぶ。さらにはモチーフが作り出す空間と室内空間を適切な光と影を表現しながら修練を重ねることで、空間に対する認識力が高まっていく。またモチーフの観察力の高まりにより、表面の質感表現からより根本的なイメージの構築へと表現が深まって行くことを目指す。各実技課題毎に毎回作品公表・採点を行います。その採点が成績になります。						関連科目			
							日本画実習 洋画実習 彫刻実習 視覚造形実習 共通絵画実習Ⅰ 共通絵画実習Ⅱ 共通立体実習 アート・イラストレーション実習 3Dアート実習			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…必修【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	観察から表現へ 作家としての視る力、表現する力を養うことができるようになる。								
	②	平面表現における空間把握の理解ができるようになる								
	③	構図の理解ができるようになる								
	④	明暗、陰影(調子)の理解ができるようになる								
	⑤	観察と描き込みにより完成度を高めることができるようになる								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	40	50	10	0	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	シャルル・バルグのドローイングコース (株)ポーンデジタル ジェラルド・M・アッカーマン 978-4-86246-376-0									

予備知識	基礎デッサンⅠ
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における専門家として、基礎的技術や専門的知識を総合的に身に付けたものに関連した科目である
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.口頭による成果発表 適時に自分の作品に対し狙い及び批評を行う 各20点×2回 40点 2.作品制作に対する取り組み姿勢、作品の内容(表現力、完成度、他)で総合的に評価する(50点) 3.ポートフォリオによる振り返り。(10点)

デッサン用具一式(木炭、木炭紙、鉛筆、カルトンなど)を準備する。テーマにそった内容の講義を実習内に適時行い、テーマにつながる文献等を紹介し、実習外でそれらを補う学習法を指示する。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	静物素描 2種類のモチーフから選択する。	実習	対象をよく観察し、不要な部分を整理して、表現する力を養う。 形、明暗、材質、空間の表現	180
	内容				
2回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
3回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
4回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
5回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
6回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
7回	テーマ	"	実習	" ポートフォリオの中間チェック	180
	内容				
8回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				
9回	テーマ	石膏デッサンⅠ	実習	古典彫刻の作品の造形から、形態の美しさを学び、素描の基礎力を培う。	180
	内容				
10回	テーマ	"	実習	"	180
	内容				



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
12回	テーマ	石膏デッサンⅡ	実習	石膏デッサンⅠより高度な石膏像に取り組むことにより、応用力を身につける。ポートフォリオの提出	180
	内容				
13回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
14回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				
15回	テーマ	〃	実習	〃	180
	内容				

科目名	美術領域論Ⅰ（平面造形）（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2670801	区分	選択	
英文表記	Art domain theory (Plane painting)				開講期	後期	開講形態	遠隔授業	単位数	2	
担当教員	下城賢一										
研究室	A-316						オフィス アワー 金曜日・放課後				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	西洋絵画全般										
授業概要	<p>多数の作品の画像をパワーポイントで紹介しながら講義・ディスカッションをする。学生は消費者としてではなく、表現者になるためにそれらのイメージの根底を読み解いていかなければならない。近代以降の画家は何を読み取り、何を表現してきたのか。この講義では西洋絵画全般を広く紹介し、作品制作にとって必要な平面絵画の知見を身につける。</p>							関連科目			
								西洋美術史・東洋美術史			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	絵画における再現性について理解できている									
	②	ロマン主義が芸術表現に与えた影響を理解できている									
	③	キリスト教芸術がどのようにジャンルを派生させたか理解できている									
	④	西洋絵画史の連続性と相互作用について理解できている									
	⑤	西洋絵画の技法史を理解している									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	85	0	0	10	5	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書											

予備知識	日本画実習1A・洋画実習2A・彫刻実習1A・基礎デッサン1・2
DPとの関連	【知識・理解】造形活動や芸術文化研究における専門家として、基礎的技術や専門的知識を総合的に身に付けたものと関連する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート提出(レポート3課題)85点 その他(出席など就学態度)5点 ポートフォリオ 10点

次の講義の課題について調べておくこと

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	オリエンテーション シラバス説明 授業概要など	遠隔双方向 ..... 講義		40
2回	テーマ ..... 内容	西洋絵画の始まり1	遠隔双方向 ..... 講義	絵画はどのようにして始まったのか?宗教史から多角的に紐解く。	90
3回	テーマ ..... 内容	西洋絵画の始まり2	遠隔双方向 ..... 講義	絵画はどのようにして始まったのか?宗教史から多角的に紐解く。	90
4回	テーマ ..... 内容	平面絵画について	遠隔双方向 ..... 講義	さまざまな絵画の種類について	90
5回	テーマ ..... 内容	平面絵画について2	遠隔双方向 ..... 講義	さまざまな絵画の種類について	90
6回	テーマ ..... 内容	平面絵画について3	遠隔双方向 ..... 講義	さまざまな絵画の種類について	90
7回	テーマ ..... 内容	平面絵画について4	遠隔双方向 ..... 講義	さまざまな絵画の種類について	90
8回	テーマ ..... 内容	平面絵画について5	遠隔双方向 ..... 講義	さまざまな絵画の種類について	90
9回	テーマ ..... 内容	絵画の発展史	遠隔双方向 ..... 講義	絵画における発展史・作品制作者における視点	90
10回	テーマ ..... 内容	絵画の発展史2	遠隔双方向 ..... 講義	絵画における発展史・作品制作者における視点	90

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	絵画の発展史3	遠隔双方向	絵画における発展史・作品制作者における視点	90
	内容		講義		
12回	テーマ	絵画の発展史4	遠隔双方向	絵画における発展史・作品制作者における視点	90
	内容		講義		
13回	テーマ	絵画の発展史5	遠隔双方向	絵画における発展史・作品制作者における視点	90
	内容		講義		
14回	テーマ	絵画の発展史6	遠隔双方向	「絵画における発展史・作品制作者における視点	90
	内容		講義		
15回	テーマ	まとめと補足	遠隔双方向	平面絵画の総合的な視点	90
	内容		講義		
16回	テーマ				
	内容		講義		

科目名	コンピュータ演習（1美）		開講学年	1	講義コード	2670901	区分	選択		
英文表記	Seminar in Computer		開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4		
担当教員	森 英顕（非常勤・実務経験）									
研究室	教務課前 非常勤講師室					オフィス アワー 授業の前後				
メールアドレス	h0002636@m.soyo-u.ac.jp									
キーワード	資料作成 画像編集 アートディレクション Photoshop Illustrator									
授業概要	<p>本授業ではコンピュータ上で行う演習を通してアーティスト活動を円滑に行うための《アートのためのセルフ・ディレクション》の趣意を理解し実際に応用できる力を身に付ける。模範的にセルフ(自分自身)で自分自身の展覧会(個展)をディレクション(制作・進行・管理)することでアート・ワールドの構造や表現活動におけるプロジェクトの流れと全体像を把握し、演習を通して基礎的なコンピュータの活用法を学び情報伝達に必要な書類作成(DTP)とプレゼンテーションの基礎スキルを習得することを目的とする。《アートのためのセルフ・ディレクション》本授業の意図は「アーティストの活動発表」を自分自身で実践できる方法を身に付けることである。各授業の冒頭ではアート・ワールドへの導入として、歴史・学術・マーケットの中で生まれたアートの捉え方を概観し、「アーティストの活動発表」すなわち「自分の作品を他者に鑑賞(体験)してもらう活動」をどのように行うのか、その行いをどのように他者に伝えていくのかを「知る事」について述べていく。演習では課題をこなすだけではなく自らの作家活動を見据えた視野を持って取り組むこと。「ディレクション」とはプロジェクトの制作から管理まで総合的な役割を示す言葉である。一般的に企画を管理する役割、「全体を見る」「取りまとめる」だけではなく実際に制作に関わる・手を使うというニュアンスも含まれている。自分自身の展覧会(個展)をディレクションすることで企画に関わる一連の流れを知り、情報発信に必要なテキスト・ビジュアルの作成といったコンピュータを活用する課題を実践的に学ぶことで、アーティスト活動やアートに関わる人々の働きを知り自らの活動に繋がってもらいたい。</p>						関連科目			
							コンピュータ基礎実習			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	コンピュータの活用法を習得することができる。								
	②	アートのためのセルフ・ディレクションのプロセスを理解することができる。								
	③	企画・広報に関わる文書・フライヤー等の作成法を習得することができる。								
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	25	30	20	10	15	100	
教科書	授業の中で適宜配布する									
参考書	授業の中で適宜配布する									

予備知識	コンピュータ基礎実習
DPとの関連	<p>アートのためのセルフ・ディレクションに関わる資料作成を通して、道具としてのコンピュータ活用法を理解することが期待できる。【知識・理解】企画・広報のための資料作成のプロセスを踏む中で、文書作成・画像編集ソフトウェアのオペレーションを習得し、社会活動に応用できる力を身に付けることが期待できる。【汎用的技能】【態度・志向性】</p>
実務経験のある教員	森 英頭
評価明細基準	<p>点数の割り当ては以下とする。(合計100点) ①成果発表(演習9課題と最終プレゼン×各3点)30点 ②レポート(実践演習5課題×各5点)25点【展覧会企画書・ハガキ両面・A4両面・キャプション・プレスリリース】 ③作品 20点(実践演習5課題をすべて提出することで作品完成とし、点数を付加する。) ④ポートフォリオ 10点 ⑤その他【出席】15点(1日×1点/15回)</p>



・授業では各自所有している大学指定のパソコンを使用する。必ず持参すること。また、事前にAdobe Creative Cloud(学生・教職員個人版ライセンス)を購入し、自分のパソコンにPhotoshop, Illustrator, Acrobatをインストールしておくこと。・自身の作品発表(個展)を想定した模擬演習を行う。自分の作品(3点)を制作し、写真データを準備しておくこと。・コンピュータの操作を覚えるだけではなく、日常の中で実際に活用できることが本カリキュラムの目的である。課題を通して自分自身の様々な活動に応用できるように、その意識を持って取り組むこと。・授業の進行や成績評価基準に関わる成果発表・レポート提出(5課題)などは全てWebclass上で提出・採点する。課題提出の成績確認は、WebClassの『成績』→『集計』もしくは『テスト結果』で確認すること。提出不備など各自への連絡事項はWebclassのメッセージ上で行う。こちらも確認を怠らないこと。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	コンピュータ基礎	対面授業  講義 + 課題 演習	興味がある展覧会のリストアップ	180
	内容	道真としてのコンピュータを扱うための基礎知識、「アニメのためのセルフ・ディレクション」の概要			
2回	テーマ	文書作成	対面授業  講義 + 課題 演習	展覧会のフライヤーなど参考資料を集めておくこと	180
	内容	Microsoft Wordの基本操作			
3回	テーマ	文書作成	対面授業  講義 + 課題 演習	展覧会のフライヤーなど参考資料を集めておくこと	180
	内容	展覧会計画書の作成			
4回	テーマ	画像編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の写真を撮っておくこと。	180
	内容	Adobe Photoshopの基本操作			
5回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー(ハガキサイズ/DM)を集めておくこと	180
	内容	Adobe Illustratorの基本操作			
6回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー(ハガキサイズ/DM)を集めておくこと	180
	内容	Adobe Illustratorの応用操作			
7回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の写真的準備と、自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(DM)の作成			
8回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(DM)の作成			
9回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(ハガキサイズ/DM)の完成イメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(DM)の作成			
10回	テーマ	中間講評	対面授業  講義 + 課題 演習	Illustratorの基本操作の確認	180
	内容	印刷出力のための基礎知識			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	参考にしたい展覧会のフライヤー (A4)を集めておくこと	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(基本)			
12回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の写真の準備と、自分が作りたいフライヤー(A4)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
13回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(A4)のイメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
14回	テーマ	レイアウト編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分が作りたいフライヤー(A4)の完成イメージ図を考えてくること	180
	内容	フライヤー(A4)の作成(応用)			
15回	テーマ	文書編集	対面授業  講義 + 課題 演習	自分の作品(3点)の作品名・サイズ・素材・制作年をリストアップしておくこと。	180
	内容	キャプション・プレスリリースの作成			
16回	テーマ	発表	対面授業  プレゼン + 講 評	提出課題である、/展覧会計画書/ フライヤー(DM)/フライヤー(A4)/キャプション/プレスリリース/ のデータチェックしておくこと。	180
	内容	最終講評			

科目名	日本画実習 I B * 1 (1美)			開講学年	1	講義コード	2671101	区分	選必		
英文表記	Japanese Painting I B			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	8		
担当教員	佐藤 和歌子 田淵 恵理 (非常勤)										
研究室	A412					オフィス アワー 火曜・昼休み					
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,細密写生,模写,鳥獣戯画										
授業概要	<p>東洋芸術と西洋芸術の相違は、その地の人々の生活・文化・宗教等に起因するものである。その中において日本美術は正確且つ現実的な物体・空間・存在を表現するのではなく、自然との対話と融合を重んじ、精神性を求める芸術へと発展してきた。伝統技法と古典を臨模することにより、この日本画本来の美意識と自然観を探求する。</p>							関連科目			
								日本画実習 I ~ IV、特別演習 (日本画)、学外演習 (日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	古来より続く日本美術に対して理解できるようになる									
	②	現代社会における模写の役割を理解できるようになる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(20点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習 I A
DP との 関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	出席及び制作姿勢と実習に於ける全ての作品に対して評価を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 使用する剥製の選択`和紙(美濃紙)の水張り及び鉛筆で描写	講義・実習	水張りに使用する道具(刷毛、筆洗、のり、絵皿など)の準備、手順を確認しておく	720
2回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 鉛筆で描写	実習	日本画細密写生における鉛筆の使い方について十分に検討する	720
3回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 鉛筆で描写 墨入れ・地塗り	実習	画材や技法について十分に検討する	720
4回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 水干絵具による細密写生	実習	画材や技法について十分に検討する	720
5回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 水干絵具による細密写生	実習	画材や技法について十分に検討する	720
6回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 水干絵具による細密写生	実習	画材や技法について十分に検討する	720
7回	テーマ ..... 内容	細密写生 鳥の剥製 ..... 谷評・採点	講義・実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	720
8回	テーマ ..... 内容	模写 鳥獣戯画 ..... 鳥獣戯画及び模写の技法・役割等の説明	講義・実習	模写の技法・役割について十分に検討する	720
9回	テーマ ..... 内容	模写 鳥獣戯画 ..... 模写(鉛筆)	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	720
10回	テーマ ..... 内容	模写 鳥獣戯画 ..... 模写(鉛筆) 水張り(厚美濃紙)	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	720

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	模写における鉛筆の使い方について十分に検討する	720
	内容	模写(鉛筆) 永張り(薄美濃紙)			
12回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	模写(墨)			
13回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	模写(墨)			
14回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	模写(墨)			
15回	テーマ	模写 鳥獣戯画	実習	画材や技法について十分に検討する	720
	内容	模写(墨)			
16回	テーマ	模写 鳥獣戯画	講義・実習	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			



科目名	洋画実習ⅠB*2(1美)				開講学年	1	講義コード	2671301	区分	選必	
英文表記	Oil PaintingⅠB				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	下城賢一 熊谷有展 中川百合恵(非常勤)										
研究室	L号館D201						オフィス アワー 月1,2 水1,2 木1,2 金1,2				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	油彩表現 キアロスクーロ(古典技法) 静物油彩 美術解剖学 絵画構成・構図研究										
授業概要	<p>洋画実習ⅠAにおいて試みた基礎造形力を学ぶ課題をさら深め応用するための課題に取り組む。洋画実習ⅡBではこの基礎造形力を身につける課題に引き続き取り組みつつ1Aで評価基準とした3点をがどのような面で絵画表現にとって必要かを思考し各学生が共有できるように課題が組まれている。さらに画材への理解を深め、様々な用具の特性を理解し自らの制作に応用できるようにする。この授業での評価基準としては1Aにおける3点(観察力・技術・構成力)に加えて各学生の油彩表現における絵画的な豊かさや技法の習得、色彩と明暗の理解も併せて評価の基準とする。</p>							関連科目			
								洋画実習ⅠA 洋画実習ⅡA・B 洋画実習ⅢA・B 洋画実習ⅣA・B 卒業制作			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	油彩画の基本的な技法を理解し、応用力を養うことができる。									
	②	無彩色から有彩色へ色彩について応用できるようになる。									
	③	油絵具による質感表現に取り組むことができる。									
	④	グリザイユ技法による空間表現を理解することができる。									
	⑤	自然な人物表現ができるようになる。									
	⑥	室内空間が描けるようになる。									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	40	50	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習1A、基礎デッサン、西洋美術史
DPとの関連	絵画制作の基本的な技術を追求しながら、幅広い芸術世界についても、美術館見学等を通し、探求する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.成果発表(作品講評会)において作品への評価を受け、問題点や解決への緒を各学生が導き出す。(10点×3回 計30点) 2.課題のテーマ、モチーフへの理解と観察、などを基準にして総合的に作品の評価を行います。50点 3ポートフォリオによる振り返り(10点)

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	540
	内容	着彩紙デッサン(キアロスクーロ)			
2回	テーマ	デッサン	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	1620
	内容	裸婦デッサン/大型木炭紙			
3回	テーマ	油彩画	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	2700
	内容	着衣人物/油彩画			
4回	テーマ	油彩画	実習	使用画材と技法の理解 準備物と課題計画の確認	5220
	内容	人物座像/デッサン、グリザイユ、油彩画			

科目名	アート・イラストレーション実習ⅠB*3(1美)			開講学年	1	講義コード	2671601	区分	選必	
英文表記	Art・illustration practical training I B			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	6	
担当教員	柳田 也寿志 高倉 万優 (非常勤)									
研究室	L A209					オフィス アワー 水曜1・2				
メールアドレス	yanagita@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	クロッキー 人物デッサン キャラクター造形 イラストレーション									
授業概要	アート・イラストレーション実習ⅠAで養った基礎造形力をさらに深める応用的な課題に取り組む。特に、人体に着目し、その構造、バランスなど人体を構成する要素を理解し、キャラクターや人物描写へと繋げることができる造形力を養う。						関連科目			
							アート・イラストレーション実習ⅠB、アート・イラストレーション実習ⅡA、アート・イラストレーション実習ⅡB、アート・イラストレーション実習ⅢA、アート・イラストレーション実習ⅢB、アート・イラストレーション実習ⅠB、デジタルツール演習Ⅰ、デジタルツール演習Ⅱ、イラストレーション表現探求Ⅰ、イラストレーション表現探求Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	絵画的な基礎造形力を理解し、目的を持ってクロッキーやデッサンを行うことができる。								
	②	絵画的な基礎造形力を身につけ、イラストレーション制作に活かすことができる。								
	③	観察力、構成力、描写力を各課題で発揮することができる。								
	④	基礎造形力を深め、人体を表現することができる。								
	⑤	人体の構造を理解し、応用してイラストレーションへ展開することができる。								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	20	60	10	10	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	授業の中で指示する									

予備知識	クロッキー、人体デッサン、人体解剖学、人体骨格、キャラクター造形理論
DPとの関連	平面表現の基礎にあたる、基礎造形力を理解することで、自己の表現を追求する発想を得ることができ、それが作品を制作する発想力へと繋がる。平面表現の意義や目的について考える機会となり、自らが何故平面表現を行なっているのかを探り、作品制作に対し高い次元から捉える姿勢を作ることが含まれている。人体の構造についての知識と絡めて造形理論を理解することで、それぞれの知識を繋げ自己の深い知識とすることができる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 作品講評会において自己の作品の評価と問題点を理解し、次回の制作に活かす姿勢を持つことができている。(20点) 2. 出題されている課題を理解しようという姿勢があり、完成度の高い作品が制作できている。(60点) 3. ポートフォリオによる振り返り(10点) 4. 授業において、課題に対し積極的に行い、創意工夫を持って制作に挑む姿勢を持っている。(10点)

作品制作準備を十分に行い、出席することで制作時間を確保できるように心がけてください。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	ガイダンス	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	本授業の計画・説明	実習		
2回	テーマ	クロッキー	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	美材によるクロッキーとデジタルツールによるクロッキーを行う。	実習		
3回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	手を題材にデッサンを制作する。	実習		
4回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	手を題材にデッサンを制作する。	実習		
5回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	手を題材にデッサンを制作する。	実習		
6回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	手を題材にデッサンを制作する。	実習		
7回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	手を題材にデッサンを制作する。	実習		
8回	テーマ	人体部分デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス	実習		
9回	テーマ	デジタルツールによる人体部分模写	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	人体部分模写の説明・デジタルツールにより人体部分写真模写を行う。	実習		
10回	テーマ	デジタルツールによる人体部分模写	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールにより人体部分写真模写を行う。	実習		



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	デジタルツールによる人体部分模写	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	デジタルツールにより人体部分写真模写を行う。作品の講評・アドバイズ	実習		
12回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	人物デッサンの説明	実習		
13回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
14回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
15回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
16回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
17回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
18回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
19回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		
20回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	着衣のモデルのデッサンを制作する。	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	人物デッサン	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評	実習		
22回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	キャラクターイラスト制作の説明	実習		
23回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
24回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
25回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
26回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
27回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
28回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
29回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		
30回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	自己の等身大の全身像をデジタルツールで制作する。写真やエスキースなどを利用する。	実習		

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
31回	テーマ	自画像キャラクターイラスト制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス	実習		
32回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	感情を表現したイラストレーション制作の説明	実習		
33回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
34回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
35回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
36回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
37回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
38回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
39回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
40回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
41回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
42回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
43回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
44回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	F8号以上キャンパス・水張りパネルに美術材によるキャラクターを含んだイラストレーションを制作する。	実習		
45回	テーマ	感情を表現したイラストレーション制作	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評・アドバイス 後期課程の振り返り	実習		

科目名	デジタルツール演習Ⅱ*3(1美)				開講学年	1	講義コード	2671701	区分	選必	
英文表記	Digital tool exercises II				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	柳田 也寿志 高倉 万優										
研究室	LA101						オフィス アワー 金曜1・2				
メールアドレス	yanagita@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	イラストレーション デジタルイラストレーション イラストレーションアプリケーション アイビスペイント										
授業概要	デジタルによるイラストレーション作品は、様々な媒体へと変化することが前提である。その最終形態を念頭に入れた作品制作をすることはイラストレーション作品にはとても重要なため、印刷素材や形状、媒体を計画段階から念頭に入れ制作を行う。							関連科目			
								アート・イラストレーション実習ⅠB、アート・イラストレーション実習ⅡA、アート・イラストレーション実習ⅡB、アート・イラストレーション実習ⅢA、アート・イラストレーション実習ⅢB、アート・イラストレーション実習ⅠB、デジタルツール演習Ⅰ、デジタルツール演習Ⅱ、イラストレーション表現探求Ⅰ、イラストレーション表現探求Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	デジタルツールの基礎的な使用技術を習得している。									
	②	イラストレーションアプリの基礎的な使用技術を習得している。									
	③	イラストレーションアプリの使用技術を定着させ自己の制作に使用することができる。									
	④	イラストレーションの発表形態を念頭に入れた制作ができる。									
	⑤	イラストレーションの印刷素材を念頭に入れた作品展開ができる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	iPad Pro アイビスペイント デジタルイラストレーション
DPとの関連	デジタル技術という側面から平面表現を捉えることで、現代社会の中で必要な技術と持っている知識を繋ぎ、新たな技術として生み出すことができる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1. 作品講評会において自己の作品の評価と問題点を理解し、次回の制作に活かす姿勢を持つことができている。(20点) 2. 出題されている課題を理解しようという姿勢があり、完成度の高い作品が制作できている。(60点) 3. ポートフォリオによる振り返り(10点) 4. 授業において、課題に対し積極的に行い、創意工夫を持って制作に挑む姿勢を持っている。(10点)

作品制作準備を十分に行い、出席することで制作時間を確保できるように心がけてください。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	ガイダンス	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	本授業の計画・説明			
2回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
3回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
4回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
5回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
6回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
7回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作①	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
8回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
9回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			
10回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。	演習		
12回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。	演習		
13回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。	演習		
14回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。	演習		
15回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	様々な媒体へと変化するイラストレーションを、最終的な発表形態を念頭に入れ制作計画を行い制作する。	演習		
16回	テーマ	発表形態を念頭に置いたイラストレーション制作②	対面	課題の内容と準備物、制作計画の確認	180
	内容	作品の講評	演習		

科目名	3Dアート実習IB*4(1美)				開講学年	1	講義コード	2671901	区分	必修		
英文表記	3 dimensional art Work 1B				開講期	後期	開講形態	ブレンド授業(対面+遠隔)	単位数	4		
担当教員	清島 浩徳(実務経験) 涌井 晃(非常勤講師)											
研究室	L-A-104						オフィス アワー 月曜5限					
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	3DCG 3Dモデリング 塑像 アニメーション											
授業概要	3DCGと実際の粘土両方による人体像の制作を行う。写実的な表現を試みることで、造形的な見方・考え方を働かせ、基礎的な立体造形力を身につけることを目指す。量感や奥行きといった、立体ならではの感覚を高め、粘土素材を自由に駆使できるようになるには、創造的な思考力、判断力、表現力を身につけるための多くの修練が必要である。全身像の制作では人体の比例や均衡、動勢、マッサなどについての理解が求められる。何度も繰り返し制作を続けながら、表現者としての感性、観察眼を養うとともに、学んだことを総合的に組み立てて、意図するものがより明確に表現できるように務める。さらに自分で作成した3DCGのモデルを基に3DCGアニメーション表現の基礎を修得する。授業以外の時間で自主的に制作を深め、毎日制作する習慣を身につけることで、表現者としての資質の向上を目指す。								関連科目			
									西洋美術史、日本美術史、美術領域論Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	人体のデッサン力を高めることができるようになる										
	②	Mayaの基本操作を修得する										
	③	アニメーション表現に主体的に取り組み、基礎的表現力を修得する。										
	④	面や量感などの造形要素を理解できるようになる										
	⑤	モデルを見て、的確なモデリングができるようになる										
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	20	60	10	10	100			
教科書	適宜指示します											
参考書	適宜指示します											

予備知識	<p>Mayaの基本操作を理解する NSP粘土の性質を理解する 人体の骨格や筋肉などを観察して繰り返しデッサンする 立体を形作る面、量、質感、空間などや、比例、均衡、動勢、マッサなどについて理解する 彫刻の素材や制作の為の道具について研究する</p>
DPとの関連	<p>芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標を持った授業となっています。</p>
実務経験のある教員	<p style="text-align: center;">清島浩徳</p>
評価明細基準	<p>Mayaを用いてアニメーション表現ができるようになったか 的確なデッサンに基づくモデリングができたか 表現に工夫がみられたか 毎回テーマを持って取り組めたか</p>

心身ともに健康面の管理を徹底する 道具等の管理を自ら責任をもって行なう 最後まで粘り強く作品を作り上げる姿勢で臨む 自主制作を徹底する

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	Maya Basic1	対面		180
	内容	基本的なモデリング手順の説明【課題1 魚】			
2回	テーマ	Maya Basic1	遠隔		180
	内容	UV展開【課題1 魚】			
3回	テーマ	Maya Basic1	遠隔		180
	内容	リギング【課題1 魚】			
4回	テーマ	Maya Basic1	遠隔		180
	内容	デニメーション【課題1 魚】			
5回	テーマ	Maya Basic1	対面		180
	内容	レンダリング【課題1 魚】			
6回	テーマ	Maya Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2 鳥のアニメーション】			
7回	テーマ	Maya Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2 鳥のデニメーション】			
8回	テーマ	Maya Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2 鳥のアニメーション】			
9回	テーマ	Maya Basic2	対面		180
	内容	【課題2 鳥のアニメーション】			
10回	テーマ	Maya Basic2	遠隔		180
	内容	【課題2 鳥のアニメーション】			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	Maya Basic3	遠隔		180
	内容	【課題3 ロボットのアニメーション】	実習		
12回	テーマ	Maya Basic3	遠隔		180
	内容	【課題3 ロボットのアニメーション】	実習		
13回	テーマ	Maya Basic3	対面		180
	内容	【課題3 ロボットのアニメーション】	実習		
14回	テーマ	Maya Basic3	遠隔		180
	内容	【課題3 ロボットのアニメーション】	実習		
15回	テーマ	Maya Basic3	遠隔		180
	内容	【課題3 ロボットのアニメーション】	実習		
16回	テーマ	オリエンテーション	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	人体制作概説・粘土による人物像作品制作の準備	講義		
17回	テーマ	人体デッサン基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	デッサン基礎学習とジェスチャーボードローイングについて学習する	実習		
18回	テーマ	塑造制作基礎1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による鳥の模刻を通して動勢(ムーブマン)の表現を試みる	実習		
19回	テーマ	全身人体解剖学基礎	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	全身の人体解剖学の基礎について学習する	実習		
20回	テーマ	塑像制作基礎2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による動物制作	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
21回	テーマ	女性人物像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	あらゆる角度からモデルをデッサンして構造を理解する。	実習		
22回	テーマ	女性人物像制作2	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土を用いて、人物像の荒付けをする。	実習		
23回	テーマ	女性人物像制作3	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による人物像制作を進める。	実習		
24回	テーマ	女性人物像制作4	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による人物像制作を進める。	実習		
25回	テーマ	講評・相互評価	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	人物像の仕上げを行い、講評・相互評価を行う。	実習		
26回	テーマ	男性人物像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	あらゆる角度からモデルをデッサンして構造を理解する。	実習		
27回	テーマ	男性人物像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土を用いて、人物像の荒付けをする。	実習		
28回	テーマ	男性人物像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による人物像制作を進める。	実習		
29回	テーマ	男性人物像制作1	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による人物像制作を進める。	実習		
30回	テーマ	講評・相互評価	対面	事後/課題作成(2時間)	180
	内容	NSP粘土による人物像制作を進める。	実習		

科目名	立体造形技法実習A*4(1美)				開講学年	1	講義コード	2672001	区分	必修	
英文表記	3 dimensional molding technique work A				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	清島 浩徳(実務経験) 堀川 仁彦(非常勤)										
研究室	L-A-104						オフィス アワー 木曜日5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	石膏 型取り アクリル樹脂取り シリコン型制作										
授業概要	<p>塑像作品は耐久素材に置き換える必要がある。そのための素材として、石膏は欠かせないものである。今授業は石膏の性質を理解し、型取りから成型までの流れを理解し体験し、塑像作品を石膏に置き換えられるようになる。また、石膏を表現素材として活用する技法も身につける。また石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようになる。さらに、毎時間実地指導を受けることで実習内容の確実な定着を促す。</p>							関連科目			
								3Dアート実習IA、IB			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	石膏素材を自由に扱うことができるようになる									
	②	型取りを理解し、技法を駆使できるようになる									
	③	新しい素材の特性を活用した表現ができるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										



予備知識	<p>塑像制作作品の完成 型取りから成型にいたるまでの行程を理解する</p>
DPとの関連	<p>芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標を持った授業となっています。</p>
実務経験のある教員	<p style="text-align: center;">清島浩徳</p>
評価明細基準	<p>石膏型取りを理解し技術を体得できたか 実習の為の準備や自主的な制作ができたか 理解した内容が作品に反映できたか</p>

道具等は各自で必要なものを揃える

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	オリエンテーション	対面	次回授業の準備説明	90
	内容	モールドesignの歴史と技法内容について理解する。			
2回	テーマ	石膏素材について	対面	石膏及び必要な道具の準備・購入を支持する	90
	内容	石膏素材の特徴や表現の可能性について理解する			
3回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	型の分け方、石膏の性質を理解するように著名作家の索引の研究をするように指示する。	90
	内容	頭像の石膏型取りについて学習し、自分の作品で実習する。(分割の法則、切金の打ち方)			
4回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	頭像の石膏取り。自分の頭像作品に切金を打つ。			
5回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	頭像の石膏取り。肌石膏について学習し、自分の作品に石膏の1層がけを行う。			
6回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	頭像の石膏取り。養生の方法について学習し、自分の作品に養生入れを行う。			
7回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	頭像の石膏取り。型の蓋開けの方法について学習し、2人組で蓋開けを実習する。			
8回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	頭像の石膏取り。粘土の掻き出しと離型の修正方法について学習し実践する。			
9回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	成型実習。離型の内側に離型用のかり石鹸を添付する技法について学習し、実践する。			
10回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	成型実習。離型剤添付後の離型に石膏を塗り込んでいく方法について学習し、実践する。			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	成型実習。型の内側に補強を入れて、三谷合わせの技法について学習し、実践する。	実習		
12回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	削り出し実習。雌型の削り出し方法について学習し、実践する。	実習		
13回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	成型実習。作品の修正方法について学習し、自身の作品を仕上げる。	実習		
14回	テーマ	石膏型取り実習1	対面	毎時間、制定の段階まで到達していない場合は放課後に補充を行う。	90
	内容	石膏の着色方法や台座への固定方法などを学習し、自身の作品を完成させる。	実習		
15回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	対面	自他の作品を鑑賞することで相互鑑賞力を育むことの重要性を認識させる。	90
	内容	自分の作品についてど型取りについての感想をプレゼンし、他学生と共有する。	評価		

科目名	立体造形技法実習B*4(1美)				開講学年	1	講義コード	2672101	区分	必修	
英文表記	3 dimensional molding technique work B				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	清島浩徳(実務経験) 堀川 仁彦(非常勤)										
研究室	L-A 104						オフィス アワー 木曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	3Dプリンター造形 アクリル樹脂成型 シリコン型取り										
授業概要	石膏素材と同じく、アクリル樹脂を彫刻の成型素材として使用できることを理解し、その技法を身につけることを目指します。また、石膏やアクリル樹脂が、型取りや成型の素材としてだけでなく、表現素材としての展開もあることを学びます。また3Dプリンターの活用などにより、石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようにする。							関連科目			
								立体技法実習A 3Dアート実習 IA IB			
教職関連 区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	塑像作品の型取りができるようになる									
	②	アクリル樹脂の使用方法を理解できるようになる									
	③	アクリル樹脂成型ができるようになる									
	④	彫刻作品の着色ができるようになる									
	⑤	シリコン型取りができるようになる									
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	<p>アクリル樹脂とは何かを知っておく。3Dプリンターについて学習しておく。</p>
DPとの関連	<p>芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標に沿った授業となっています。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>アクリル樹脂の使い方が理解できたか アクリル樹脂成型ができるようになったか 石膏を自由に使用できるようになったか 立体作品に効果的な着色ができるようになったか シリコンによる型取り技法を修得することができるようになったか</p>

危険な薬品等も使用するので、服装、有機溶剤対応のガスマスク等の準備が必要です

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	オリエンテーション	対面	生活の中で使用される樹脂の特性を調べてくる	90
	内容	立体作品制作の素材について理解し、それぞれの表現方法について学習する。	講義		
2回	テーマ	樹脂素材について	対面	樹脂の特性と型取り方法のバリエーションについて調べてくる	90
	内容	樹脂素材の特徴や表現の可能性について理解する。	実習		
3回	テーマ	アクリル樹脂型取り実習1	対面	石膏型取りとの相違点を事前に予想してくる	90
	内容	頭像のアクリル樹脂型取りについて学習し、自分の作品で実習する。(石膏型取りとの違いについて学習し、実践する。)	実習		
4回	テーマ	アクリル樹脂型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	頭像のアクリル樹脂型取りについて学習し、自分の作品で実習する。(石膏型取りとの違いについて学習し、実践する。)	実習		
5回	テーマ	アクリル樹脂型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	頭像のアクリル樹脂型取りについて学習し、自分の作品で実習する。(石膏型取りとの違いについて学習し、実践する。)	実習		
6回	テーマ	アクリル樹脂型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	頭像のアクリル樹脂型取りについて学習し、自分の作品で実習する。(石膏型取りとの違いについて学習し、実践する。)	実習		
7回	テーマ	アクリル樹脂型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	アクリル樹脂への修正・着色方法や台座への固定方法などを学習し、自身の作品を完成させる。	実習		
8回	テーマ	シリコン型取り実習1	対面	シリコン製品の特長を調べてくる	90
	内容	小品の人物像のシリコン型取りについて学習し実践する。(分割方法、シリコン層掛け)	実習		
9回	テーマ	シリコン型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	小品の人物像のシリコン型取りについて学習し実践する。(シリコン層掛けとサポートモールドの作成)	実習		
10回	テーマ	シリコン型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習するようにする	90
	内容	小品のシリコン型にレジンを流し込む技法について学習し実践する。	実習		



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	シリコン型取り実習1	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習する ようにする	90
	内容	レジンの修正着色方法について学習し作品を完成させる。	実習		
12回	テーマ	シリコン型取り実習2	対面	3Dプリンターについて調べてくる。	90
	内容	3DCGソフトで作ったキャラクターを、3Dプリンターで出力する方法について学習し、実践する。	実習		
13回	テーマ	シリコン型取り実習2	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習する ようにする	90
	内容	3Dプリンターで出力した作品をシリコンで型取りする技法について学習し、実践する。	実習		
14回	テーマ	シリコン型取り実習2	対面	所定の段階まで到達しなかった場合は放課後補充実習する ようにする	90
	内容	シリコン型にレジンを流し込み、修正、着色して作品を完成させる。	実習		
15回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	対面		90
	内容	自分の作品についてど型取り方法、素材についての感想をプレゼンし、他学生と共有する。	プレゼン 評価		

科目名	美術概論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2672301	区分	選必	
英文表記	Introduction to Art			開講期	後期	開講形態	ブレンド授業	単位数	2	
担当教員	永田 郁									
研究室	芸術学部棟A208					オフィス アワー 水曜日4限				
メールアドレス	mahabala @art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	現代アート アートと社会 人類学 多自然主義／パースペクティズム アートリテラシー									
授業概要	本講義は現代アートのさまざまなテーマ・問題を取り上げ、現代アーティストの作品がどのように知覚され、何が視覚化されているか、鑑賞のポイントを解説する。現代アートを読み解くキーワードについてもテーマごとに紹介し、現代アートの理解を深め、グローバル化、テクノロジーの進化など複数の視点を持ち、批判的にアートの社会的機能・役割を考える。また熊本内外の展覧会に受講生が実際に赴き、その体験を言語化することによって客観的に作品を観るアート・リテラシー能力を習得していく。その他、国内外で開催されている展覧会等も紹介しながら、現代アートの動向を探っていく。講義中に行った小レポート等については適宜フィードバックしていく。						関連科目			
							日本美術史、西洋美術史、東洋美術史、視覚芸術のコース専門科目全般、学芸員課程科目、就職課程科目			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・必修【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	本講義を通して現代アートが我々人間と人間が住む社会にとってどんな機能をもっているかを理解できる。								
	②	アートに関してその体験を自分の言葉で、整理し、伝えることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	70	20	0	0	10	0	100	
教科書	特に指定しない。									
参考書	現代アートの本当の学び方／現代アートの本当の見方／現代アートの本当の楽しみ方 フィルムアート社 フィルムアート社 美術手帖2018.6月号(特集アートと人類学) 美術出版社 オラファー・エリアソン ときに川は橋となる フィルムアート社 東京都現代美術館監修 Sophi Calle La Marche, l'art ソフィ・カル 歩行と芸術 慶應義塾大学アートセンター マンガ版マルチスピーシーズ人類学 以文社 奥野克己・シンジルト									

予備知識	芸術学部開講科目全般に関連する。
DPとの関連	造形活動や芸術文化研究における必要な基礎的な知識、ものの見方・考え方を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	WEBCLASSの出席レポート70点、最終課題20点、学修到達度レポート10点

日ごろ、展覧会に足を運び、現代アート作品を見ることに慣れておくこと。単位修得の条件は①出席(出席レポート)3分の2以上、②課題提出を満たしていること。対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染の状況により集中講義または集中の遠隔授業(双方向型)に切り替える。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。教職課程履修の学生は必ず履修して下さい(必修)。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 現代アートとは？ どうやって現代アートに近づくか？	内容	ブレンド授業 講義	受講後、講義で取り上げた作品、アーティストについて参考文献等を活用して振り返るとともに、次回の講義において芸術運動や芸術理論等について聞かれても答えることができるよう理解を深めておくこと。	30(1)
2回	テーマ 美大における学び なぜデッサンは必要なのか？/アートは美大で学べるのか？など。	内容	ブレンド授業 講義	2.の配布資料の復習。	60(1)
3回	テーマ 日本画の遺伝子 村上隆/落合多武/奈良美智/アニメーション	内容	ブレンド授業 講義	3.の配布資料の復習。	180 (2-3)
4回	テーマ 芸術とは？ M・デュージャント・ゲージの挑戦	内容	ブレンド授業 講義	「4分33秒」を体験する。	180(4-5)
5回	テーマ 20世紀の音楽 ブレーク、シュトックハウゼン、クセナキス、ヴァレーズ他	内容	ブレンド授業 鑑賞	学校では聞けない音楽鑑賞をどう聞いたか小レポート。	90(6)
6回	テーマ アートと音楽 21世紀の動向	内容	ブレンド授業 鑑賞	映像等を自分なりに鑑賞する。	90(7)
7回	テーマ モダンアートの限界 ホワイテ・キユーブとモダンアート、そしてインスタレーション	内容	ブレンド授業 演習	課題:「北川フラム更迭」問題の所在?について考える。	180(8-9)
8回	テーマ 出会う場所でアートは変わる 草間彌生/オラファー・エリアソン/レオナルド・エルリッヒなど	内容	ブレンド授業 講義	8.の配布資料を復習。	90(10)
9回	テーマ 「見る」ということ ゾフィー・カルフ/河原温など	内容	ブレンド授業 講義	9.の配布資料を復習。	90(11)
10回	テーマ これからのアート アートと人類学、その前にブリコラージュについて知ろう	内容	ブレンド授業 講義・演習	ブリコラージュを体験する。	90(12)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	アートと社会(最終課題)		アーティストに関して調べて論述する。	270(13 -15)
	内容	ゴッセフ・ボイスの社会彫刻、我々は社会を動かす「資本」になれるのか？	レポート作成		

科目名	共通立体実習（彫刻）（2美）				開講学年	2	講義コード	2672801	区分	選必	
英文表記	Common three-dimensional training (sculpture)				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	勝野 眞言（実務経験）										
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	粘土 観察力 頭部 発見										
授業概要	<p>人体の頭部を観察し、粘土による制作を通して観察力を実践的に養う機会とする。立体制作は、ただ一方向のつじつまが合えば良いと言うのではなく、360度あらゆる方向からの観察が必要であり、見慣れた対象を改めて見つめ直すと新たな発見が得られる。『観察力』は今後の造形活動が続けて行く上で必要不可欠なものである。対象をしっかり観察することによって、感動や自分の心を動かすもの、あるいは各自の狙いを素材である土を扱いながら追求を行う。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。</p>							関連科目			
								共通デッサン1、2／日本画実習1A、1B／洋画実習1A、1B／3Dアート実習1A、1B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。									
	②	素材の特徴を理解することができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	プリント										
参考書											

予備知識	基礎デッサン1,2
DPとの関連	<p>学びのキーワードは「対象をよく観る＝観察力の習得」である。対象を見つめることから発想を得、コンセプトを練り上げ、制作のための試行錯誤を繰り返えし、他者にわかりやすく魅力的に伝える為の表現力やプレゼンテーション力を鍛える。このような一連のプロセスを辿ることで企業の現場で役立つような企画力、計画性、コミュニケーション力を身につけ、あらゆる業種の企業から求められる人材育成に繋げることができる。</p>
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・レポート提出・プレゼンテーションへの取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。



動きやすく作業に適した服装であること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	作家活動紹介	対面授業  実習	パワーポイントで作例を示す	180
	内容	立体作品紹介			
2回	テーマ	平面描写による立体の理解	対面授業  実習	鉛筆デッサン	180
	内容	首画像デッサン			
3回	テーマ	心棒制作	対面授業  実習	木材、棕櫚縄で頭部の心棒をつくる。粘土を土練機で練る	180
	内容	心棒制作・粘土練			
4回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	面の展開	180
	内容	制作 構造の理解1			
5回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	量の展開	180
	内容	制作 構造の理解2			
6回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	切断・分割	180
	内容	制作 塊の理解1			
7回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	積む構造	180
	内容	制作 塊の理解2			
8回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	組む構造	180
	内容	制作 塊の理解3			
9回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	量の全体の中でのバランスの理解	180
	内容	制作 量の構成			
10回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	個別にプレゼンを行う	180
	内容	講評会			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	対象を観察し制作を行なう	180
	内容	制作量の理解			
12回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	頭像観察	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	客観的な理解	対面授業  実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 個別にプレゼンを行う			

科目名	日本画実習ⅡB*1(2美)			開講学年	2	講義コード	2673001	区分	選必		
英文表記	Japanese painting Practical ⅡB			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	8		
担当教員	中村 賢次 本多 由佳梨(非常勤)										
研究室	A416					オフィス アワー 水曜昼休み					
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具,人物画										
授業概要	日本画制作に必要な写生・小下図・草稿・本紙の各過程の重要性を理解し実践する中で、日本の歴史と風土に培われた伝統的な日本画の画材全般の使用方法を理解し、制作において必要な集中力・持久力を養う。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	感動と観察による写生の重要性を理解できるようになる									
	②	写生を元に作品制作において重要な小下図の役割を理解できるようになる									
	③	日本画の画材の性質上、不可欠な工程である草稿の役割を理解できるようになる									
	④	本紙における各画材の使用方法を理解できるようになる									
	⑤	作品制作で最も重要である感動やイメージを具現化するために必要な気力・体力を身に付けることができるようになる									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席・平常点10点(日)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行ない理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行なう。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行なう。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ 色紙・短冊の技法	白描法・彫塗り・没骨・溜塗り・たらし込み等の表現技法	講義・演習	画材や技法について十分に検討する	720
2回	テーマ 色紙	野菜・果物の鉛筆写生	実習	画材や技法について十分に検討する	720
3回	テーマ 色紙	墨・顔彩で描く	実習	画材や技法について十分に検討する	720
4回	テーマ 色紙	風景写生(鉛筆淡彩)	実習	画材や技法について十分に検討する	720
5回	テーマ 色紙・短冊	墨彩画(墨と顔彩)	実習	画材と技法について十分に検討する	720
6回	テーマ 短冊	花の写生(鉛筆淡彩)	実習	画材と技法について十分に検討する	720
7回	テーマ 合評・採点	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
8回	テーマ 花鳥画 植物	屋外にて植物の写生及び30号パネル製作	実習	十分な写生を繰り返す	720
9回	テーマ 花鳥画 植物	写生を元に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	実習	感覚的なイメージを具体化する	720
10回	テーマ 花鳥画 植物	写生を元に小下図制作及び和紙(麻紙・楮紙)にドーサ引き	実習	感覚的なイメージを具体化する	720

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	花鳥画 植物	実習	カタチに対して十分な検討を行な	720
	内容	草稿の転写、墨入れ、地塗り			
12回	テーマ	花鳥画 植物	実習	画材と技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(岩絵具)			
13回	テーマ	花鳥画 植物	実習	画材と技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(岩絵具)			
14回	テーマ	花鳥画 植物	実習	画材と技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(岩絵具)			
15回	テーマ	花鳥画 植物	実習	画材と技法について十分に検討する	720
	内容	本紙制作(岩絵具)			
16回	テーマ	合評・採点	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	180
	内容	合評・採点			



科目名	洋画実習ⅡB*2(2美)				開講学年	2	講義コード	2673201	区分	選択	
英文表記	Thematic Practice in Oil Painting II B				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	下城賢一 熊谷有展 上野洋嗣(非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	油彩 人物画 素描 混合技法 絵画構成・構図研究										
授業概要	<p>洋画実習ⅡAの課題への取り組みを経て、西洋絵画の総合的な完成を求める。テンペラ画をはじめとした古典技法にも取り組み、自らのテーマ制作に反映できるようにする。空間や明暗、色彩など基礎造形力の到達と応用への試みを全体の主題とした課題が組まれている。この授業には汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。</p>							関連科目			
								洋画実習ⅠA・B			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	基礎造形力の集大成としての力をつける									
	②	大きな画面で素描する									
	③	空間の中にモチーフや人物があることを表現できる									
	④	個々のテーマを持って制作に取り組むことができる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	40	50	10	0	100		
教科書	プリント配布										
参考書											

予備知識	洋画実習ⅡAと連動する
DPとの関連	自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力をみにつけ、それらを実践できるもの
実務経験のある教員	
評価明細基準	1.作品講評会において、客観的な教員の指導と評価を受けて次回以降の作品制作に反映し発展することができる。(40点) 2.課題のモチーフとテーマを自らのものとして作品表現へ結実させることができるか。(50点) 3ポートフォリオによる振り返り(10点)

適宜、課題による実技の道具、素材などを用意すること。学修上必要な知識や技能はそれぞれの学生でまとめておくことが望ましい。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	絵画制作 油彩画A	実技	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
2回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
3回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
4回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
5回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
6回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
7回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
8回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
9回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
10回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
12回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
13回	テーマ	絵画制作 油彩画A	"	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画			
14回	テーマ	絵画制作 油彩画A	実技・講義	人物を描く 骨格や構図、構成などを前作から復習する	180
	内容	人物素描・油彩画 作品講評・採点・解説			
15回	テーマ	絵画制作 油彩画B	実技	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
16回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
17回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
18回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
19回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
20回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物画の構図や構成を復習。基礎造形の仕上げ	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
21回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
22回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
23回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
24回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
25回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
26回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
27回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
28回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
29回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			
30回	テーマ	絵画制作 油彩画B	"	静物油彩画の歴史的な発展から技法論を自学。	180
	内容	静物素描・油彩 進級判定作品			

科目名	彫刻実習ⅡB*3(2美)				開講学年	2	講義コード	2673401	区分	必修	
英文表記	sculpture works ⅡB				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	6	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L-A216						オフィス アワー 月曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	塑像、人体像										
授業概要	<p>塑像で人体像を制作することにより、立体制作上の基礎的な構築力や、表現力を身につけることができようになる。対象を鋭く観察し、様々なアプローチを試みることによって、造形的な見方・考え方を働かせ、人体の持つ存在感やムーブメントを的確に捉える修練や、それを立体で表現する能力を高める。さまざまなポーズを研究し、人体彫刻の魅力について考察し、独創的・創造的に表す専門的な技能を身につけることができるようになる。量感や動勢、バランスなどを考慮しながら肉付けができるようになる。粘土素材で様々な表現技術を試みて、研究を深めることができるようになる。</p>							関連科目			
								共通立体、西洋彫刻論			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	構築的なポーズの研究を深めることができるようになる									
	②	正確なデッサンに基づくモデリングができるようになる									
	③	より深く対象を観察し、自己の表現について考察を深めることができるようになる									
	④	粘土による表現が多様化したか判断できるようになる									
	⑤	人体彫刻の魅力について考察できるようになる									
	⑥	次の作品制作の課題が見えてきたか判断できるようになる									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	60	10	10	100		
教科書	適宜指示する										
参考書	適宜指示する										

予備知識	ギリシア彫刻のコントラポストなど、片足重心のポーズの際の重心の捉え方や、左右対称のポーズの際の重心の位置などを観察してみる。傾きやひねりなどを意識して面の方向性について観察する。
DPとの関連	表現者としての技量を高めるとともに、制作を通して、人間生豊かな人格の形成を育むことができ、DPに即した内容である
実務経験のある教員	清島浩徳
評価明細基準	モデルの個性を生かしたポーズ決めができたか 構築的な把握ができたか 粘り強く制作に挑戦する姿勢があったか 制作上で新たな発見があったか 出席状況は良かったか



・準備から作品制作、そして片付けに至るまで、一貫した流れを身につける。制作意欲を自ら高め、課題を持って、積極的に制作に挑む。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	デッサン	実習	ポーズの研究(予習、復習) デッサン	540
	内容	ポーズ研究のためのデッサン			
2回	テーマ	デッサン	実習	ポーズの研究(予習)	180
	内容	ポーズ決めのためのデッサン			
3回	テーマ	制作	実習	素材の準備、心棒作成の研究(予習)	360
	内容	心棒組み			
4回	テーマ	制作	実習	デッサンに基づき粘土をつける(予習、復習)	1620
	内容	荒付けⅠ			
5回	テーマ	制作	講義	合評を基に自主制作する	180
	内容	中間合評			
6回	テーマ	制作	実習	立体の捉え方を自ら問いながら、粘土表現への可能性を研究する	1800
	内容	荒付けⅡ			
7回	テーマ	制作	講義	合評を基に自主制作する 講評について、話し合いさらに研究を深める	360
	内容	中間合評Ⅱ			
8回	テーマ	制作	実習	様々な作家研究をしながら、独自の表現を模索し、作品に反映させる	2160
	内容	中付け			
9回	テーマ	制作	実習	細部や表面処理を研究し、完成に向かう	720
	内容	仕上げ			
10回	テーマ	講評	講義	作品についてプレゼンテーションを行なう(予習)	180
	内容	講評・評価			

科目名	造形実習Ⅰ(版画) (3美)			開講学年	3	講義コード	2674701	区分	選必	
英文表記	Art practice I (Printmaking)			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	中川百合恵(非常勤)									
研究室	芸術学部1階 事務室					オフィス アワー 木曜日 1,2限目				
メールアドレス	shimojo@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	版画 テーマ制作 ステンシル キャラクター 絵本									
授業概要	版画表現の一つである「ステンシル」技法を用いて平面絵画制作を行う。ここでは各学生による「テーマ制作」が主眼におかれ、さらには「物語性」を構築し、「キャラクター造形」「絵画における空間」「世界観の模索」などを通してより深い絵画制作を目指すものである。最終的には「絵本」メディアに落とし込み、作品としての完成度および達成度を目指す。						関連科目			
							造形実習Ⅱ 共通絵画実習(日本画) 共通絵画実習(洋画) 共通立体論(彫刻)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)						学修・教育目標			
							JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	版画「ステンシル」を理解できたか								
	②	ステンシル技法に習熟できたか								
	③	物語性について思考および制作								
	④	絵本についての一般的な知見の獲得								
	⑤	絵本制作								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	10	20	60	10	0	100	
教科書	無し									
参考書	BLUEDOG George Rodrigue									

予備知識	版画におけるステンシルの技法および参考作品。
DPとの関連	版画における技法の特性を学ぶことにより、より広範囲な造形力を獲得し、個々の学生における専門領域の制作および研究の広がりを促すのが目的。 絵本というメディアを実際に制作することにより、社会に役立つ美術の専門家を養成する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1 ステンシル技法による作品制作の評価(30点) 2物語性を生かした絵本作り(30点) 3レポート(10点) 4絵本のプレゼンテーション(20点) 5ポートフォリオによる振り返り(10点)

毎回の授業の連続性が大切なので極力欠席をしないように留意すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	授業概要説明	講義	レポート関連のための復讐	180
	内容	ステンシル技法・絵本の作例を用いたレクチャー			
2回	テーマ	ステンシル実習 3・4・5・6・7・8・9回	実習	適宜、自学による振り返りと材料・道具の準備	1,260
	内容	版画技法ステンシルの制作			
3回	テーマ	絵本制作 10・11・12・13・14回	実習	適宜、自学による振り返りと材料・道具の準備	900
	内容	絵本制作・製本技法の研究			
4回	テーマ	作品プレゼン 15回	実習	適宜、自学による振り返りと材料・道具の準備	180
	内容	絵本作品のプレゼン評価・講評・解説			

科目名	造形実習Ⅱ(染色) (3美)			開講学年	3	講義コード	2674801	区分	選必	
英文表記	Art practice 2 (painting and staining)			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	堀川 仁彦 (非常勤)									
研究室	L-A-216					オフィス アワー 木曜日 5時限目				
メールアドレス	@までの文字を入力@@以降を入力									
キーワード	フィギュア制作 立体造形 型取り									
授業概要	テーマをもとにオリジナルキャラクターのデザインを考え、平面のイメージを立体化する。粘土やその他の素材で立体化した作品を型取りし、恒久的に設置できる異素材に転用した後、着色を施し作品化する。一連の作品化までの過程を通して考えたことをまとめて文章化し、作品とともに発表する。						関連科目			
							共通立体、彫刻実習Ⅰ、彫刻実習Ⅱ			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	コンセプトを立て独自のキャラクターを考案することができるようになる								
	②	平面のイメージを立体化することができる技能を習得する								
	③	型取りの正しい技法をマスターし、恒久的な形に展開することができるようになる								
	④	イメージ通りに彩色することができるようになる								
	⑤	自分の作品についてプレゼンできるようになる								
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	10	60	30	0	100	
教科書	適宜支持する									
参考書	適宜支持する									

予備知識	
DPとの関連	<p>美術表現者として独自のキャラクターをデザインし、平面のイメージを立体に置き換える作業は、創造性をはぐくむと同時に、実践的な制作スキルを向上させることのできる授業内容である。これらの実習を通して、学生は自分が感じ取ったことや考えたことから主題を生成する力を育むことができるとともに、創造的な表現の構想を練ることができるようになる。また、一連の型取り技法の実習を通して意図に応じて材料や用具の特性を生かすことができるようになる。彩色において染色の技法を取り入れた効果的な表現方法を模索する。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>1.コンセプトを持ってオリジナルのキャラクターをデザインすること。デザインの段階でまず最初の評価を実施します。2.平面のイメージを立体化する粘土の段階での完成度、独自性、創造性を評価します。3.粘土を型取りし、樹脂などの素材に置き換え、着色して仕上げる。作品を評価します。4.作品についてプレゼンをする。プレゼン資料、発表の様子、相互鑑賞の様子を総合的に評価します。</p>



作業に適した服装を準備すること

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	対面		90
	内容	実習の天まがな流れを理解するとともに、実習に必要な服装、道具等を準備する。	講義		
2回	テーマ	キャラクター創作のポイントについて	対面		90
	内容	テーマを基に、オリジナルのキャラクターデザインを作るうえで注意するポイントについての解説を聞く。	講義		
3回	テーマ	キャラクターデザイン実習1	対面		180
	内容	テーマ、コンセプトを基にして、オリジナルのキャラクターのアイデアスケッチを描く。	実習		
4回	テーマ	キャラクターデザイン実習2	対面		180
	内容	アイデアスケッチから発想を広げ、彩色のイメージを加えたイメージ画を完成させる。	実習		
5回	テーマ	立体化する素材研究及び立体化するポイント	対面		90
	内容	平面のイメージを立体化するうえで3面図の活用を図るとともに、自分の表現するものに適した素材を選択する。	実習		
6回	テーマ	立体原型制作1	対面		180
	内容	3面図とアイデアスケッチを基に、心棒を制作する。	実習		
7回	テーマ	立体原型制作2	対面		180
	内容	出来上がった心棒に粘土であら付けを施していく。	実習		
8回	テーマ	立体原型制作3	対面		180
	内容	ニューラインド粘土で形作っていく。	実習		
9回	テーマ	立体原型制作4	対面		180
	内容	ニューラインド粘土で形作っていく。	実習		
10回	テーマ	立体原型制作5	対面		90
	内容	ニューラインド粘土で形作っていく。	実習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	型取り技法について	対面		180
	内容	ニューラテンド粘土で形作っていく。	講義		
12回	テーマ	作品の雌型作成	対面		180
	内容	ニューラテンド粘土で形作っていく。	実習		
13回	テーマ	作品の型取り1	対面		180
	内容	ニューラテンド粘土で形作っていく。	実習		
14回	テーマ	作品の型取り2 作品割り出し	対面		180
	内容	ニューラテンド粘土で形作っていく。	実習		
15回	テーマ	作品着色1	対面		180
	内容	着色を施す	実習		
16回	テーマ	作品着色2	対面		180
	内容	着色を施す	実習		
17回	テーマ	作品プレゼンと自己評価	対面		180
	内容	作品のプレゼンを行い、相互評価をする。	講義		

科目名	日本画実習ⅣA＊1（3美）				開講学年	3	講義コード	2675101	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting ⅣA				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画,岩絵具										
授業概要	制作の第一歩である感動という主観性を大切にしながら、作品の内容、テーマ、画材の取り扱いを含めた技術・技法など全プロセスに渡って客観的な制作プランを組み立て、より高度な作品の完成を目指す。更に日本画制作において現代に生きる者として広い視野に立ち、独創的な表現を目指す。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	制作を通じて自己判断能力を高めることができるようになる									
	②	表現するために必要な自身の技術・技法について理解できるようになる									
	③	大作を制作するために必要な全プロセスを理解できるようになる									
	④	現代社会における日本画と自己の役割を認識できるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢10点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習(日本画)
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的な質疑により理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び150号パネル製作			
2回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
4回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
8回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
9回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			
10回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び50号パネル製作			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿及び裏打ち			
12回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			



科目名	日本画実習ⅣB (3美)			開講学年	3	講義コード	2675201	区分	選必	
英文表記	Japanese Painting IVB			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	佐藤 和歌子									
研究室	A416					オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	w-sato@art.sojo-u.ac.jp									
キーワード	日本画,岩絵具									
授業概要	制作の第一歩である感動という主観性を大切にしながら、作品の内容、テーマ、画材の取り扱いを含めた技術・技法など全プロセスに渡って客観的な制作プランを組み立て、より高度な作品の完成を目指す。更に日本画制作において現代に生きる者として広い視野に立ち、独創的な表現を目指す。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。						関連科目			
							日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習(日本画)、学外演習(日本画)			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像)表現を含む。						建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	制作を通じて自己判断能力を高めることができるようになる								
	②	表現するために必要な自身の技術・技法について理解できるようになる								
	③	大作を制作するために必要な全プロセスを理解できるようになる								
	④	現代社会における日本画と自己の役割を認識できるようになる								
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢10点	100	
教科書	授業の中で指示する									
参考書	授業の中で指示する									

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習(日本画)
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的な質疑により理解度を確認する。一作品ごとに合評・採点を行う。

前回の実習における自己の反省点に基づいて、その解決に向けての画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び150号パネル製作			
2回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿制作及び裏打ち			
3回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
4回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
5回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
6回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
7回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
8回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
9回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			
10回	テーマ	自由制作	実習	十分な写生を繰り返す	360
	内容	写生及び50号パネル製作			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	自由制作	実習	感覚的なイメージを具現化する	360
	内容	小下図・草稿及び裏打ち			
12回	テーマ	自由制作	実習	カタチに対して十分な検討を行なう	360
	内容	墨入れ・地塗り			
13回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
14回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
15回	テーマ	自由制作	実習	画材や技法について十分に検討する	360
	内容	本紙制作			
16回	テーマ	自由制作・合評	講義	客観的に自身の作品を見て課題を検討する	360
	内容	合評・採点			

科目名	特別演習（日本画）（3美）				開講学年	3	講義コード	2675301	区分	選択	
英文表記	Special Seminar (Japanese Painting)				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	中村 賢次 佐藤 和歌子										
研究室	A412						オフィス アワー 火曜・昼休み				
メールアドレス	ken1214@@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画、絹本、掛軸										
授業概要	<p>明治以降、日本は西洋文化の影響を大きく受け、生活様式や文化も大きく変化してきた。日本画の世界においても同様で、現代では額装形態の作品が主流となり、それに伴ない、古来より用いられてきた材料である絵絹の使用が減ってきた。しかしこの絹に描かれた絵画は紙とは異なった美しさを持ち、更にその技術・技法も違うことを踏まえ、日本画の材料研究を行なう。制作の進捗状況(写生、子下絵、草稿、本画)に応じて講評、合評を行なう。</p>							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、学外演習(日本画)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	絵絹の性質を理解し、古典的な日本画の支持体である絹本に描写する技術を身に付けることができるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	80	10	出席及び制作姿勢(10点)	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	日常的に質疑を行い理解度を確認する。合評による作品評価。

絵絹は非常にデリケートな材料であるため、授業前にその日に実施可能な作業工程を十分に検討し、それに必要な画材の準備をする。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	花鳥	講義	絹による古典技法の理解を深める	90
	内容	絹本に於ける伝統的な画材と技法			
2回	テーマ	花鳥	講義	絹による古典技法の理解を深める	90
	内容	絹本に於ける伝統的な表現様式			
3回	テーマ	花鳥	実習	モチーフの持つ特色を観察・考察する	90
	内容	各自用意した花の写生			
4回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	小下図の制作			
5回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	原寸大の草稿制作			
6回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	原寸大の草稿制作			
7回	テーマ	花鳥	実習	絹と墨について十分な理解をする	90
	内容	草稿の転写と墨入れ			
8回	テーマ	花鳥	実習	絹と胡粉について十分な理解をする	90
	内容	絹に胡粉を塗る(下塗り)			
9回	テーマ	花鳥	実習	日本画における空間表現について理解を深める	90
	内容	空間を意識した彩裏色			
10回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
12回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
13回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
14回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
15回	テーマ	花鳥	実習	画材の使用方法・表現について見当する	90
	内容	制作			
16回	テーマ	花鳥	講義	客観的に自身の作品を評価する	90
	内容	合評・採点			

科目名	特別演習（芸術文化）（3美）				開講学年	3	講義コード	2675304	区分	必修	
英文表記	Special Seminar (Art & Culture)				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	原書(英文) 講読 和訳										
授業概要	<p>美術学科の人材育成の目標には、幅広い国際的視野や専門分野における高度な専門家の養成などがある。本科目はこれからの芸術文化の担い手には必須の英文の読解力や翻訳力の習得のために必要不可欠の科目である。3年次から総合教育の英語がなくなるため、英語を忘れないためにも、英文(英文に翻訳されたものを含む)の美術史の教科書や、美術史論、芸術論、芸術家論、西欧文化論、キリスト教文化論などの中から興味深いものを選んで講読する。2022年度は、これまでに講読していない章(7.The gates and the city:five centuries of good and bad fortune)を読み進め、英文読解力や翻訳力を養う。</p>							関連科目			
								西洋美術史、西洋美術史特論Ⅰ、西洋美術史特論Ⅱ、宗教芸術Ⅰほか			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	英文の構造を正しく理解する。									
	②	適切な日本語への訳出の仕方を身につける。									
	③	美術史学や芸術学のテクニカル・タームの英語表記に習熟する。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	75	0	0	10	15	100		
教科書	授業の中で配布する。										
参考書	The Gates of Paradise Yale University Press G. M. Radke Lorenzo Ghiberti Princeton University Press R. Krautheimer										

予備知識	特になし
DPとの関連	芸術文化研究における専門家として、芸術文化の発展に貢献できる専門的技術や知識を総合的に身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	全訳(75点)、出席率(15点)、ポートフォリオ(10点)の合計点とする。合計が6割に満たない場合は邦訳の再提出を課す。

毎回、前回分の訳文を提出する。電子辞書ではなく、語彙数や例文の多い英和辞典を必携のこと。担当箇所だけでなく全文を予習・復習すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面  講義 演習	概説の復習	20
	内容	オリエンテーション(講読書のテキストコピー配布、文献の内容に関する説明)			
2回	テーマ	講読・和訳	対面  講義 演習	1回目と2回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、1回目の訳文提出			
3回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	2回目と3回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、2回目の訳文提出			
4回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	3回目と4回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、3回目の訳文提出			
5回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	4回目と5回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、4回目の訳文提出			
6回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	5回目と6回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、5回目の訳文提出			
7回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	6回目と7回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、6回目の訳文提出			
8回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	7回目と8回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、7回目の訳文提出			
9回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	8回目と9回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、8回目の訳文提出			
10回	テーマ	講読・和訳・添削	対面  講義 演習	9回目と10回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、9回目の訳文提出			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	講読・和訳・添削	対面	10回目と11回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、10回目の訳文提出			
12回	テーマ	講読・和訳・添削	対面	11回目と12回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、11回目の訳文提出			
13回	テーマ	講読・和訳・添削	対面	12回目と13回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、12回目の訳文提出			
14回	テーマ	講読・和訳・添削	対面	13回目と14回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、13回目の訳文提出			
15回	テーマ	講読・和訳・添削	対面	14回目と15回目の予習・復習	90
	内容	講読・和訳・添削、14回目の訳文提出			
16回	テーマ	総括	対面	15回目の復習と全文見直し	180
	内容	講読・和訳、1～15回目までの全訳提出			

科目名	学外演習（日本画）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2675401	区分	必修	
英文表記	Off-site study (Japanese Painting)				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	中村 賢次										
研究室	A416						オフィス アワー 水曜昼休み				
メールアドレス	ken1214@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	日本画										
授業概要	九州内にある美術館・博物館等の文化施設、及び国又は県指定の重要文化財の見学・視察を行い、芸術や日本文化に接する機会を通して、個々の造形に於ける表現をより広めることを目指す。提出されたレポートに対し、個別に講評を行う。							関連科目			
								日本画実習Ⅰ～Ⅳ、特別演習（日本画）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	過去の優れた作品に接することにより、現代における美術文化の役割と重要性を理解できるようになる									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	0	0	10	出席40点	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										



予備知識	日本画実習ⅠA、日本画実習ⅠB、日本画実習ⅡA、日本画実習ⅡB、日本画実習ⅢA、日本画実習ⅢB、特別演習（日本画）
DPとの関連	本授業の実習を通して日々制作に向き合うことによって美術領域の専門家としての技術や知識を得るだけでなく、自ら学び地域や社会全体に対して倫理的な思考のもと造形活動が展開できるようになるための科目。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート及び出席による採点。

毎回事前に見学・視察先の情報を入手し、それについての理解を深めた上で現地で現物に触れるように準備する。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	熊本市現代美術館の見学			
2回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	熊本県立美術館の見学			
3回	テーマ	美術館・博物館見学	実習	見学予定の展覧会情報の確認とレポートの作成	450
	内容	九州内の美術館の見学			
4回	テーマ	重要文化財視察	実習	見学予定の文化財についての情報確認とレポート作成	450
	内容	熊本県内の国宝・重要文化財の視察			

科目名	学外演習（洋画）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2675402	区分	必修	
英文表記	Off-site study(Oilpaintng)				開講期	後期集中	開講形態	ブレンド授業	単位数	2	
担当教員	下城賢一 熊谷有展										
研究室	L号館A201						オフィス アワー 後期集中				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	美術展見学、見学ノート										
授業概要	見学する展覧会の下調べ。展示してある作品と作家の時代や歴史等の予習。							関連科目			
								洋画実習ⅠB、洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB、洋画実習ⅢA、洋画実習ⅢB、洋画実習ⅣA、洋画実習ⅣB			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	見学レポートにおいて展覧会や作家・作品の魅力を説明することができる									
	②	鑑賞力とプレゼンテーションを強化することができる									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	60	20	0	10	10	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	展覧会カタログ										

予備知識	日本美術史、西洋美術史、西洋画特論
DPとの関連	芸術における高度な専門家になるためには、表現する力とそれを支える展覧会見学で身につけた鑑賞力による発想力が必要。
実務経験のある教員	
評価明細基準	鑑賞力、文章力、積極的な授業参加

レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	鑑賞 ..... 国内外の美術展見学	..... 見学／講義	該当する展覧会・作家や作品について調べておく	任意

科目名	学外演習（彫刻）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2675403	区分	必修		
英文表記	extracurricular exercise				開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	勝野 眞言（実務経験）											
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分					
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	地域 美術館 工房 文化 史跡											
授業概要	<p>地域にある美術館や工房、あるいは文化的な施設や史跡等を視察し、ジャンルを越えて幅広く芸術や作家に触れることによって、制作者としての資質を高めることを目指す。実施内容は、大学が企画した研修等に積極的に参加するか、個人的に視察や研修を行なうこととし、いずれも視察ノートを作成し提出する。本授業を通して汎用的観察力・コミュニケーションスキルを体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。</p>								関連科目			
									彫刻実習4A、4B			
教職関連区分									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	幅広く芸術に親しみ、理解を深めることができる。										
	②	視察で得た見識を文章にまとめることができる。										
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	50	20	0	20	10	100			
教科書	プリント											
参考書	プリント											



予備知識	彫刻実習1A,1B,2A,2B,3A
DPとの関連	1.地域にある美術館や工房、あるいは文化的な施設や史跡等を視察し、ジャンルを越えて幅広く芸術や作家に触れることによって、制作者としての資質を高めることを目指す。【知識・理解】 2.課題を通して普遍的幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付けることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	視察の回数、プレゼンテーション、視察ノートの内容で評価する

彫刻芸術に対する深い理解者となり、高度な資質を備えた表現者となるために、論理、素材、作家、制作上での技法、コンセプチュアルな表現などの中から興味深いテーマを選び、見学する美術館などを導き出す。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	対面授業  講義	授業内容を理解する	90分
	内容	導入			
2回	テーマ	活動と研究	対面授業  学外研修	活動と研究のまとめ	270分
	内容	学外視察Ⅰ(美術館など)			
3回	テーマ	活動と研究	対面授業  学外研修	活動と研究のまとめ	450分
	内容	学外視察Ⅱ(美術館など)			
4回	テーマ	活動と研究	対面授業  学外研修	活動と研究のまとめ	450分
	内容	学外視察Ⅲ(美術館など)			
5回	テーマ	プレゼンテーション	対面授業  授業	活動と研究のまとめ	90分
	内容	学外視察のプレゼンテーション			

科目名	学外演習（芸術文化）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2675404	区分	必修	
英文表記	Off-site study (Art & Culture)				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	フィールドワーク 展覧会 鑑賞 観察 論述										
授業概要	<p>本学科の人材育成目標の一つに、「専門分野に関する深い理解と表現力の獲得」があるが、学芸員やそれに類する専門職を目指す学生には、本科目は必要不可欠な科目である。本科目では、日本特に九州や、海外の美術館・博物館等（ギャラリーを含む）で開催されている特別展や常設展を見学し、展覧会評を作成することで、芸術作品や展示方法等の鑑賞・観察力を養うとともに、作品の鑑賞ポイントや展覧会の見どころ等を文章によって第三者に正確に伝達する方法の習得や、独力でフィールドワークする能力を養うことを目指す。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全専門科目、特に美術史基礎演習Ⅰや美術ジャーナル論			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	多くの展覧会を単独で視察できるようになる。									
	②	会場の第一次資料(作品や「もの」)を注意して鑑賞・観察できるようになる。									
	③	得られた情報や知見を、自分の視点と言葉で第三者にわかりやすく伝える方法に習熟できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90	0	0	10	0	100		
教科書	授業の中で指事する										
参考書	各会場の展覧会図録等										

予備知識	<p>観覧する展覧会の出品作品や出品作家について事前に調べておくことより深い鑑賞ができるし、見逃すリスクも減少するので、事前に学習してから現地に行くようにしてほしい。</p>
DPとの関連	<p>自ら進んで学外(フィールド)に出て課題解決(展覧会視察、鑑賞、レポート作成)する技術や知識、論理的思考力、国際的視点を身に付け、人間社会の構築や芸術文化の発展に持続的に貢献できるようにする。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>課題①あるいは課題②のレポート、ポートフォリオで評価する。課題①:海外研修に参加した学生は、10,000字程度で作成し、必ず図版を添付する。課題②:海外研修に参加しなかった学生は、1展覧会につき2,000字以上のレポートを10本作成。レポートには必ず展覧会のチケットの半券(なければチラシでも可)など見学したことが証明できる資料を貼付すること。</p>

課題の提出(①か②のいずれか)がある。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	現地(海外)で本物に触れる	対面	芸術学部主催の海外研修旅行に参加し、その体験をレポートする。	9日
	内容	課題①	AL PBL		
2回	テーマ	展覧会でオリジナル作品を見る	対面	九州やその他の地域で開催される国内の展覧会・常設展の展覧会評を作成する(10本)。	10日
	内容	課題②	AL PBL		

科目名	学外演習（視覚芸術）◎（3美）				開講学年	3	講義コード	2675405	区分	必修	
英文表記	Off-Site Study: Visual Arts				開講期	後期・集中	開講形態	遠隔オンデマンド	単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208						オフィス アワー 水曜日5限				
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アートプロジェクト ワークショップ アクティブラーニング										
授業概要	受講者は各自、学外に出てテーマを決めて、それを写真とテキスト、デッサン、ドローイングなど視覚芸術コースで3年間学んできた表現のアプローチを用い、与えられたSCRAPBOOKを使って1冊の「ヴィジュアルアートブック」を作成する（SCRAPBOOKの頁は全部使用する）。SCRAPBOOKには作品のタイトルもつける（必須）。							関連科目			
								視覚造形実習ⅠA-B、ⅡA-B、ⅢA-B／視覚造形実習Ⅳ／ワークショップ演習			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	学外での観察・考察および様々な表現のツールを通して自分なりの表現ができるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	90	0	10	0	100		
教科書											
参考書											



予備知識	1～3年までの視覚芸術のカリキュラムを熟知していること。
DPとの関連	視覚芸術コースで学んだ表現アプローチを学外に出て、テーマについて観察・考察しその結果を一冊にまとめる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	SCRAPBOOK「ヴィジュアルアートブック」の出来(90)、SOJOポートフォリオ(10)。

本科目は必修科目なので、履修忘れがないよう注意して下さい(3年次後期履修)。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	オリエンテーション	対面		90
	内容	授業の概要と進め方(全員出席必修)	講義		
2回	テーマ	計画・立案編	遠隔OD	各自テーマを検討、決定する。	90×4
	内容	各自テーマを決めて計画・立案する。	実習		
3回	テーマ	制作	遠隔OD	リサーチ、制作	90×10
	内容	テーマ確定したら、各自リサーチ、制作	実習		
4回	テーマ	SCRAPBOOK「サイジューアルノートブック」の提出	遠隔OD		
	内容		提出・評価		

科目名	洋画実習ⅣA*2(3美)				開講学年	3	講義コード	2675701	区分	選必	
英文表記	Oil Painting ⅣA				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	熊谷有展 永田和之(非常勤)										
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金5				
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	自由制作										
授業概要	自身で課題を見つけての自由制作。自身のイメージを造形化させる。画材を使いこなす。このことを踏まえ、創造的な作品を生み出すキッカケを掴む。授業の中で適宜、作品講評会を行い作品上のアドバイスと評価を行う。							関連科目			
								洋画実習ⅡA、洋画実習ⅡB			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	独自の絵画表現を試みることにより、個性(オリジナリティ)を理解することができる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	0	70	10	20	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	洋画実習ⅢA
DPとの関連	専門的な知識と技術を身につけることで、自身の絵画表現の巾を広げる。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業への積極的な参加と作品による。

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、デッサン、エスキース等	360
	内容	自由制作(イメージと技法) テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
3回	テーマ	//	//	構図の決定	360
	内容	//			
4回	テーマ	//	//	制作	360
	内容	自由制作			
5回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
6回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
7回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
8回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
9回	テーマ	//	//		360
	内容	//			
10回	テーマ	// 講評	講評	// 中間講評	360
	内容	中間講評			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	制作	実技	制作	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
13回	テーマ	〃 〃	〃	〃	360
	内容	〃			
14回	テーマ	〃	〃	〃	360
	内容	〃			
15回	テーマ	講評	〃 講評	〃 作品講評	360
	内容	作品講評			



科目名	洋画実習ⅣB (3美)				開講学年	3	講義コード	2675801	区分	選択		
英文表記	Oil Painting ⅣB				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4		
担当教員	熊谷有展 永田和之 (非常勤)											
研究室	芸学3F						オフィス アワー 金曜日5時限目					
メールアドレス	kumagae@art.sojo-u.ac.jp											
キーワード	洋画ⅣB											
授業概要	<p>洋画実習ⅣA(自由制作)をもう一步進めた高度な研究。この授業は、汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。洋画に関する幅広い表現技法、用具の特性、また、油彩画の歴史についての理解を深める。授業の中で適宜、作品講評会を行い作品上のアドバイスと評価を行う。</p>								関連科目			
									洋画実習ⅢB			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…絵画(映像メディア表現を含む。)</p>								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
									学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	自己表現ができる										
	②	今後の制作の原点となるものを探ることができる										
	③											
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	0	0	70	10	20	100			
教科書	特になし											
参考書	特になし											

予備知識	洋画実習ⅣAと連動する。
DPとの関連	汎用的技能の論理的思考力、問題解決力と、態度・志向性の自己管理力の内容も含まれている。
実務経験のある教員	
評価明細基準	授業への積極的な参加と作品による

画材の準備及び技術に関する検討を十分に行う

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	制作	実技	オリエンテーション、発想、取材、デッサン、エスキース等	360
	内容	テーマ、構図の決定			
2回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
3回	テーマ	//	//	構図の決定	360
	内容	//			
4回	テーマ	//	//	作家研究による自由制作。各自、自由な発想・テーマに基づいて、よりプロセスを大切にしながら取り組む	360
	内容	油彩による制作			
5回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
6回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
7回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
8回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
9回	テーマ	//	//	//	360
	内容	//			
10回	テーマ	講評	//	//	360
	内容	中間講評			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	制作	"	"	360
	内容	油彩による制作			
12回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
13回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
14回	テーマ	"	"	"	360
	内容	"			
15回	テーマ	講評	"	"	360
	内容	作品講評			

科目名	彫刻実習ⅣA*3(3美)				開講学年	3	講義コード	2676101	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅣB				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	勝野 眞言 (実務経験)										
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻 人体 観察 粘土										
授業概要	主として粘土を用い人体をモチーフとして人物塑造制作を行う。その中で、可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、観察を通して人の形、量を構成する動きや構造などの造形要素を考察し、彫刻の諸要素の関連を探っていく。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを明確にし、そのテーマに向かって制作することが自己の確認、そして新たな自己への巡り合い、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A/基礎デッサン1、2			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。									
	②	素材の特性を理解し、制作に活かすことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										

予備知識	モチーフを人物とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の内にある基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行く中で、課題を通して普遍的かつ幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

作業着着用。制作前には空調管理を行うこと。各自制作終了後には整理整頓を行うこと。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	対象の構造の理解	対面授業  実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	作品の客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	作品の客観的な理解	対面授業  実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			

科目名	彫刻実習ⅣB＊3（3美）				開講学年	3	講義コード	2676201	区分	選必	
英文表記	Sculpture trainingⅣB				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	勝野 眞言（実務経験）										
研究室	A212						オフィス アワー 火曜日16時30分				
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	彫刻 人体 観察 粘土										
授業概要	主として粘土を用い人体をモチーフとして人物塑造制作を行う。その中で、可塑性や固まりなどの材料の性質を理解し、観察を通して人の形、量を構成する動きや構造などの造形要素を考察し、彫刻の諸要素の関連を探っていく。授業を進めるなかで、学生各自が制作にあたってのテーマを明確にし、そのテーマに向かって制作することが自己の確認、そして新たな自己への巡り合い、お互いの切磋琢磨の場となるよう授業を組み立て展開する。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B、4A／基礎デッサン1、2			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	粘土による制作を通して観察力を深めることができる。									
	②	素材の特性を理解し、制作に活かすことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										

予備知識	モチーフを人物とする。対象をしっかり観察し、素描により個々の制作意図を固め、粘土による塑造制作へと展開して行く。その中で基本的な造形力を確認して行く。
DPとの関連	客観的な観察力を身に付けるために、対象を深く見つめ、人体の内にある基本的な構造、動勢、比率を素描(平面)と塑造(立体)の両次元から理解を深めて行く中で、課題を通して普遍的かつ幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】【態度・志向性】
実務経験のある教員	勝野 眞言
評価明細基準	出席・課題の取り組み・作品の到達度などを考慮し、総合的に評価する。

作業着着用。制作前には空調管理を行うこと。各自制作終了後には整理整頓を行うこと。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	時間をかけた観察により対象の特性を理解する	180
	内容	制作Ⅰ 素描(デッサン)			
2回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	短時間での対象の特性理解	180
	内容	制作Ⅱ 素描(クロッキー)			
3回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	制作意図の確認	180
	内容	制作Ⅲ ポーズの決定			
4回	テーマ	対象の構造の理解	対面授業  実習	芯棒による量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅳ 芯棒制作			
5回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解	180
	内容	制作Ⅴ 粘土付け			
6回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅵ 中間講評会			
7回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅶ 作り込み			
8回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	造形原理の生かし方とその構築について	180
	内容	制作Ⅷ 彫刻の構築			
9回	テーマ	作品の客観的な理解	対面授業  実習	制作の狙いの確認	180
	内容	制作Ⅸ 講評会			
10回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	量感、動勢、構造の理解及び細部へのアプローチ	180
	内容	制作Ⅹ 作り込み			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
11回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
12回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
13回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
14回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
15回	テーマ	対象の客観的な理解	対面授業  実習	同上	180
	内容	同上			
16回	テーマ	作品の客観的な理解	対面授業  実習	到達度ポートフォリオの作成	180
	内容	講評会 制作の狙いの確認			

科目名	鑄造実習B(3美) (鑄造実習*4(1美))			開講学年	3	講義コード	2676401	区分	選択		
英文表記	Casting Practice B			開講期	後期集中	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	陶山 伸一 (非常勤・実務経験)										
研究室	硯川実習室107					オフィス アワー 授業の前後					
メールアドレス	katsuno@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	技法 窯 溶解 蝋 ブロンズ										
授業概要	蝋型鑄造に対する理解を深め、実習によって蝋の合わせ方、流し方、窯の組み方、火入れ、焼成、合金の割合、金属溶解、鑄込み、仕上げなどについて、確実に安全な方法を身につける。本授業を通して汎用的造形力・表現力を体得し、人間社会の構築や発展に持続的に貢献できる能力を身に付けることで、幅広い視野を涵養し積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を養う。							関連科目			
								彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…彫刻							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	蝋型鑄造に対する理解を深めることができる									
	②	安全に作業を行うことができる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	10	60	10	20	100		
教科書	プリント										
参考書	プリント										



予備知識	彫刻実習1A、1B、2A、2B、3A、3B
DPとの関連	1.造形活動を通して培った汎用的造形力・表現力を通して、社会への関わり方や発展に持続的に貢献できる能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】 2.課題を通して幅広い視野を涵養し、積極的かつ柔軟に取り組む姿勢を身に付ける。【態度・志向性】
実務経験のある教員	陶山 伸一
評価明細基準	出席・課題の取り組み・到達度などを考慮し、総合的に評価する。

実習中に適宜指示する。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	講義で工程の流れを知る	80
	内容	蠟型鑄造法とは			
2回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	蠟の特性を知る	270
	内容	蠟原型制作			
3回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	窯詰め、焼成 火入れ、鑄型の焼成をする			
4回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	工程のポイントを学ぶ	450
	内容	鑄込み			
5回	テーマ	鑄造技法	対面授業  実習	到達度ポートフォリオの作成	90
	内容	仕上げ 型を割り、湯道、釘を抜く 酸洗い、着色、色止めをする			

科目名	日本・東洋美術史特論Ⅱ*4(3美)			開講学年	3	講義コード	2676501	区分	選必		
英文表記	Japanese/Eastern Art History, Advanced II			開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2		
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208					オフィス アワー 水曜日5限					
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	アジア(東アジア/東南アジア/南アジア) アジア美術 西洋近代										
授業概要	我々はアジアに住んでおり、特に九州は古来より、アジアの国々との交流の玄関口として機能してきた。そして、21世紀に入り、いよいよアジアの国々が活気づく時代を迎えた。しかしながら、我々日本人は未だアジアのことをよく知らないでいる。本講義はアジア諸国が日本と同様に「西洋近代」を受け入れ、近代化し、自国のアイデンティティーをどのように視覚的に表現してきたか、特にアジアの近現代美術を通して、今後の世界を眺める上でも、今一度「アジアとは何か?」という命題について考えていきたい。その際、アジア美術を専門とする福岡アジア美術館の作例を題材として、受講者各自の研究テーマを設定し、それについて受講者とともに討論していく。本講義を通して、アジア世界を考えることにより、異文化理解を出来るような幅広いものの見方や考え方を身につけていく。各地域講義の終了後のプレゼンテーションにより受講生へのフィードバックをする。							関連科目			
								日本美術史/東洋美術史/西洋美術史/美術概論/日本文化特論(近代)/アートマネジメント論/美術ジャーナル論			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目/教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
①	アジアの近現代美術の作品を通して、その制作背景や歴史的背景を理解し、我々が住むアジアとは何かを考え、その近代化がどのように進み、アジア各国のアイデンティティーを表明していったかその過程を理解する。										
②											
③											
④											
⑤											
⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	20	0	30	40	0	10		100		
教科書	基本資料は以下の通り、購入必要なし。 アジアコレクション100(福岡アジア美術館所蔵品選) 福岡アジア美術館 福岡アジア美術館編 アジアコレクション70(福岡アジア美術館所蔵品選) 福岡アジア美術館 福岡市美術館編 インド ポピュラー・アートの世界 近代西欧との出会いと展開 三尾稔・福内千絵 千里文化財団 新版 韓国 朝鮮を知る事典 平凡社 伊藤亜人 監修										
参考書	平壤美術(ピョンヤン・アート) 青土社 文凡綱(ムン・ボムガン) サンシャワー-東南アジアの現代美術展 平凡社 国立新美術館/森美術館他編 N.S.ハルシャ チャーミングな旅(図録) 森美術館/美術出版 森美術館編 アジアの美術、100年の旅(図録) 福岡アジア美術館 企画・福岡アジア美術館 新版 東南アジアを知る事典 平凡社 桃木至朗 編集										

予備知識	特に予備知識は必要ないが、日ごろアジアのことに関心を向けて貰いたい。
DPとの関連	造形活動および芸術文化研究に必要なグローバルな視点を通したものの見方、アジア的感覚を学ぶ。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート3本30点、プレゼンテーション資料20点、プレゼンテーション20点、最終試験20点、他SOJOポートフォリオ10点(計100点)

単位修得の条件は①出席3分の2以上②展評提出③プレゼンテーション④最終試験受験をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	序論(第1回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	90
	内容	アジア美術の見方(作品を観る道標など)	講義		
2回	テーマ	東アジア①(第2~3回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	180
	内容	東アジアの近・現代美術の特徴(中国)	講義/SDG		
3回	テーマ	東アジア②(第4~5回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	180
	内容	東アジアの近・現代美術の特徴(朝鮮半島)	講義/SGD		
4回	テーマ	第6回	対面	研究発表の準備	90
	内容	受講者による作品の研究発表	演習/SGD		
5回	テーマ	東南アジア①(第7回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	90
	内容	東南アジアの近・現代美術の特徴	講義/SGD		
6回	テーマ	東南アジア②(第8回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	90
	内容	東南アジアの近・現代美術の特徴	演習/SGD		
7回	テーマ	第9回	対面	研究発表の準備	90
	内容	受講者による作品の研究発表	講義		
8回	テーマ	南アジア①(第10回)	対面	「N.S.ハルジャーチャーミングな旅」展(予定)を取り上げる。	90
	内容	近年のインドの現代美術展の動向について	講義/SGD		
9回	テーマ	南アジア②(第12回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。	90
	内容	南アジアの作品を知ろう!(インド・スリランカ)	講義/SGD		
10回	テーマ	南アジア③(第13回)	対面	テキストの内容を精読しておくこと。研究発表の準備	90
	内容	南アジアの作品を知ろう!(パキスタン・ネパール他) 受講者による作品の研究発表	講義/SGD		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	アジア美術をみる(第14~15回)	対面	展評作成を含む。(新型コロナウイルス感染状況により変更 することがあります。)	180
	内容	福岡アジア美術館見学.....常設展見学(12or1月開催予定)	見学		
12回	テーマ	最終試験(第16回)	対面	これまでのテキストの復習	90
	内容	最終論述試験あるいはアジア美術に関する英文和訳試験	試験		



科目名	地域文化特論（九州）＊6（3美）				開講学年	3	講義コード	2676701	区分	選必	
英文表記	Regional Culture Study Advanced: Kyushu Area				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A313						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	九州 熊本 芸術文化										
授業概要	美術学科の教育目標の一つに専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付けることが挙げられるが、本科目は芸術文化コースの学生にとって、芸術文化に関する汎用的な調査・研究方法を身に付ける上で必要不可欠な科目である。令和3年度は、熊本県内の幾つかの神社とそこに配されている絵馬について台帳作成や図書館での文献調査などを行い、調査・研究の基本的な方法の修得を目指す。調査結果は、次年度の芸術文化コース学科展でパネル化して展示、公開する。							関連科目			
								日本美術史、考古学と文化財Ⅰ、考古学と文化財Ⅱなど			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・選択【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	フィールドワークの方法や記録方法を身につける。									
	②	実際に現地調査を行うことで知識をより確実なものにする。									
	③	調査の前後に調査対象についての文献調査を行うことで、現地調査と文献調査をもとに自身の考察結果を導く方法を修得する。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	75	0	0	10	15	100		
教科書	くまもと 美と祈りの絵馬行脚 舒文堂 辻 春美										
参考書	絵馬(もの与人間の文化史 12) 法政大学出版局 岩井 宏實 絵馬に願いを 二玄社 岩井 宏實										

予備知識	特になし
DPとの関連	学外(フィールド)での第一次資料の実見や写真撮影、台帳記入、図書館等での文献調査・収集、さらに最終的なレポート作成やパネル作成といたり一連の過程を経験することで、課題解決のための技術や知識、論理的思考力を身に付け、人間社会の構築や芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を修得する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	成績の評価は、課題(85点)提出と出席・参加率(15点)によって行い、合計60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再履修とする。

現地調査・写真撮影等がある。完成させた調査台帳の提出とテーマに関する総論(レポート)提出、並びに学外を含む図書館等での調査がある。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概説	対面	配布資料の熟読(復習)	90
	内容	オリエンテーション(授業についてのガイダンス、神社・絵馬についての概説・講読)	講義・演習		
2回	テーマ	神社と絵馬	対面	配布資料の熟読(復習)	90
	内容	絵馬とは？絵馬に描かれたさまざまな主題	講義 演習		
3回	テーマ	熊本の絵馬	対面	配布資料の熟読(復習)	90
	内容	熊本の神社にある絵馬	講義 演習		
4回	テーマ	調査計画	対面	調査が不十分な場合は完了させること	60
	内容	調査計画と調査する神社・絵馬についての事前調査	演習 AL		
5回	テーマ	フィールドワーク	対面	画像整理・台帳入力	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
6回	テーマ	フィールドワーク	対面	画像整理・台帳入力	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
7回	テーマ	文献調査	対面	収集した資料の整理・熟読・パネル用原稿作成	90
	内容	図書館における文献調査(熊本県立図書館等における関連文献調査・収集)	AL PBL		
8回	テーマ	フィールドワーク	対面	画像整理・台帳入力	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
9回	テーマ	フィールドワーク	対面	収集した資料の整理・熟読・パネル用原稿作成	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
10回	テーマ	文献調査	対面	収集した資料の整理・熟読・パネル用原稿作成	90
	内容	図書館における文献調査(熊本県立図書館等における関連文献調査・収集)	AL PBL		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	フィールドワーク	対面	画像整理・台帳入力	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
12回	テーマ	フィールドワーク	対面	画像整理・台帳入力	60
	内容	フィールドワーク(現地調査・写真撮影)と台帳作成	AL		
13回	テーマ	文献調査	対面	収集した資料の整理・熟読・パネル用原稿作成	90
	内容	図書館における文献調査(熊本県立図書館等における関連文献調査・収集)	AL PBL		
14回	テーマ	パネル原稿作成	対面	未完のパネル原稿や台帳を整理	60
	内容	パネル原稿作成・完成、台帳とパネル原稿の完成・添削	AL		
15回	テーマ	パネル原稿作成	対面	未完のパネル原稿や台帳を整理	60
	内容	パネル原稿作成・完成、台帳とパネル原稿の完成・添削	AL		
16回	テーマ	提出		添削を受け、修正したものを提出	180
	内容	完成した原稿の提出	AL PBL		
17回	テーマ				180
	内容				

科目名	宗教芸術・文化Ⅱ（アジア）＊6（3美）				開講学年	3	講義コード	2676901	区分	選必	
英文表記	Religious Art&Culture II : Asian society				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	2	
担当教員	永田 郁										
研究室	芸術学部棟A208							オフィス アワー 水曜日5限			
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	線 人類学 ティム・インゴルド 芸術 考古学										
授業概要	本講義はアジアの宗教芸術・文化について、アジアの多種多様な宗教芸術・文化の諸相を読み解いていく。アジアの宗教芸術・文化を理解するために本講義では、ティム・インゴルドの『メイキング 人類学・考古学・芸術・建築』を講読して、「つくること」をテーマとし、各章について受講者による事前レジュメ・事後レポートを作成することにより、異文化理解について幅広い認識・知識をもって、捉えられるような考え方、ものの見方を身につける。各章ごとの事前／事後レポートについて授業中に受講生にフィードバックをする。							関連科目			
								日本美術史／東洋美術史／日本・東洋美術史特論I/日本・東洋美術史特論II			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】・・・選択【科目区分】・・・教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】・・・美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	ティム・インゴルドの線を手掛かりに様々な観点から思考することが理解できる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	55	0	35	0	0	10	0	100		
教科書	メイキング 人類学・考古学・芸術・建築 左右社 ティム・インゴルド 生きていること 左右社 ティム・インゴルド 上記のテキストは購入の必要なし、適宜コピーを配布する。										
参考書	ライズ 線の文化史 左右社 ティム・インゴルド ライフ・オブ・ライズ 線の生態人類学 フィルムアート社 ティム・インゴルド 人類学とは何か 亜紀書房 ティム・インゴルド 現代思想 3月臨時増刊号2017vol.45-4 青土社 たぐいvol.1~4 亜紀書房 奥野克巳他編										

予備知識	特に予備知識は必要ないが、文化人類学とは何か、基礎的なことは把握しておいて貰いたい。
DPとの関連	線の文化を学びながら、芸術文化研究に必要な人文科学的な視点から人間社会の発展に貢献できる知性を育む。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義中の討議参加等および課題レポート(35点)最終記述試験(55点)、ポートフォリオ(10点)で評価する。

講義中に抱いた疑問や関心事を自分の課題として展開していくかが必要となる。単位修得の条件は①出席3分の2以上、②課題提出および最終記述試験をすべて満たしていること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	序論(1回)	対面	事前に講義に関する参考文献のテキストを事前に配布するので受講前に必ず精読し、専門用語などわからないものは事前に辞典などリファレンス資料で調べておくこと。また、テキストの内容について要約できるよう準備しておくこと。	90
	内容	授業の進め方&本講義で使用するテキストについて			
2回	テーマ	ティム・インゴルド『メイキング』(2-3回)	対面	事前レジュメ/事後レポート作成	180
	内容	序論・第二章 内側から知ること			
3回	テーマ	ティム・インゴルド『メイキング』(4-6回)	対面	事前レジュメ/事後レポート作成	270
	内容	第二章 生命の素材			
4回	テーマ	ティム・インゴルド『メイキング』(7-9回)	対面	事前レジュメ/事後レポート作成	270
	内容	第三章 握斧をつくること			
5回	テーマ	ティム・インゴルド『メイキング』(10-12回)	対面	事前レジュメ/事後レポート作成	270
	内容	第四章 家を建てること			
6回	テーマ	ティム・インゴルド『メイキング』(13-15回)	対面	事前レジュメ/事後レポート作成	270
	内容	第五章 明視の時計職人			
7回	テーマ	まとめ(16回)	対面	これまでのテキストの復習	90
	内容	最終論述試験			

科目名	美術ジャーナル論*7(3美)				開講学年	3	講義コード	2677001	区分	選択必修		
英文表記	Art journal theory				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2		
担当教員	関根 浩子											
研究室	A313						オフィス アワー 授業終了後					
メールアドレス	seki1963@art.soyo-u.ac.jp											
キーワード	美術ジャーナリズム 批評理論 芸術制作 キュレーション											
授業概要	美術ジャーナリズムは、作品制作やキュレーション、批評理論といったさまざまな専門性の観点から、一般の読者に対して、同時代の芸術実践の動向やその歴史と理論を、報道や批評、インタビューといった言表行為を通して伝える役割をもっている。また美術ジャーナリズムは、芸術に関するイベントや出来事の客観的な報告や記述によって時代を記録するアーカイブ機能とともに、主観的な美的判断によって作品や展覧会の質を世に問う批評の役割も担っている。「美術ジャーナル論」では、以上のような美術ジャーナリズムの役割や美術ジャーナリストに求められる能力、資質を理解し、自身が美術ジャーナリストになったと想定して、展覧会や作品、文化財などについて報告、記述できるようになることを目指す。フィードバックは、作成した記事やプレゼンに対する添削やコメントの形で行う。								関連科目		芸術学部の全科目、芸術文化コースの全科目、理論系の総合教育科目など	
	建築学科のみ		建築総合	建築計画	建築構造							
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	美術ジャーナリズムの変化と現状が理解できるようになる。。										
	②	美術作品の批評のポイントが理解できるようになる。										
	③	美術作品の批評ができ、批評文が書けるようになる。										
	④	芸術関連のイベントや出来事の客観的な報告や記述ができるようになる。										
	⑤											
	⑥											
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	0	0	50	25	0	10	15	100			
教科書	適宜資料を配布する											
参考書	芸術と芸術批評 岩崎出版社 M. フリートレンダー 美学の事典 丸善出版 美学会 芸術のパトロンたち 岩波新書 高階秀爾 美術批評史 みすず書房 L. ヴェントゥーリ											

予備知識	特になし
DPとの関連	汎用的基礎力と専門知識を身につけた応用力を有する専門家として、豊かな芸術文化の創生に貢献できる人材を育成する。
実務経験のある教員	
評価明細基準	評価は、記事(レポート)やプレゼンテーション、ポートフォリオ、授業への出席状況。積極性などを基準に総合的に行う。

新聞や美術雑誌にこまめに目を通し、参考になると思ったら切り抜いたり、コピーをとるようにしたりして欲しい。学科展用に記事を最終的にイラレで作成する場合もある。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	対面	1回目の配布資料の復習。	20
	内容	科目の目標や進め方、評価などについて説明・美術ジャーナリズムの役割	講義		
2回	テーマ	「見る」ということ	対面	2回目の配布資料の復習	20
	内容	M. ライト・リンダールの著書を参考に「見る」「観る」ことについて考察	講義 SGD		
3回	テーマ	形体・色彩・色調・光・金	対面	3回目の配布資料の復習	20
	内容	批評する上で知っておくべき基本事項(形体・色彩・色調・光・金)についての学習	講義 SGD		
4回	テーマ	近景・遠景、遠近法、構図	対面	4回目の配布資料の復習	20
	内容	批評する上で知っておくべき基本事項(近景・遠景、遠近法、構図など)についての学習	講義 SGD		
5回	テーマ	絵画・彫刻のジャンル	対面	5回目の配布資料の復習	20
	内容	批評する上で知っておくべき基本事項(宗教画、世俗画、裸体画、風俗画、風景画、肖像画、静物画など)についての学習	講義 SGD		
6回	テーマ	新聞・雑誌の記事の分析(1)	対面	取り上げた記事を復習するとともに、自宅で行っている新聞の記事にも目を通す。	20
	内容	新聞や雑誌に掲載された記事を数件取り上げ、それらを読んで分析する	講義 演習		
7回	テーマ	新聞・雑誌の記事の分析(2)	対面	取り上げた記事を復習するとともに、自宅で行っている新聞の記事にも目を通す。	20
	内容	新聞や雑誌に掲載された記事を数件取り上げ、それらを読んで分析する	講義 演習		
8回	テーマ	新聞・雑誌の記事の分析(3)	対面	取り上げた記事を復習するとともに、自宅で行っている新聞の記事にも目を通す。	20
	内容	新聞や雑誌に掲載された記事を数件取り上げ、それらを読んで分析する	講義 演習		
9回	テーマ	新聞博物館見学	対面	視察した新聞博物館に関する情報整理	30
	内容	熊本日日新聞本社内にある熊本唯一の新聞博物館員による説明を受ける。	AL		
10回	テーマ	新聞博物館見学	対面	視察した新聞博物館に関する情報整理	30
	内容	新聞博物館の展示物、展示方法の視察・考察	AL		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ	新聞博物館視察報告の作成	対面	未完成の場合は完成させる。プレゼンの準備。	60
	内容	視察報告の執筆・完成	演習		
12回	テーマ	展覧会視察	対面	視察した展覧会に関する情報整理	30
	内容	展覧会視察・メモの作成・資料収集・写真撮影・インタビューなど	AL		
13回	テーマ	展覧会案内・批評を書く	対面	展覧会案内・批評の作成	30
	内容	収集した資料や情報、撮影した写真をもとに記事(展覧会案内や作品批評)を書く	演習		
14回	テーマ	展覧会案内・批評を書く	対面	未完成の場合は完成させる。プレゼンの準備。	60
	内容	記事の完成(添前後の修正を含む)	演習		
15回	テーマ	発表、総括	対面	提出物(記事)の準備	90
	内容	プレゼンテーション、全体のまとめ	講義 AL		
16回	テーマ	16			
	内容	課題提出			

科目名	考古学と文化財Ⅱ（保存・修復）＊7（3美）				開講学年	3	講義コード	2677201	区分	選必	
英文表記	Archeology and Cultural Property II : Preservation & Restoration				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	2	
担当教員	有木 芳隆（非常勤） 中村 賢次										
研究室	芸術学部 非常勤講師室						オフィス アワー 授業日、講義後の1時間				
メールアドレス	ariki-y-dk@pref.kumamoto.lg.jp										
キーワード	文化財保存 修復										
授業概要	<p>美術学科の人材育成の目標のひとつに、美術領域の専門家として基礎的な知識や技術を総合的に身につけることが挙げられるが、本科目は芸術文化コースの学生のみならず実技コースの学生にとっても、文化財に対する基礎的知識や技術を習得する上で必要不可欠な科目である。文化財保護法の基礎理念を基に、文化財としての絵画、彫刻、工芸（漆工芸・金工・陶磁器・武器武具など）、古文書歴史資料など、さまざまな美術工芸品の調査法、保存対策、修復法の現状を講義する。また、熊本の文化財（美術工芸品）調査や修復、自然災害時における文化財レスキュー事業についても講義する。本講義は、文化財保護主事や教員・学芸員などが関わる文化財保護の専門的知識を習得するもの。小テストや提出したレポートに対し、個別に講評を行いフィードバックする。</p>							関連科目			
								考古学と文化財Ⅰ、日本美術史			
教職関連区分	【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項（中学校及び高等学校美術）【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
	学生の到達度目標							学修・教育目標			
JABEE記号											
	①	日本美術史の流れや特性を理解することができる。									
	②	文化財保護法の基本理念を理解し文化財修復や保存の概要を修得することができる。									
	③	絵画・彫刻・工芸品・古文書歴史資料などの取扱法と調査、保存、修復について修得することができる。									
	④	熊本の文化財（美術工芸品）の全体像と文化財レスキュー事業について理解することができる。									
	⑤	熊本地震やR2年球磨川洪水における被災文化財の修復と、美術館における災害対策について修得することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	10	50	0	0	10	30	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	日本史、日本美術史などの基礎的知識。
DPとの関連	芸術文化研究において培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で芸術文化研究における専門家として芸術文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	熊本の任意の文化財についてレポートを提出してもらい、その文化財の制作年代や技術的特性、文化財的価値を理解しているかなどを評価する。小テストやポートフォリオにより講義内容の理解や学修達成度をみる。また出席日数も評価に加える。



レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	配布する資料について検討する。	任意
	内容	オリエンテーション(概説)日本美術の流れを学ぶ。	講義		
2回	テーマ	文化財保護法	対面	文化財保護法を読む。	任意
	内容	文化財保護法について。文化財保護法の基本理念と文化財の調査・保存・修復について学ぶ	講義		
3回	テーマ	文化財保存の指針	対面	配布する資料について検討する。	任意
	内容	文化財保存の指針について。文化財保存大綱について学ぶ。また、美術工芸品の保存や修復の考え方について理解する。	講義		
4回	テーマ	文化財の取扱いと保存Ⅰ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	文化財(古絵画)の取扱い法、調査と保存・修復について学ぶ	講義		
5回	テーマ	文化財の取扱いと保存Ⅱ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	文化財(彫刻)の取扱い法、調査と保存・修復について学ぶ	講義		
6回	テーマ	文化財の取扱いと保存Ⅲ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	文化財(工芸品)の取扱い法、調査と保存・修復について学ぶ	講義		
7回	テーマ	文化財の取扱いと保存Ⅳ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	文化財(天名道具、武器武具など)の取扱い法、調査と保存・修復について学ぶ	講義		
8回	テーマ	文化財の取扱いと保存Ⅴ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	文化財(古文書と歴史資料)の取扱い法、調査と保存・修復について学ぶ	講義		
9回	テーマ	文化財の修復Ⅰ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	絵画や工芸品の修復について実例をもとに学ぶ	講義		
10回	テーマ	文化財の修復Ⅱ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	彫刻の修復について実例をもとに学ぶ	講義		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	熊本の文化財Ⅰ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	熊本の古代から中世前半にかけての特色ある文化財について学ぶ	講義		
12回	テーマ	熊本の文化財Ⅱ	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	熊本の中世後半から近世にかけての特色ある文化財について学ぶ	講義		
13回	テーマ	熊本地震と文化財	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	熊本地震による文化財被災の実情と県立美術館における美術品被災と保存対策について学ぶ	講義		
14回	テーマ	文化財レスキュー事業について	対面	配布する資料について検討する	任意
	内容	熊本地震とR2年球磨川洪水被災文化財レスキュー事業について学ぶ	講義		
15回	テーマ	文化財の修復事例	対面	修復された文化財等を現地で見て理解を深める	任意
	内容	熊本市内の社寺の文化財(主に日本画)の修復事例について現地で学ぶ	見学実習		

科目名	芸術文化演習Ⅱ（3美～）				開講学年	3	講義コード	2677401	区分	必修	
英文表記	Art & Culture Studies : Practice II				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	4	
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A312 A208						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	文献検索 資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション										
授業概要	<p>専門家を目指す芸術文化コースの学生にとって必要不可欠の科目である。本科目は、「芸術文化演習Ⅰ」に引き続き、4年次の卒業研究（論文作成）に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究（論文）の遂行に必要な一連の事柄（作品やものの見方や考え方を含む）の指導を行う。「芸術文化演習Ⅱ」では、学術論文を実際に数本読みながら、論文や論文の書き方についてさらに知識を深めた後、学生による研究発表（1名/1週間）を中心に授業を進め、課題を発見し、解決する能力を養う。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全科目			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項（中学校及び高等学校 美術）【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。									
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。									
	③	卒業研究の方向づけが行えるようになる。									
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。									
	⑤	研究成果の発表方法に熟達することができる。									
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	25	0	10	15	100		
教科書	授業の中で個別に指示する										
参考書	授業の中で個別に指示する										

予備知識	テーマに関するある程度の知識。
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・口頭発表の内容、提出された小論文もしくはレポート、出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。

受講生各自の自主的、積極的な取り組みが必要である。また、研究内容の口頭発表、小論文の提出は必須である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	対面	なし	0
	内容	オリエンテーション1 科目のガイダンス	講義		
2回	テーマ	進捗状況報告	対面	報告準備	90
	内容	オリエンテーション2 研究の進捗状況報告	講義 演習		
3回	テーマ	論文講読(日本美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	日本美術史に関する論文講読	講義 演習		
4回	テーマ	論文講読(日本美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	日本美術史に関する論文講読	講義 演習		
5回	テーマ	論文講読(日本美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	日本美術史に関する論文講読	講義 演		
6回	テーマ	論文講読(日本美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	日本美術史に関する論文講読	講義 演習		
7回	テーマ	論文講読(西洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	西洋美術史に関する論文講読	講義 演習		
8回	テーマ	論文講読(西洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	西洋美術史に関する論文講読	講義 演習		
9回	テーマ	論文講読(西洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	西洋美術史に関する論文講読	講義 演習		
10回	テーマ	論文講読(西洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	西洋美術史に関する論文講読	講義 演習		

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	論文講読(東洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	東洋美術史に関する論文講読			
12回	テーマ	論文講読(東洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	東洋美術史に関する論文講読			
13回	テーマ	論文講読(東洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	東洋美術史に関する論文講読			
14回	テーマ	論文講読(東洋美術史)	対面	配布資料の復習	40
	内容	東洋美術史に関する論文講読			
15回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	学生による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
16回	テーマ	論文講読(学生による)	対面	講読した資料の復習	40
	内容	履修学生の研究テーマに関する論文の講読			
17回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	学生による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
18回	テーマ	論文講読(学生による)	対面	講読した資料の復習	40
	内容	履修学生の研究テーマに関する論文の講読			
19回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	学生による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
20回	テーマ	論文講読(学生による)	対面	講読した資料の復習	40
	内容	履修学生の研究テーマに関する論文の講読			



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	学生による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
22回	テーマ	論文講読(学生による)	対面	講読した資料の復習	40
	内容	履修学生の研究テーマに関する論文の講読			
23回	テーマ	口頭発表	対面	発表準備(予習)	180
	内容	学生による調査・研究のP.P.等を使用した口頭発表			
24回	テーマ	論文講読(学生による)	対面	講読した資料の復習	40
	内容	履修学生の研究テーマに関する論文の講読			
25回	テーマ	小論文執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
26回	テーマ	小論文執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
27回	テーマ	小論文執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
28回	テーマ	小論文執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
29回	テーマ	小論文執筆・添削	対面	小論文作成(予習)	120
	内容	研究テーマに関する小論文執筆、添削指導			
30回	テーマ	総括	対面	小論文修正・提出	180
	内容	半期の総括・小論文提出と各学生への今後の指導			

科目名	視覚造形実習ⅢB*8(3美)				開講学年	3	講義コード	2677601	区分	選必	
英文表記	Visual Arts Work IV				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	8	
担当教員	永田 郁 野島泉里(非常勤) 野島マーサ(非常勤) 森英顕(非常勤)										
研究室	芸術学部棟A208(永田) 硯川実習棟303/102(非常勤)							オフィス アワー 水曜日5限			
メールアドレス	mahabala@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	作品制作 現代アート ポートフォリオ										
授業概要	本実習は視覚造形実習ⅢAの内容を展開し、最終的に受講生による硯川実習棟における作品展示(The 3rd Floor)を目指す(卒業制作)。またそれに伴う作品のドキュメンテーションも並行して実施する。第二の目的としては、受講者のポートフォリオ作成により1年間での活動をまとめる作業も同時に実施していく。また、本実習におけるThe 3rd Floorの際の講評会を通して、汎用的なプレゼンテーション能力も身につける。各講師の担当曜日は以下の通りである(予定*R4年度時間割で確認して下さい)。月3-4限:野島(泉)講師[美・非常勤] 火1-2限:森講師[美・非常勤] 水1-2限:野島(マ)講師[美・非常勤] 金1-2限:永田							関連科目			
								視覚造形実習ⅠA・B/ⅡA・B/ⅢA/デザイン表現演習Ⅰ/Ⅱ/学外演習(視覚)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	総合的表現の成果として硯川実習棟の教室を使用した作品制作を実施し、様々なイメージを統合的に表現できるようになる。									
	②	社会への進出へ向けてポートフォリオ作成により3年間での芸術学部の学びを社会とつないでいくについて実践的に理解できるようになる。									
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	20	20	50	10	0	100		
教科書	特に指定しない										
参考書	アート・インダストリー 究極のコモディティーを求めて 美学出版 辛美沙 ポートフォリオをつくらう! フィルムアート社 青山学院大学大学院社会情報学研究所ヒューマンインノベーションコース他 ポートフォリオ見本帳 MdNコーポレーション 尾形美幸 自分を切りひらくアート フィルムアート社 高橋瑞木・フィルムアート社編 LEAP Before You Look Black Mountain College 1933-1957 Yale University Press H. Molesworth										

予備知識	
DP との 関連	造形活動を通して総合的な問題解決の方法を学ぶ。
実務経験 のある 教員	
評価明細 基準	プランニング&リサーチ、制作、作品発表(プレゼン)の評価、制作実習による評価(70点) ポートフォリオ(20点)、SOJOポートフォリオ(10点)

本実習は内容が多岐にわたるため、リエンションおよび掲示・連絡に注意すること。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ	野島泉里・野島マーサ・森英顕クラス	対面	自由テーマによる作品制作	540× 5週間
	内容	作品制作(自由テーマ)卒業制作への前段階、前期成果を踏まえた作品制作(1st-5th week)	実習		
2回	テーマ	The 3rd Floor Project(6th-15th week)	対面	自由テーマによる作品制作	540×1 0週間
	内容		実習		
3回	テーマ	The 3rd Floor発表・講評(16th week)	対面	作品発表および講評会	180
	内容		発表・講評		
4回	テーマ	永田クラス(金1-2限)	対面	前期に引き続き、地域をフィールドワークする。	180×5 週間
	内容	サインボード実習2 リサーチ作業(1st-5th week)	実習/リサーチ		
5回	テーマ	フィールドワーク実習2 上記リサーチをもとに企画構想から作品あるいは活動をThe 3rd Floorで発表	対面	フィールドワークをもとに作品あるいは活動を発表・実施していく。	180×8 週間
	内容		実習		
6回	テーマ	ポートフォリオ作成	対面	1年間の活動をポートフォリオとしてドキュメントブック(document book)の作成・提出	180×2 週間
	内容		演習		
7回	テーマ	The 3rd Floor発表・講評(16th week)	対面	作品発表および講評会	180
	内容		発表・講評		

科目名	芸術文化演習Ⅳ◎（４美）				開講学年	3	講義コード	2677901	区分	必修	
英文表記	Art & Culture Studies : Practice IV				開講期	後期	開講形態	対面	単位数	4	
担当教員	関根 浩子 永田 郁										
研究室	A313 A208						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	文献検索・資料収集 テーマ設定 論文執筆 プレゼンテーション AL、PBL										
授業概要	<p>課題発見力や解決能力を身に付けて論文提出を目指す芸術文化コースの学生にとって必要不可欠な科目である。本科目は、芸術文化演習の最後の科目であり、卒業研究(論文)提出に向けて、研究課題の設定や研究の方法、論文の構成や書き方など、卒業研究(論文)の遂行に必要な一連の事柄(作品やもの見方や考え方を含む)の最終指導を行う。「芸術文化演習Ⅳ」でも、各学生の研究テーマに関する学術論文を数本読みながら、論文や論文の書き方についてさらに知識を深めた後、後半は学生の論文の構成指導・添削指導も開始して完成させ、その一連の作業の中で汎用的解決能力を養う。フィードバックは、プレゼンに対する講評や、論文の赤入れ添削、構成の組み換え等の指導の形で行う。</p>							関連科目			
								芸術文化コースの全科目			
教職関連区分	<p>【教員免許状取得のための必修・選択】…選択【科目区分】…教科及び教科の指導法に関する科目／教科に関する専門的事項(中学校及び高等学校 美術)【各科目に含めることが必要な事項】…美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)</p>							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	卒業研究のために確実な資料収集が行えるようになる。									
	②	卒業研究のために的確な問題設定ができるようになる。									
	③	卒業研究の方向づけが行えるようになる。									
	④	研究成果を論文の中での的確に展開できるようになる。									
	⑤	研究成果の発表方法に熟達できるようになる。									
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	25	0	10	15	100		
教科書	授業の中で個別に指示する										
参考書	授業の中で個別に指示する										

予備知識	テーマに関する深い知識
DPとの関連	芸術文化研究における専門家となるための知識や技術、特に論文執筆のための調査研究方法や技術を身に付けることで、社会においても芸術文化の研究や発展に貢献、寄与できるようにする。
実務経験のある教員	
評価明細基準	平常の討議・口頭発表の内容、提出された小論文もしくはレポート、出席状況、ポートフォリオによって総合的に評価する。

受講生各自の自主的、積極的な取り組みが必要である。また、研究内容の口頭発表、小論文の提出は必須である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)



## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	概説	対面	科目のガイダンス	90
	内容	オリエンテーション1			
2回	テーマ	進捗状況報告	対面	研究の進捗状況報告	90
	内容	オリエンテーション2			
3回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
4回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
5回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
6回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ文・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
7回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
8回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
9回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文・文献検索・取寄せ・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
10回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
12回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
13回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
14回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
15回	テーマ	論文講読	対面	論文内容の整理・問題点抽出(復習)と論文取寄せ・文献検索・作品調査	180
	内容	研究テーマに関する論文・単行書講読			
16回	テーマ	口頭発表	対面	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
17回	テーマ	口頭発表	対面	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
18回	テーマ	口頭発表	対面	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
19回	テーマ	口頭発表	対面	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			
20回	テーマ	口頭発表	対面	研究のP.P.等を使用した口頭発表準備	180
	内容	学生による研究発表			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
22回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
23回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
24回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
25回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆・修正(予習・復習)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
26回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
27回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
28回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
29回	テーマ	小論文執筆	対面	論文執筆指導(添削指導を含む)	180
	内容	小論文執筆・添削指導			
30回	テーマ	総括	対面	半期の総括と各学生への今後の指導	180
	内容	研究総括・小論文提出			

科目名	石膏技法実習A*3(1美)				開講学年	1	講義コード	2678201	区分	必修	
英文表記	Plaster technique work A				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	清島 浩徳 (実務経験)										
研究室	L-A-104						オフィス アワー 木曜日5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	石膏 型取り FRP樹脂取り シリコン型制作										
授業概要	<p>塑像作品を耐久素材に置き換えるための素材として、石膏は欠かせないものである。石膏の性質を理解し、型取りから成型までの流れを理解し体験し、塑像作品を石膏に置き換えられるようになる。また、石膏を表現素材として活用する技法も身につける。また石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようになる。</p>							関連科目			
								彫刻実習 I A、I B			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	石膏素材を自由に扱うことができるようになる									
	②	型取りを理解し、技法を駆使できるようになる									
	③	新しい素材の特性を活用することができるようになる									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	10	10	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	塑像制作作品の完成 型取りから成型にいたるまでの行程を理解する
DP との 関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標を持った授業となっています。
実務経験 のある 教員	清島浩徳
評価明細 基準	石膏型取りを理解し技術を体得できたか 実習の為の準備や自主的な制作ができたか 理解した内容が作品に反映できたか

道具等は各自で必要なものを揃える

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	次回授業の準備説明	150
	内容	内容の理解			
2回	テーマ	石膏素材について	講義、実習	石膏及び必要な道具の準備・購入	150
	内容	石膏の特徴や可能性について理解する			
3回	テーマ	型取り実習	実習	型の分け方、石膏の性質を理解する	150
	内容	キリガネの入れ方 石膏の使用法実習 型取り実習			
4回	テーマ	型取り, 成型実習	実習	石膏の扱い方を理解する	150
	内容	成型実習			
5回	テーマ	型取り 成型実習	実習	割り出しの手順、道具の扱いを理解する	150
	内容	成型、割り出し実習			
6回	テーマ	石膏じか付け制作	実習	石膏の扱い、道具の扱いと応用を理解する	150
	内容	石膏によるじか付け制作			
7回	テーマ	石膏じか付け制作	実習	同上	150
	内容	石膏によるじか付け制作			
8回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	評価	授業内容の理解度を確認する	150
	内容	プレゼンテーション			
9回	テーマ				150
	内容				
10回	テーマ				150
	内容				

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
11回	テーマ				150
	内容				
12回	テーマ				150
	内容				
13回	テーマ				150
	内容				
14回	テーマ				150
	内容				
15回	テーマ				150
	内容				
16回	テーマ				150
	内容				



科目名	石膏技法実習B*3(1美)				開講学年	1	講義コード	2678301	区分	必修	
英文表記	Plaster technique work B				開講期	後期	開講形態	対面授業	単位数	1	
担当教員	清島浩徳(実務経験)										
研究室	L-A104						オフィス アワー 木曜5限				
メールアドレス	hirokiyo@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	FRP樹脂成型 アクリル樹脂成型										
授業概要	石膏素材と同じく、FRP樹脂を彫刻の成型素材として使用できることを理解し、その技法を身につけることを目指します。また、石膏やFRPが、型取りや成型の素材としてだけでなく、表現素材としての展開もあることを学びます。また石膏以外の多様な材料や異なる材料を組み合わせたり、新しく開発された素材などの特性を活用したりして、試行錯誤しながら新たな表現方法を発見したり思いついたりするなど、多様な表現を追求できるようになる。							関連科目			
								石膏技法実習A 彫刻実習IA IB			
教職関連 区分								建築学科 のみ	建築 総合	建築 計画	建築 構造
								学修・教育 目標			
JABEE 記号	学生の到達度目標										
	①	塑像作品の型取りができるようになる									
	②	アクリル樹脂の使用方法を理解できるようになる									
	③	アクリル樹脂成型ができるようになる									
	④	彫刻作品の着色ができるようになる									
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	0	20	60	10	10	100		
教科書	特になし										
参考書	特になし										

予備知識	FRP樹脂とは何かを知っておく
DPとの関連	芸術や文化における専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付け、造形活動や芸術の研究を通して培った豊かな感性や高い倫理観を持った、社会人となるための修練や、あらゆる物事に真摯に取り組む姿勢を持つ人物の育成を目指すとともに、社会における芸術の役割を認識した上で、現代の課題を発見し、それを解決することによって未来の文化形成に寄与し、社会貢献できる人物を育成するという目標に沿った授業となっています。
実務経験のある教員	
評価明細基準	アクリル樹脂の使い方が理解できたか アクリル樹脂成型ができるようになったか 石膏を自由に使用できるようになったか 着色ができるようになったか

危険な薬品等も使用するので、服装、有機溶剤対応のガスマスク等の準備が必要です

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		開講形態 授業形態	学習課題 (予習・復習)	時間 (分)
1回	テーマ	オリエンテーション	講義	FRPの特性を理解する	150
	内容	実習概要の説明とアクリル樹脂についての講義			
2回	テーマ	型取り	実習	石膏の型取りを理解する	150
	内容	石膏による型取り			
3回	テーマ	型取り、粘土掻き出し	実習	粘土のかき出し方を理解する	150
	内容	型取り、粘土掻き出し			
4回	テーマ	アクリル樹脂成型	実習	アクリル樹脂成型を理解する	150
	内容	アクリル樹脂成型			
5回	テーマ	アクリル樹脂成型	実習	同上	150
	内容	アクリル樹脂成型			
6回	テーマ	割り出し	実習	割り出し方を理解する	150
	内容	割り出し			
7回	テーマ	修正、着色	実習	修正、着色の作業を理解する	150
	内容	修正、着色			
8回	テーマ	プレゼンテーション 講評、評価	プレゼン 評価	実習の理解度を確認する	150
	内容	プレゼンテーション 講評、評価			